

〔表紙〕

新納久仰雜譜

安政四年巳三月十六日

ヨリ

七月廿九日マテ

「安政四年巳三月十六日ヨリ七月廿九日マテ 中」

一三月十六日、晴天、吉田七郎事当所迄致誘引、同役上村笑之丞近親之由ニ付彼方一宿ニテ今朝打立、出水之様帰ヘリニテ候事、

一拙者共事ハ四ツ時分山野打立、上村笑之丞始地方検者并所役々召列大口之様差越候、中途山野ヨリ流レ出候大川面、淵邊村・渡田村之内大蘆村手牛川井手等ヨリ、川面水当リ強ク双方共大破損之場所所有之、西水流辺ハ

新田新田水道筋モ危ク、現地ヲモ荒居候場所所有之候付、御普請之吟味共イタシ、有村隼治支配ノ高柳新村人配仕居人ノ場所等致見分、隼治木屋ヘ立寄緩々休ミ候、尤地頭代伊地知喜十郎始隼治其外役々共郡山辺ヘ出迎候間、宇佐八幡ヘモ参詣別当郡山寺ヘモ立寄候、右旁イタシ夫ヨリ西水流之家来多賀安右衛門所ヘ立寄昼飯共仕廻、夫ヨリ猶又西水流辺川筋水当リ或ハ大田井手等諸所致見分、夫ヨリ里村榮勞共少々致見分、大鐘時分木之氏村飯屋ヘ参着致安心候事、

一今日拙者差入ニ付、西水流並木之氏家来共壯年之者ハ都テ致改服、里村之内迄出迎先供イタシ木之氏迄先例之通付添候事也、尤人数三十人余ニテ候、其外老幼ハ中途通り筋ヘ出迎候事也、

(伊地知孝通)

一今晚笑之丞始喜十郎并所役々木之氏役々共モ見廻、勿論正之丞・喜八郎・茂右衛門等イツレモ飯屋ヘ打寄り、家来共ヨリ取持之焼酎共取ハヤシ、賑ヤカ成咄イタシ候相応夜更ケ候事也、尤此節ハ拙者モ久々振り殊ニ難

有御役ヲモ被 仰付候已後初テノ事ニテ、旁家来共モ喜悅不斜模様ニテ拙者モ大慶之事也、

黒木平左衛門

親類へ

一 鹿府ヨリ召列候家来市來龜太郎事水引ニテ病氣差起、残シ置為致養生候処、快方ニテハ相成候へトモ急々不致平快、昨夕方宿元江列婦折角養生之由、乍去懸念無之病体ニ候旨今日届承候事、

一 三月十七日、晴天、朝昼曇リ雨粒モ少々落候得共無程

快晴相成、今朝モ曇リ候へトモ追々為勝天氣相成、此節之廻勤中天氣勝ニテ大キ仕合ノ事也、

巳三月十七日

御用達

伊東茂右衛門

一 今日ヨリ五六日ハ当所滞在ヲイタシ、諸用向相弁シ候

右之通茂右衛門旅宿ニテ親類へ申渡為致候事、

賦也、仍テ今朝ヨリ知音之郷士共始木之氏・西水流家来共追々見廻、多人數ニテ名前等ハ不得記候事、

一 昼時分ヨリ木之氏村諏訪社并飛諏訪社へ改服ニテ致参詣、彼は見分且下知イタシ、直ニ支度替ニテ模寄山野

一 木之氏家来黒木平左衛門外ニ式人、江口嘉兵衛跡式一件ニ付無調法之儀有之、兩人ハ一昨年比咎目申付候へトモ、平左衛門事ハ病氣ニテ今ニ其儀不相調、是迄在宿ニテ罷在候ニ付今日左之通赦免申渡候、

田島且此内築調置候溜池等モ致見分、夫ヨリ山島之方へモ相廻リ家来共居家并田島致見分、本諏訪ノ山へ差越立込ノ杉木共致見分、八ツ時分飯屋へ帰り候事、

一 七ツ後ヨリ飯屋近方ノ射場ニテ木之氏・西水流ノ家来

共へ鉄砲射方サセ候、人数ハ御軍役ニ付当番非番并彼

人数ト三組ニ人数配申付置候間、其通ニテ修練之為ニ

射方為致候、乍去人数揃不束有之、遅方相始候ニ付、

ヤウ〜二箇ツ、射方致シ候処暮ニ及候事、

一今晚モ笑之丞・喜十郎其外打寄、咄且ハ用向申談、四

時分何レモ帰ヘリニ相成候事、

一三月十八日、快晴也、昨日共ハ至極之暖氣ニテ雨ヲ好

候氣候ニテ、今朝モ押通り暖晴ノ天氣也、

一四時分打立笑之丞・喜十郎其外下役ニモ列立泉徳寺へ

致参詣候、中途篠原村ノ内へ有村隼治計ヒニテ移者仕

居へノ家部共致見分、昼時分泉徳寺へ参り着候、当寺

ハ当春致造替候ニ付細々致見分候処、存之外能出来イ

タシ別テ致喜悅候、右ハ第一地頭代喜十郎心配ニテ、

次ニハ有村隼治・新納五郎右衛・木之氏役々松坂平右

衛門・白坂十右衛門掛リニテ相調候、且木之氏・西水

流家来中ハ勿論青木村檀家中モ致加勢旁以忝キ次第ナ

リ、

右ニ付喜十郎始致太儀候面々江ハ、今日細々致挨拶置

候事、

一今日参詣御仏事相調候ニ付金匚致奉納候、成就寺之

源洲モ参リ御牌前相勤候、左候テ拙者御牌前御墓所共

相仕廻候処、住持ヨリ造替之祝ヒ旁ニテ吸物一通・硯

蓋・并物等二三種ニテ酒、且二汁三菜飯ナト差出候間、

笑之丞・喜十郎始打寄り緩々イタシ罷立、夫ヨリ西原

八幡へ参詣、別当堀之内良元院ヨリ茶共差出候付、堂

内へ暫時休ミ候、此良元宅ハ当初初出火ニテ居宅不残

焼失、当分ハ物置木屋へ家内中打込、庭中モイマタ焼

灰散々ノ体ニテ片付最中ナリ、乍然自宅本堂へハ火モ

不掛残り居、勿論八幡宮ハ隔リ居候ニ付何茂無差障候、

全ク自火之由也、右之所罷立目丸村之内へ十余年以前

天草者仕居へ方良元院計ヒニテ、有村隼治取扱之高柳

新村同様之趣法取起シ、追々愛付候間、右之所榮勞カ

タ〜致見物候処、当分二十家部余愛付居候テ、粗俵

ナトモ程々ニ致格護居候、左候テ同村之田地ニ深沼之  
場所有之仕付モ調兼候ニ付、水氣抜之事相企田地中江  
縦横ニ深溝堀候処、当分ハ余程水氣モ薄ク、最早牛ナ  
ト引入鋤起モ相調候様上地ニ変シ居候、旁良元院大  
功ニテ候、右之彼是致見分居候処少々降り出シ候ニ付  
心急キニテ罷帰、中途篠原村天神社へ致參詣、靈社様  
御代々棟札可致一見サカシ候ヘトモ、子供ニテモ取散  
シ候哉不見得候、夫ヨリ雨モ追々降り増候間日入時分  
飯屋へ直様罷帰候也、

一 染川喜八郎事先日ヨリ足ノ裏ニ底豆コトキノ痛有之候  
処、追々ハレ増候様ニ付今日ハ在宿養生ニ有之候様申  
達シ留守番ナリ、

一 三月十九日、今朝相応ノ雨降ナカラ四ツ時分ヨリ成就  
寺へ參詣、清芳君之御墓并御位牌拝礼イタシ、夫ヨリ新  
納五郎右衛門所へ立寄茶共給へ候、夫ヨリ水ノ手遠翁  
君之御廟所へ參詣、夫ヨリ靈社様へ致參詣候、此御宮

へハ金子百疋致奉納御神樂共奉奏候、尤社司ニ之宮勘  
解由初三人罷出御神前相勤候、此所へ暫ク罷在候内雨  
モ止ミ追々晴候模様ニテ候、夫ヨリ山道通りイタシ長  
峰諏訪社并愛宕へモ致參詣、夫ヨリ専念寺へ差越門一  
様御牌并御石塔へ致拝礼候、此門一君之御石塔ハ段々  
相損居候ニ付、此内地頭代伊地知等へ頭取相頼、肥後  
ノ石工雇入建替イタシ候ニ付、此節初テ致參詣見分旁  
也、然処存通宜敷格好ニ出来上リ、別テ喜悅ノ事ナリ、  
且又御位牌モ相損居候ニ付、此内御造替イタシ候事ナ  
リ、夫ヨリ地頭代役宅へ差越候、此宅モ一昨年造替被  
仰付当分新宅ニテ栖居旁モ宜敷事也、左候テ喜十郎ヨ  
リ昼飯可振廻トノ約束ニ付、笑之丞初列合中ハ勿論家  
来末々迄振廻ニ逢ヒ候、左候テ麓郷士中ノ武芸致見分  
呉候様先日ヨリ承居候間、今日昼飯共相仕廻此役宅庭  
ニテ示現流并有川方水野流・東方同流・鏡智流鑓術為  
致見分イタシ候人数名前等ハ略ス、

暮前相濟候ニ付夫ヨリ急キ地頭飯屋へ差越御座之間始

致見分、且此内御内用計ニテ出来相成候他国流ノ初藏ノ田之板藏ヲモ致見分候処、珍敷仕様ニテ候、然トモ前方吟味通ニテハ初保チモ無之、沢山入付候へハ壁板ナト痛出来始抹難調儀モ有之、当分叭入付ニテ少々初御格護相成居候、全体ハ乱シ初ニテ俵等ニモ不入付板藏ニ一杯込限リ入付候事之由ニ候へトモ、右之御藏ハ其通リ参リ兼、前文通叭入付ニ相成候由承候、右旁ニテ夜入候へトモ地頭仮屋庭ニテ郷士中之踊致見物候、此踊ハ当春泉徳寺造替イタシ候ニ付、祝ヒトシテ郷士中之踊楽続キイタシ候ハ、可然トノ企ニテ、去ル十四日ニ彼寺ニ踊イタシ候由、就テハ拙者モ致一覽度先日ヨリ申入置候付右之通也、尤夜中之故四方中央ヘカ、リ火共焚置、歌揚始大鼓迄之人数ニテ七十人内外モ有之、皆陣羽織・小手・臙当稀ニハ甲冑モ有之、同勢ハ無之役者中之踊ニテ返テ見物涯宜敷、夜ノ目ニテ勇敷感涙ニ及候位也、五ツ半時分ニモ相済候間、惣人数ヘ金子五百疋差遣シ置候、夫ヨリ有村隼治所へ参候様先

日ヨリ承居、余所ナラハ断モ可申入候へトモ、彼方ハ（新納忠元）者翁君以来之由緒ニテ別段之訳合ニ付可立寄申置候テ笑之丞始一同差越候、然処吸物二通り取肴右ニ準シ、酒共差出、飯迄振廻至極之取持ニテ、後ニハ拍子歌ナト始リ、主客謡ヒ立別テ賑ヤカニ相成、不思モ夜更八ッ過時分罷立帰リ候事也、今朝打立ニハ雨天ニテ右等ノ事ハ相調間敷存居候へトモ、昼時分ヨリ追々止ミ晴上リ、武芸モ相調旁能仕合ニテ、今晚ハ晴夜ニテ帰リモ宜敷候、右有村宅ハ親類モ参リ合別テ主居多人数ニテ候事、

一喜八郎足痛快方ナカラ天氣合モアシク旁ニテ、留守番之所右次第何事モ相調、中ニも踊ナト見物無之残り多ク存候事也、

一三月廿日、快晴、今日仮屋諸用向旁下知イタシ候、就テハ段々人出入ニテ日半相過キ候事也、

一八ッ時分ヨリ木之鹿倉模様見物トシテ差越、又木元

右衛門御免ヲ受居候椎茸山、且ハ此内焼調置候柞灰格

一染地麻絹上下一具

護木屋、且島路番所共見分イタシ暮過帰宅ナリ、尤今日

右有村隼治へ、

山奉行所書役モ椎茸山勘場へ御用有之差越候由ナリ、

右式行鹿府ヨリ可遣旨申置候、

一今晚用達并正之丞ハ麓居住寺師宗兵衛所へ、喜十郎誘

一金子三百疋

引ニテ差越一宿之筈也、依テ拙者旅宿淋敷早目ヨリ寝

新納五郎右衛門

候事ナリ、

松坂平左衛門

白坂十右衛門

一三月廿一日、朝曇東風夜前ヨリ騒々敷風立候事ナリ、

右三人へ尤掛リ申付置候故也、

今朝五時分木崎原ニテ大口中之人数御軍役調練見分イ

一青銅百疋

タシ候、尤先日ヨリ承居候故也、随分宜敷出来候、右

主取大工  
寺師十太郎

相濟ヨリ村内少々致見分帰宿也、

一此節泉徳寺造替ニ付預世話候地頭代伊地知并有村始家

一金子五百疋

来共迄モ、左之通り品物遣置候也、

木之氏西水流家来トモ

一三階房

茅・竹・縄等致寄進且ハ

一手助

加勢夫イタシ候ニ付

一手綱

右之通惣相中江

右伊地知喜十郎へ、

一金子二百疋

青木村也、

泉徳寺檀家ヨリ致加勢

候ニ付

惣相中へ

メ金式両式歩

メ青銅百疋

右之通成就之為礼銘々包方イタシ茂右衛門ヲ以相渡接

搦共イタシ置候事、

一四ツ後時分飯屋ニテ木之氏并西水流家来共武芸致見分

候事、

一右相濟飯屋近所之射場ニテ所郷士中之弓・鉄砲致見分

候、先日ヨリ承居候故也、弓ハ三の老建ニツ矢ナシ、

鉄砲ハ三寸角二筒ツ、ニツ星寺原彦右衛門・須佐美覺

二之兩人也、弓惣人数七十二人、鉄砲惣人数七十三人

ニテ候、ニツ星兩人へハ塩硝壹斤ツ、為褒美差遣旨達

シ置、品物ハ鹿府ヨリ可遣旨達シ置候、今朝ヨリ東風

ニテ少々雨モ降り候へトモ、弓・鉄砲共兎角相濟ミ能

キ都合之事ナリ、

一明朝打立歸リ之筈ニ付今夕ヨリ致仕廻方且ハ家来共并

郷士中モ段々見廻、且土産取遣リ等モ有之別テ取込候、

夫故見廻且土産品送り之名前等ハ家来共へ書留方申付

置候、左候テ今晚ハ家来中ヨリ名残咄トシテ焼酎共差

出候間、列合中寄合候事也、

一喜八郎事追々足痛快方ナカラ今以相応之事ニテ、今日

モ終日在宿ニテ養生候事、

一木之氏滞在中ハ賄方旅籠払ニ無之、段々差引等モ有之

候ニ付、旅籠旁トシテ金子壹両残シ置、家来中モ打寄

リ跡祝ヒ焼酎ニテモ給へ候様申達置候事、

一有村隼治并所役々ノ内松永傳兵衛・永井良右衛門混ト

木之氏村相詰致世話候間、右三人相中へ金百疋残シ置

同断申達置候事、

一三月廿二日、昨夕方ヨリ細雨ニテ夜前中モ降り、今朝

モ相応之雨ニテ候へトモ、仕廻方イタシ五ツ過時分打

立罷帰候、右ニ付木之氏西水流之家来共毎之通木崎原  
辺迄家内老幼出送り、壮年之者共ハ西水流或ハ曾木滝  
下迄供イタシ見送り参候者共多人数也、木之氏ヨリ西  
水流罷通り羽月金波田村中宿郷士柳田弥兵衛所へ休ミ  
此近所へ中宿ノ家来原田芳太郎召呼見候、夫ヨリ本城  
下手村菅原水天社へ致参詣、夫ヨリ曾木之滝共見物イ  
タシ、御藏元之御用宿当分東郷・町田代某致支配候御  
用宿へ致昼休飯共給へ、左候テ大口手・本城手之両御  
藏致見分御藏下之ヨフラノ瀬ト云難場、船下シ或ハ空  
船引登今方共詰合見聞役平瀬宗八郎差函ニテ致見物、  
此所ニテ伊地知喜十郎・有村隼治等ハ相別レ鶴田之様  
差越候、中途宮之城飛地求名村へ小休、此所へ樋脇方  
限受持都奉行山下喜三次出迎有之、上村笑之丞ハ此所  
ニテ別レ、彼ハ曾木・長野へ差越候由、夫ヨリ喜三次案  
内ニテ鶴田へ差入、麓郷士山下喜三右衛門所へ暮着前  
一宿イタシ候、且大口木之氏家来役目之内松坂平右衛  
門・白坂十右衛門無役松坂平八・芝原善藏且又新納五

郎右衛門モ付添参リ今晚ハ一宿之筈也、

一此山下喜三右衛門ハ所中ニテ奄兩人之内福者ニテ、居  
宅表の方へハ

宰相様先年被為

入候御座之間モ有之候所也、

一染川喜八郎事モ足痛快方ナカライマタ平快無之候ニ付  
昨日ヨリ正之丞其外モ申談之上今朝ヨリ駕籠ニテ打立  
木之氏ヨリ直ニ加治木へ出、夫ヨリ船ニテ帰り候様相  
進メ駕籠之手当イタシ、木之氏家来中村平藏事拙者用  
向モ有之候ニ付彼是ニテ喜八郎へ召付差越候、尤昨日  
ヨリ雨天殊ニ拙者共事諸方隙取候事ニ付、右之通及吟  
味候次第也、

一今晚旅宿へ山下喜三次始地方検者共被参段々咄有之、

面白キ普請咄シモ承リ候事ナリ、

一三月廿三日、夜前中雨、今朝モ少々降り候へ共五時分  
打立、旅宿ヨリ道法八町位モ有之由鶴田之内神子東次

御米積船下シ方致見分候、是以滝下詰平瀬宗八郎差越居差図ニテ十艘余下シ方有之、至テ違者成乗方ニテ候、右東次上ヨリ正之丞・茂右衛門井家来共両三人乗船イタシ宮之城轟下迄差越候、拙者共ハ右轟下之方見分濟ヨリ陸地罷通、宮之城轟キヘ差越此所同断御米積船下シ方致見分候、是モ同断之乗方ニテ、至極不致練熟候テハ參リ兼候事ニ見及候、夫ヨリ同所山方番所井大口手本城出御米津下シ屯所ヘ差越致見分候、此所ニテ宗八郎ハ相別レ候、夫ヨリ祇答院組御藏致見分、夫ヨリ宮之城客屋ヘ立寄候、此所立寄之儀ハ前以ヨリ承居候故也、仍テ茶漬一通リ振廻有之、且雉子二羽・玉子二十位差贈有之候由也、此客屋ハ領主飯屋引統ニ近比造立有之至テ宜敷座構也、暫ニテ罷立夫ヨリ乗船ニテ川下リイタシ、山崎御藏下ヘ着船ニテ、下代・出物同囲ニ有之致見分、亦々乗船樋脇倉野村迄差越上陸、夫ヨリ入來之内ヘ差入、本浦村井手は樋脇塔之原等ヘ相掛候用水ニテ、以前毎度相損候場所之由候処、去秋モ洪水

之節相損シ、当分山下喜三次掛リニテ御普請最中、殊ニ此御普請は前文通以前ヨリ毎々相損候場所ニ付、此度ハ仕様モ至極念入、石井手之巻返シノ中ニ切石摺合ニテ漆喰込合鏝ヲ仕合、其上ヲ切石ニテ巻返シ候仕様也、此仕様ハ岩永三五郎何方ニテカ水洩之六ヶ敷場所致普請候節、初テ喜三次モ致見分至極可宜儀ト存候ニ付、夫々喜三次猶又工夫ヲ加ヘ何方ニカ一ヶ所イタシ置、此井方ニテ両所位之事ニ候由、委敷致見分候処至極中之仕合念入候モノ、殊ニ以前ノ井手ハ余リ井手高ク有之、夫故水行荒ク井手下之方洗ヒ崩シ、終ニ井手モ損シ候事ノミ可有之ト喜三次相考候間、此節ハ井手モ少シ低クナシ、左候テ井手ハ前文之通至極念入井手下之方粹仕調、都テクサリニテイケ込ミ、夫ヨリ川頭ノ方ヘ都テ大砂利入レ、井手堀ハ切石ニテ亀之甲ニ張り調候間、此節之御普請ハ永久可致、左候ヘハ喜三次手涯モ後年ニ相残候儀ニテ築ニ存候、ケ様ニ御物入モ有之候ヘトモ念ヲ入レ置候旨細々承候間、緩々罷在候、

見分トモイタン檢者共ヘモ折角精勤イタン候様達シ置罷立、大鐘時分入來籠ヘ着、領主仮屋ヘ一宿イタン候事、

一今朝雨ニテセハシク有之候ヘトモ、昼比ヨリ追々雨モ止、夕方快晴相成、明日之鹿府着モ都合可宜ト喜悅之事也、今晚モ喜三次始地方役々等モ見廻ニ付暫ク留置咄イタン候、尤領主ヨリ酒共差出シ度趣承候間、断ニモ存候ヘトモ細々申分リモ有之候ニ付、忝受用可致旨相答候処、吸物二通・硯フタ二面鉢・差身・井物五ツ計、酒・焼酎・飯肴汁三菜ニテ、菓子粕平被差出候間、喜三次始檢者并正之丞・茂右衛門等モ一所ニ致賞味候左候テ喜三次等ハ四ツ過頃ニモ候哉被帰候、正之丞・茂右衛門等ハ仮屋内ヘ外宿有之一宿ナリ、一右之通私領ニテ段々取持有之旅籠払等モ断ニ付、役々共ヘ金子貳百疋明朝出立之節可遣旨、今晚ヨリ手当イタン置候事、

一三月廿四日、朝ヨリ快晴、今朝五ツ時分打立、山下喜三次事郡山境迄モ可見送被申候ヘトモ断リ置、仮屋下ニテ相別レ、拙者共方ハ正之丞・茂右衛門家来共迄ニ相成、今日之道法八里位之事ニテ伊敷不動院辺迄ハ鹿府ヨリ迎ニモ可参候間、心急キニテ土瀬戸等罷登リ笹ヶ領ヘ野立イタン緩々罷在、快晴ニテ遠方見得渡リ至極ノ景氣見物イタン、尤郡山役々並詰居ノ地方檢者出迎万事世話有之候也、夫ヨリ罷立三藏塚馬継所ヘ休ミ此所ニテ昼飯共仕廻候、且当所ヘ近在受持郡奉行猿渡彦左衛門出迎有之間、列立心急キニテ中途小休ミ等モ不致、川田滝下迄参リ候処、中村新介迎トシテ被差越候付、乍馬上致挨拶直ニ打別レ、下平坂ノ上ヨリ下馬イタン中途咄シニテ参リ候処、坂ノ下辺迄近在受役之郡奉行上野善之進・小倉與右衛門始、庄屋ナト段々出迎別テ賑ヤカ成、石井手之頭ヘ野立イタン夫ヨリ中途少々ノ見分事モイタン、八ツ過時分伊敷不動院迄致着候、此所ヘ次郎四郎・お悅・安之介等始用頼林仲之丞・田

代太郎太・磯永孫四郎・伊東新五左衛門、且又御家老

座書役岩山八郎太・長野彦七・伊集院次左衛門、且又

染川喜八郎ニモ早帰着、足痛モ弥快方ニテ、今日モ乘

馬ニテ不動院迄迎ニ参リ居候、此寺へ一同緩々罷在、

夕方中村並郡奉行等召列拙者儀へ玉江橋辺迄川筋或ハ

田地少々ツ、ノ御普請見分イタシ、夫ヨリ相別レ日入

前比主従無事ニ帰宅安堵イタシ候事也、

一宿元へハ伊地知(奉安)小十郎・新納次郎九郎被参居、且磯永

其外モ少々付添被参候間緩々咄イタシ、四ツ時分皆被

帰候事、

一染川喜八郎へ召付候木之氏家来中村平藏・久木元源之

丞参居候事、

一出水中宿之家来古川彦八・牧駒助事物馴トシテ一往鹿

府へ召置候筋ニ出水滞在中取究置、木之氏出立ヨリ列

越、今晚ヨリ此方番所へ召置候事、

一江戸先月廿九日被差立候定式飛脚昨日カ到着ニテ、岩

下佐次右衛門・東郷左太夫等其外之書状等段々届居候

事、

一三月廿五日、夜前ヨリ雨降り候事、今朝岩山八郎太・

長野彦七・伊集院次左衛門・長谷場助七・中村新助ニ

モ見廻ニテ段々御用筋承リ、其外多人数見廻衆モ有之

候事、

一拙者御暇日数イマタ残り居候ニ付今日長野彦七ヲ以今

晩罷帰り候御礼御届申出、左候テ残り日数差上候旨月

番御用人江届申出置、同席月番下總殿へモ其段申出置

候様頼遣候事、尤拙者儀ハ足痛有之今三日ハ難罷出趣

モ申遣置候事、

一八ツ後福崎助八其外段々御用談客等モ有之終日取込候

事、

一拙者旅先ヨリ疝癩気カ心下動気ナト有之不平ニ付、今

日西郷幽泉相頼針治共イタシ候事也、

一今日在番松嶋親方聞役同道ニテ見廻有之、訳ハ琉球ヨ

リ唐へ進貢用主藏方遣用錫千五拾斤申受之御免被仰付

置候処、去寅年ヨリ直上リ被仰付候間、進貢用ハ先々申受九匁直成ニテ被仰付度願之趣有之、其通御免被仰付候御礼也、且左之通品物持参也、

寛

藤盆 十

紺地鳴細上布 二端

紺島細上布 二端

嶋紬 二端

緞子 一本

三月廿五日

一 三月廿六日、今日モ養生方ニ引入西郷幽泉等相頼針治イタシ候事也、

一 中村平藏等今日大口へ差返シ候ニ付、伊地知喜十郎等へ用向、且亦滞在中預世話候礼、且泉徳寺造替之礼旁トシテ品物共取合差遣候事、

一 三階房 一掛

一手助 一掛

一手綱 一掛

一 外ニ品々取合伊地知氏へ

一 麻絹上下染地 一反

一 外ニ品々取合有村へ

一 塩硝二斤

一 麓郷士之内鉄砲二ツ星射候者兩人へ褒美

右之通相渡書状差遣候事也、

一 拙者乗馬鹿毛ハ乗合悪敷相成候ニ付、先頃御厩へ父馬

用トシテ売上候間代リ馬見立度存居候処、拙者留守中

ニ馬寄可有之模様ニ付、島津右膳殿・宮里孫之進等へ

見立引入置給候様頼置候処、去ル八日馬寄有之額娃娃仙

田村生立青毛三歳ニテ五寸余有之、加世田郷士指宿惣

中ト云者所持之馬可宜トノ吟味ニテ引入相成居候間、

今日次郎四郎へ乗方為致見分イタシ候処、至極宜敷馬

柄ニテ幸之事也、尤鉄砲其外何モ驚キモノ無之由、代

料ハ金九兩之由也、錢ニシテ六拾四貫八百文ノ賦也、

一三月廿七日、今日モ引入養生也、昼西郷幽泉相頼候事、

且朝稻三益モ相頼得ト診脈相頼葉共モライ候也、

一今日ヨリ用達伊東茂右衛門致出勤候処、御勝手方書役

共ヨリ定式金山藏手、伝付属料金貳拾兩、拙者方へ御心

付之株相渡候由ニテ差出候間、受取致格護置候事、

一三月廿八日、今日ヨリ出勤毎之通、八ツ退出、尤先日

婦リノ御届ハ申出置候へ共、今日月番御用人高橋縫殿

へ相付、猶又御礼御届等申出置候事、

一今日モ西郷幽泉相頼候事也、

一三月廿九日、出勤毎之通、今日飛御差立候ニ付山田等

へ一封差遣候事、

一四月朔日、今朝面高眞七郎見廻也、先日鹿籠金山ヨリ

婦リ候トノ事也、

口上覚

〔朱書〕〔朱書ハ原書ニ本文行間ニ注記シアリ〕  
「足袋可被相用候、

四月

伯耆

右之通翌二日同人取次ヲ以被仰付候事、」

私事兼テ足之痛有之、当夏秋中差起候節ハ足袋相用申

度御座候間、御免被仰付被下度奉願候、此旨御申可被

下候、以上、

巳四月朔日

新納駿河

右之通月番御用人小笠原轍へ直出之筋ヲ以用達ヨリ差

出置候事、

一今晚西郷幽泉相頼候、腹合イマタ平快難致難儀候事モ

有之候ニ付テ也、

一四月二日、今日四ツ時ヨリ於演武館梅田九左衛門流儀

大目付川上龍衛殿見分被致候付拙者モ差越候、九ツ過

相濟直ニ帰宅候事、

一足袋御免之儀今日願之通被仰付候事、

一今晚モ西郷幽泉相頼候、昼ノ内ハ腹合宜敷候へトモ夜

分不平ニ付テ也、

一 四月三日、今朝江夏十郎被參候、左候テ硝子師龜次郎  
醉狂之一件為聞有之候事、

一 今日八ツ後ヨリ新納彌太右衛門・伊地知小十郎・竹下  
覺左衛門相招候、左候テ竹下ニハ拙者ノ画像面体之分ニ  
テモ写取モラヒ度相頼候ヘトモ、今日ハ似セ付不相調  
候、七ツ後夕方ヨリ東次郎左衛門・新納次郎九郎・磯  
永孫四郎被參候テ、四ツ過時分イツレモ被帰候事、  
一 今晚モ西郷幽泉相頼候、昨日共ヨリ快方ニテ仕合ノ事  
也、

一 四月五日、(新納久敬) 唱岩院様并清心童子正忌日ニ付お久墓参リ  
被致候事、(新納時次)

一 今日左之通用達月番御用人伊集院隼衛へ直出之筋ヲ以  
用達ヨリ差出置候事、

口上覚

(朱書)  
一願之通被成御免候、

四月

伯耆

右之通翌六日同人取次ヲ以被仰付候事、

一 私事足痛有之歩行不自由御座候間

御城内并御寺方等杖御免被仰付被下度奉願候、此旨御  
申可被下候、以上、

巳 四月五日

新納駿河

一 今日八ツ後ヨリ伊東新五左衛門・梅北宗右衛門被參候  
テ写シ方毎之通也、

一 四月六日、今日杖御免願之通被仰付候事、

一 八ツ後ヨリ新五左衛門・宗右衛門被參候事、

一 八ツ後ヨリお久・おせひ・お悦・安之介等召列、誓光  
寺辺迄遊ヒニ差越暮前帰リ也、

一 四月七日、八ツ後ヨリ新五左衛門・宗右衛門被參候テ  
毎之通、且又磯永孫四郎モ相頼坊津橋隠軒様之御墓御

法号并陰書等下書相調候、尤近日坊津へ遣ハン候筈ニ付テナリ、

一 四月八日、晴天炎氣、四ツ時ヨリ於演武館鈴木弥藤次

・伊集院德盛流儀大目付頼姪織部殿見分被致候ニ付、

拙者モ出席イタシ候、九過相濟候間直ニ帰宅候事、

一 八ツ前ヨリ武村東郷一介仮屋へ拙者始メ家内中都テ遊

ヒニ差越シ、次郎四郎留守番也、東次郎左衛門・磯永

孫四郎・田代太郎太・茂右衛門召列全延氣ニテ暮前打

立帰り候事、

一 四月九日、出勤毎之通、退出ヨリ興国寺へ御墓参イタ

シ七ツ過キ帰宅、

一 四月十日、四ツ時福昌寺へ

(鳥津重豪女子・將軍徳川家齊室)  
廣大院様御忌日ニ付

太守様

宰相様御代参

但

着服熨斗目・半袴

(鳥津重豪)  
大慈院様

(鳥津重豪)  
慈徳院様同断ニ付

太守様御代参

宰相様御代参

但

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤、別勤ニ付夫ヨリ深固院大興寺等江御墓参

イタシ九ツ過帰宅、

一新五左衛門・宗右衛門毎日程被参候へトモ略ス、

一 四月十一日、今朝志岐藤兵衛被参候テ、夜前家来森山

善之助模合銭未進ニ付御小姓与某ヨリ叱ニ逢候一件承

候、就テハ役人前田嘉平次不行届之儀有之候ニ付嘉平

次事叱リ置候事、

一 今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ御記録所古御文書裏打之場所へ福崎助八一所ニ差越致見分候、彼之方ハ伊地知小十郎・町田孫一郎・佐多佳八郎掛リ之事也、七ツ打引キ取り候事、

一 拙者不平、夜前并今昼殿中へ罷在候内、心下動氣ニテ瞬息ノ間ハ座中暗ク見得候様有之候得共、暫ニテ治リ候ニ付御記録所へモ差越候、然共右次第不平ニ付、矢張り薬・針・灸治共毎日イタシ候事也、

一 四月十二日、出勤、八ツ退出、今日モ幽泉・三益等相招キ委敷診脈相頼候処、矢張疝之氣ニモ可有之承候、然共心下之事ニテ氣分不宜候間折角致養生候事也、

一 四月十三日、出勤、八ツ退出、新五左衛門・宗右衛門毎日程被參候テ写シ方也、

一新村鎌齋同役之藏方訴訟ニ付見廻候間、拙者不平之儀并お久不平之事ニ付テモ診断共相頼候処、拙者事ハ矢

張三益同様ノ趣ニ付少シ安心イタシ候、乍去折角養生イタシ候様、無左候テハ眩暈症(暈カ)ニテ持病共相成候へハ至テアシキ事ニ候旨承候、お久事モ折角養生有之候様トノ事也、

一 下人甚太郎事武村ニテ酒狂之事有之由仲之丞ヨリ承リ候、然トモ此節迄テハ叱リ置キ以後之儀慎候様申達置候也、

一 四月十五日、夜前モ少々不平ニ有之、今朝モ至極氣分不宜候ニ付今日出勤不致候、左候テ三益申遣シ診脈相頼候処、矢張疝(疝飲)且ハ留淫ニテモ可有之被申聞、何モ腹中弱リ候筋ニモ有之間敷承候間、先々安心ニテ養生イタシ候、尤西郷幽泉モ相頼候也、

一 四月十六日、今日モ養生方ニ引キ入り候事、

一 下總殿先日ヨリ私領へ被差越、留守中地頭所大口并預所出水・加世田共拙者へ被頼置候へ共、昨日婦リニテ

今日ヨリ出勤有之候由也、

一前夜小野山王近辺ニテ御船手書役松元覺右衛門嫡子覺之助トカ申者、横目ニ階堂林左衛門嫡子新十郎ト申者、及刃傷松元即死ニテ二階堂ハ帰宅切腹之由、双方共親父旅行中之由苦々敷事也、

一四月十七日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ砲術館へ出候三御家老座稽古ニテ七ツ過帰宅候事、

一拙者前髪取イタシ候時分母上様專御世話ニテ、高橋家ノ家来山下善右衛門ト云大工兼テ御頼付ニテ候間、夫江御申付髪結道具入箱壺ツ御作り調被下置候テ、只今迄致所持居候処、木色ヌリ相損候ニ付此節ヌリ直シ方イタシ度存、左之通掛子ノ裏ニ書記シ、ヌリ師植村平左衛門へ遣シ候事、

予島山ノ次男ニテ彦九郎トイヒ十四歳ノ秋前髪ヲトレリ、其比父母ノ慈愛モテ是ヲ山下善右衛門ニ作ラシメ与へ給ヒシヨリ日毎ニ開ク、今斯ク重キ司ニメイセラ

レシ事共報ヒ奉ルヘキ様モナシ、只恩愛ノ深キヲ思フノミ、安政四年巳ノ初夏記之、

久仰判

右之通り彼是ヲ案シテ記シ置モノナリ、

一四月十八日、六ツ過ヨリ調練場へ出席、下總殿同断龍衛殿同断ニテ、長崎并西目・東目御手当人数砲術致見分、五ツ半比相済直ニ帰宅、

一夕方新村鎌齋見廻也、是ハ拙者不平ニ付キ三益ヨリ承候トテノ事ナリ、依テ脈腹ナト委敷相頼ミ候処矢張同様ノ事也、

一四月廿日、四時福昌寺へ

(島津重豪)  
大信院様

(島津齊興宅)  
賢章院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拜

但

御惣靈様へ御代拝

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤別勤ニテ帰宅也、

一今日八ツ前ヨリ武村東郷一介飯屋へ差越、昼飯共給、

又々田上村へ歩行ニ差越、西別府村境迄参り、又候東

郷飯屋へ暫時休、夕方帰宅、且お悦・安之介モ遊ニ参  
リ候事、

一今晚西郷幽泉弟子花田幽齋相頼針治イタシ候、幽泉病

氣ニ依テ代役ニ被遣候事ナリ、

一四月廿一日、八ツ後川南清兵衛長崎ヨリ一昨日罷り帰

リ候トテ、御用向キ有之被参候事也、

一同刻ヨリ尾畔下ヨリ伊敷不動院近所マテ歩行ニ参り、

伊集院周右衛門屋敷へ参り候へ共周右衛門ハ山ニ登り

働キ最中ニ付態ト不相对、煙草共給へ口上書イタシ置

罷歸り候事ナリ、然処今晚直ニ周右衛門被参候テ山入

中ニテ残り多候旨、細々挨拶ニテ竹ノ子ノ煮染物共持  
参也、

一今晚花田幽齋相頼療治イタシ候事也、

一四月廿三日、出勤毎之通り、七ツ前ヨリ伊敷方ニ歩行

ニ差越、梅ヶ淵ヨリ吉利家ノ屋敷ニ参り、庭ヨリ直ニ

引返シ大鐘過帰宅候事、

一拙者不平イマダ寸切ト無之候ニ付、今晚モ花田幽齋相

頼候事、

一四月廿四日、四ツ時福昌寺へ、

(島津齊彬男)  
覺法院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

但

御惣靈様へ御代拝

着服々紗・小袖・半袴

右之通り相勉別勤ナリ、

一 八ツ前ヨリ脇田辺迄歩行ニ差越、宇宿ヨリ武村之内天神ケ瀬戸通イタシ夕方帰宅候事、

一 今夕方江戸先月廿九日被差立候定式中急キ到着ニ付、伯耆殿ヨリ問合被差廻候事、

一 今晚東次郎左衛門被参候、左候テ先比東氏へ差送り候

居相刀料ヲ以テ谷山へ相頼、出来候刀持参被為見候、

銘彫ハ先比遣シ置候通り、

予邑臣就東先生多学者

故是贈同門諸生新納駿

河久仰

安政二年巳二月谷山波平行安

右之通有之候事、

一 四月廿五日、出勤毎之通り、今日

宰相様御参府之御礼等被為濟候御祝儀、且

太守様江戸御発駕被遊候御祝儀等有之候事、

一 此内御誕生之

(島津齊彬女子)  
典姫様

寧姫様追々御丈夫ニ被為成候ニ付、此ノ節

御前様御養ヒ被仰出御届ヲモ被仰上候段、昨日便御到来ニ付、今日退出ヨリ三役一同大奥へ罷上リ御祝儀申

上候事、

一 今大鐘時分相応ノ地震有之候事、

一 大鐘時分ヨリ安田助左衛門・川南清兵衛被参候テ緩々

也、安田ハ御旗本備組之絵図、川南ハ長崎ニテ伝習之

航海術絵図ナト持参ニテ、四ツ過時分被帰候也、

一 今日細雨ニテ候処、夕方ヨリ北風強ク俄ニ吹出シ、雨

モ強ク夜中追々烈シク、安田等帰りモ至極難儀也、

一 四月廿六日、八ツ後ヨリ追々風和ラキ候、夫迄之間相

応ノ吹候事、

一 四月廿七日、夕方安之介額ニ致怪我候テ心配ニ及候へ

トモ、夜入新納龍雲ナトタテ薬ニテ余程快方ニ相成候、

忠堯名前有之、

次第ハ玄喚<sup>(賜)</sup>脇上リロヨリ沓拔石ニウツ伏ニ落チ額打候

外ニ兵道雜書三卷

事ナリ、

西吹嵐守等一結

一今晚西郷幽泉相頼候、拙者之腹合追々快方ナリ、

右ハ私所持ニテ候処

一今日永江休之丞状相届候、三月廿九日出シニテ、嫡子

宰相様御内々被遊

箭七郎ヨリ仲之丞へ相渡有之候事也、

御覽、御用相濟此節被相下、慥ニ拝受仕候、以上、

安政四年巳四月

新納駿河

一四月廿八日、出勤御礼濟御暇イタシ靜洞殿へ參上、永

右之通相認御家老座書役玉里掛市來正之丞へ差出置候

江休之丞掛合之趣申上置候テ九ツ過帰宅、

事、

一明日飛脚立ニ付、永江始其外へ段々返答カタ／＼相認

覚

候事、

兵道書切々

一結

覚

右ハ嫡家新納四郎所持ニテ候処宰相様御内々被遊

一小笠原流五箇日取折本

一

但

外ニ

忠元名前有之、

御手元へ被留置候品數ハ別段御書付被下置候、

一大唐流兵道書

一冊

安政四年巳四月

新納駿河

但

右之通四郎殿方之儀モ拙者ヨリ書付イタシ同人へ差出

置候事、

一 四月廿九日、今日定式飛脚差立候ニ付左之通申越候、

一 筆令啓達候、

宰相様長途御機嫌能先月十八日

御参府、猶御安康被遊御座奉恐悦候、右ニ付以

上使御懇之被為蒙

上意

御参府之御礼首尾能被為濟候段承知仕、恐悦奉存候、

依之從御内証茂御祝詞奉申上度各様迄如是御座候、以

御序宜御執成頼ミ存候、恐惶謹言、

四月廿九日

新納駿河

久仰判

得能彦左衛門様

有馬舍人様

永江休之丞様

右料紙小奉書折紙ニ相認候事、

一 八ツ後吉川源左衛門見廻也、明後日出立御中途迄罷り出候様、不時ニ三日以前被仰付趣有之候也、

一 五月朔日、出勤毎之通、当月表之方月番承り候事、退出ヨリ砲術館へ下總殿・登殿・拙者差越、砲術真手数

稽古致見分、七ツ過キ相濟ミ直ニ退席候事、

一 新五左衛門・宗右衛門等毎日程参り中取写シ方ニテ候事、

一 五月二日、今朝六ツ過砲術館へ出席、今日ヨリ六組砲

術致見分候ニ付今日卷番組也、五ツ半前相濟夫ヨリ直

ニ出勤八ツ退出、夫ヨリ角之御藏へ参り致見分候、此

御藏床之下土メリ込大ホラ出来候ニ付、御作事方出会

見分有之候処、内之御堀ノ水右御藏之大底貫ケ通シ水

ノ御堀へ土砂洗ヒ出シ候哉ニテ、御堀之内へ砂入多相

成候場所へモ有之候ニ付、近々着城無之内相仕廻候様

イタシ度、御役々吟味ニテ則ヨリ取付大小之石入込念

入突堅、以来ハ何様之儀有之候共、土洗ヒ出シ候儀ナ  
ト無之様御普請手当共申達置引取候事、

一八ツ後ヨリ新五左衛門・宗右衛門被參候、左候テ兩人  
共毎日程參リ太儀被致候ニ付、今日餅米老俵ツ、節句  
用ニモ可相成哉ト遣シ置キ候事、

一五月三日、晴天炎氣、今日吉野馬追有之、お悦事北郷  
哲五郎殿所へ通り見物ニ參リ候様、先日ヨリ申来居八  
ツ前ヨリ差越候、馬追ハ首尾能人通り多ク有之由、然  
ル処お悦事夜入過暫時塞リ(カリ)カニテ気分合惡敷、瞬息之  
間ハ氣絶ニテ候由、家内大キ御心配被成下候由ナカラ、  
即刻正氣付何茂平身ニ相成候由、先キ比ヨリ風邪ニテ  
頃日快氣イマタ不氣根之処、終日人通り致見物アツサ  
モ強ク草臥候半、然処少々酒被下候由カタノ、取合候  
テフサカリニ成候半ト承候、誠ニ一旦之事ニテ何モ心  
遣イタシ候事ニテハ無之、五ツ過比罷帰候事、

一五月四日、六ツ過ヨリ砲術館へ出席、登殿・主水殿ニ  
テニ番組之稽古見分イタシ候、下總殿ハ風邪之由也、

五ツ半時分相濟夫ヨリ出勤、八ツ退出、

一高輪御側役橋口今彦昨日致下着候トテ今日出勤毎之通  
御両殿様ヨリ御意三御役一所ニ於御家老座奉承知候事  
一御軍賦役成田彦十郎昨日下午着、今日八ツ後見廻也、段  
々御用筋モ有之候三月廿八日出立之由也、

一五月五日、晴天、出勤毎之通、席々謁御祝儀有之、九  
ツ退出、夫ヨリ大奥へ罷上リ御祝儀申上置退出、夫ヨ  
リ周防殿・(島津齊寛女子)松壽院殿へ御近習迄御見廻御祝儀申上置帰  
宅候事、

一今日萬太郎初テノ節句ニ付、川上式部殿御家内始市成  
并近親之衆相招祝ヒイタシ候ニ付、式部殿・哲五郎殿  
・主計殿・大膳殿・宗八郎殿・藤兵衛・彌太右衛門・  
小十郎・市介・次郎左衛門其外用頼等ニテ、婦人ハ式  
部殿奥并およしとの・お逸さまナト御出被成、二十人

余之客人ニテ随分宜敷致祝候事、

奉願候、恐惶謹言、

五月七日

新納駿河

一 五月六日、六過ヨリ砲術館へ出席、頰娃織部殿拙者ニ

山田壯右衛門様

テ三番組之稽古致見分、五ツ過相濟候間直ニ退出、夫

一 今晚次郎四郎方へ彌太右衛門・小十郎等申談ニテ北郷

ヨリ滑川へ立寄暫ニテ出勤、八ツ退出、今朝下總殿風

宗八郎殿御出被成緩々ナリ、

邪ニテ出席無之候事、

右ハ彼方役人近習役共ヨリ細々承趣、折角世間向取馴

一 五月七日、出勤毎之通、今昼大坂先月廿五日被遊

無之候テ不叶訳合ニ付キ、折々此方ナトへ茂被参候様

御発駕候御左右、飛脚到来候、右飛脚西之宮迄被召列

有之度トノ趣キニ付テ也、

同駅ヨリノ問合モ有之、其内御金繰大儀ニ付御直書被

一 五月八日、六ツ過ヨリ砲術館へ出席、四番組稽古致見

成下難有頂戴仕候、且山田ヨリモ書状沓封短札参候、

分候、登殿・拙者・主水殿ニテ五ツ過済ミ退席、夫ヨ

右飛脚則今日

リ福昌寺へ、

御中途迄差返シ候間御請等申上候事、

(鳥津齊宣筆)  
芳蓮院様御忌日ニ付

上様弥御機嫌能被遊御通行恐悦至極奉存候、然ハ御内

太守様

用之儀有之、西之宮駅御止宿ヨリ

宰相様御代参

御直書被成下難有頂戴仕、被仰付越候御用筋奉畏候、

但

此段御請奉申上度貴様迄申上候、可然様御取成被下度

御惣霊様へ御代拜

着服麻袴

右之通相勉夫ヨリ出勤、八ツ退出、

一同席下總殿・伯耆殿ハ先日ヨリ病氣、伊織殿ハ夜前妹

子死去、矢五太夫殿モ從弟之統合ニテ差合也、登殿ハ

砲術館ヨリ南泉院へ

御代參被相勤候ニ付、拙者儀前条之通三ヶ所へ相勤、

其上若年寄方迄モ承リ候事也、

一七ツ後ヨリ伊敷方へ乗廻シ歩行ニ參リ、花尾道ノ犬迫

内目鏡橋迄參リ暮時分歸候事、

一五月九日、今日犬迫物場ニテ大番頭以下御役人限リ并

ニ寄合等之砲術稽古有之候得共、当分同席差支勝ニテ

登殿老人出席有之、惣人数ハ多ク有之候由也、

一当春拙者廻勤之時分ハ天氣廻宜敷候へトモ、帰リ時分

ヨリ雨ニ成、其後四月中当月ニ成候テモ至極雨勝ニテ、

此三日モ東風統キニテ降り止ミ無之細大之雨也、

一指宿役々共ヨリ例年之通り地頭瀬挽イタシ取得候魚売

弘代錢左之通、

一鳥目五貫文 地頭方

一同卷貫五百文 子共方へ

右之通差出候事也、

一五月十日、今日モ雨、東風夕方ヨリ雨風共ニ止候事也、

一今朝六ツ過ヨリ砲術館へ出席、登殿・拙者・主水殿ニ

テ五番組之稽古致見分候、砲術ハ小降り間ニ相調候、

五ツ半比相濟夫ヨリ福昌寺へ、

開山忌ニ付

(島津元久)  
怨翁様へ

太守様御代參

着服麻袴

(島津宗徳)  
慈徳院様御忌日ニ付

太守様御代參

宰相様御代拜

但

御惣靈様へ御代拜

着服麻袴

(徳川家齊迄)  
廣大院様御忌日

(島津齊宣)  
大慈院様御同断ニ付

(島津齊彬)  
太守様

(島津齊興)  
宰相様御代参

但

御惣靈様へ御代拜

着服麻袴

右之通相勤夫ヨリ出勤、八ツ退出、

一 五月十一日、曇、夕方晴ル、今朝江夏十郎御用向有之

被参候事、

一 今日四ツ後ヨリ出宅、磯御茶屋御取添内反射炉其外御取立之諸所見分トシテ差越、福崎助八初・書役勤岩山

八郎太以下段々召列御役々出會ニテ細々致見分、磯御茶屋御座之間辺御修甫場等モ致見分、夫ヨリ花倉銅吹

所新御取立之所へモ差越致見分、終日隙取暮前帰宅也、

一 五月十二日、六ツ過ヨリ砲術館へ出席、六番組稽古致見分、五ツ半時分相濟候ニ付、退席掛滑川へ立寄時刻

見合出勤、八ツ退出、

一 八ツ後御軍賦役堀與左衛門・悅所七郎右衛門・書役安藤作之丞見廻ナリ、尤廻勤ヨリ昨日罷帰リ今日ヨリ出勤ニ付御用向有之右之通也、

一 拙者事、当春廻勤中ヨリ心下腹合不平有之、致節角養

生候処追々快方相成候、然共今以灸治療用等イタシ候事、

事、

一 五月十三日、出勤毎之通、退出ヨリ下總殿・登殿・大目付龍衛殿一所ニ砲術館へ出席、郷士以下諸組与力足

輕諸家中砲術致見分、七ツ過相濟直ニ退席之事、

一 今日大奥女中下着有之候由也、

一五月十四日、出勤毎之通、退出ヨリ御花園通りイタシ、  
二之丸御庭内御稽古所等致拝見、夫ヨリ同所劍銃藏等  
モ致見分候、尤下總殿・登殿等モ列立差越受持御役々  
出会有之、七ッ過相仕廻直ニ帰宅候事、

一五月十五日、八ッ後甲斐右八郎被參候テ、同人田舎勤  
等ニテ見聞之成行一冊ニ相認持參有之候間、至極心入  
厚キ儀ニ候トテ致称美書付受取置候事、

一五月十六日、晴天四ッ後ヨリ中之塩屋へ百五十封度試  
打有之候ニ付、見分トシテ下總殿・登殿申談差越候、  
尤百五十封度ハ初テ御出来相成珍敷物ニ候付テ差越見  
候、余国ニテモイマタ壹式ケ所出来相成居、此御方様  
ニテハ江戸へ一挺御出来相成居、爰元ニテハ此節初テ  
ノ御製造也、今日十発打方イタシ候、至極矢行等モ宜  
敷候段モ成田正右衛門等ヨリ承候、八ッ過時分満汐ニ  
相成打方取止候、左候テ立宿ニテ弁当共仕廻大鐘時分

帰宅候、今日大砲打方之内ハ細雨ニテ候ヘトモ、相濟  
候時分ヨリ追々強ク相成、帰宅後ハ大降リニ相成候事、  
一今日お悅・安之介ハ武村東郷一介別荘へ御田浦見物ト  
シテ差越夕方帰り候事、

一五月十七日、安之介昨夜ヨリ少々熱氣有之候ニ付、今  
朝朝稻三益相招直診相頼候処、当時流行之風邪ニ相見  
得候段承り候段安心候事、

一五月十八日、指宿之児共之内佐土原勇助・北原萬之助  
・湯地弥藤次三人ハ砲術至極出精イタシ、中ニモ佐土  
原事第一下地宜敷候ニ付陳羽織出来差遣候処、今日為  
礼葉煙草五斤位贈り候事也、

一五月十九日、出勤毎之通、退出ヨリ砲術館へ登殿・龍  
衛殿一所ニ出席、去ル九日犬追物場ニテ稽古ノ節不罷  
出、大番頭以下御役人限無役大身分稽古有之、七ッ前

相済ミ直ニ退席候事、

一五月廿日、野元一郎八ツ後ヨリ参候テ御用談緩々ナリ  
同人事去冬ヨリ胸痛等旁ニテ長々病氣ニ有之候ヘトモ  
此頃ハ少シ快方相成稀ニ出勤イタシ候、然共内実ハ大  
病之由ニ脇々ヨリ及承居候事也、

一五月廿二日、朝甲斐右八郎被参候テ焼酎密製之儀書付  
ヲ以被申聞候也、

一今日出勤毎之通り、退出ヨリ砲術館ヘ下總殿・登殿一  
所ニ差越、三御家老座稽古致見分七ツ打直ニ罷立候  
事、

一右婦リ掛ヨリ都之城ヘ参リ緩々イタシ、尤出雲殿事先  
日出府ニテ候ヘトモイマダ見廻モ不致候ニ付、参上可  
致旨モチト申入置候ニ付、外ニ伊地知小十郎・東次郎  
左衛門・東郷一介被参居夜入五ツ過罷立候事、

一此内江戸ヘ相詰居候御金方勤之安藤平八御内用金等出

入不束之取扱有之、大体五千両余モ御損失相成居段々

及糺方候処、弥以平八不束ニ取扱相見得候ニ付、先達  
テ江戸ヨリ下着涯則御役御免慎申渡相成居、今朝評定  
所御用申渡ニ成候処夜前致切腹之由届承候事、

一先比ヨリ別テ連雨ニ有之今日ヨリ梅雨相成候、然共最  
早雨モ少キ模様ノ空色ニ相成今日共ハ快晴ニテ、是ヨ  
リ却テ雨絶カト人々致評定候位也、

一五月廿三日、四ツ前南林寺ヘ参詣夫ヨリ福昌寺ヘ、  
(島津重豪宅)  
慈照院様御忌日ニ付

太守様御代参  
宰相様御代拜

但

御愼靈様へ御代拜

着服麻袴

右之通相勤夫ヨリ出勤毎之通り也、

一明日弥御着城之御左右追々申来リ御手当之事也、

一五月廿四日、朝細雨北風ニテ極冷氣、昼曇リニテ終日笠ニ不及位ノ事也、

一今日五ツ過出勤、八ツ退出、

一今日午刻少シ過御機嫌能

御着城被遊候、右ニ付拙者月番ニ付、矢五太夫殿・主水殿共ニ御対面所御縁頬御駕籠台涯末之方ニ罷出候テ、

御下乘直ニ御書院へ被為通候

御跡ヨリ奉付添、御着掛御書院へ

御着座御礼使樺山相馬

御目見御口上有之、引進伯耆殿ヨリ江戸詰同席へ得差

凶御先例之通り相勤候様トノ趣共被相達、又候

御意有之伯耆殿ヨリ

御意之御礼御取合有テ退座、引統御一門方并三御役御

祝儀罷出、夫限リ

御入被遊候、尤御駕籠台ヨリ御先立下總殿被相勤候、

拙者ハ御礼使御目見之節ヨリ始終月番席ニ相詰候、左候テ御式済於唐子之間三御役一所ニ御内証之御祝儀申

上、退出掛大奥へモ罷上リ  
典姫様へモ御祝儀申上候事、

一先達ヨリ珍敷雨続ニテ候へトモ、昨今笠ニモ不及位ノ曇天ニテ、今日モ其通ニテ一同仕合之事ナリ、夫故肌

持モ余程冷氣ニテ、拙者綿入之下着着イタシ候事ニテ、世上一同風邪大流行イタシ、御供方之人数モ大方風邪

不致ハ絶テ無之由也、

一五月廿五日、出勤毎之通、

一今和泉町御隠居對馬殿四男和泉萬吉殿事、此内ヨリ病

氣ニテ候処内実去ル廿二日夜カ死去之由、然共御着城前ニ付弘メ之儀扣置、今晚之病死之届有之候ニ付、退

出ヨリ彼屋敷へ悔ニ見廻候、萬吉殿ハ私領へ差越被居彼地ニテ死去之由也、且重富モ御統合ニ付是亦御近習

迄見廻七ツ前帰宅候事、

一此内ヨリ之雨勝当分梅雨ニ成リ却ツテ天気ヨロシク、今日共ハ晴天ニテ帷子相応イタシ候事、

一 五月廿六日、出勤毎之通、御殿ニテ御道中御到来品之

内髭籠一ツ干着入、御小納戸三原藤十郎ヲ以拝領被仰

付候間、同人へ相付御礼申上置候、尤三役同様ニテ候

事、

一 七ツ後ヨリ小野方へ養生トシテ步行ニ差越、千眼寺下

迄乗馬夫ヨリ鬼ヶ谷へ入込、伊十院街道へ出、水上筋

ヨリ暮前帰り候事、

一 五月廿七日、曇、今日モ気候相当相成候、八ツ後迫水

善左衛門見廻也、尤御供ニテ下着ニ付テ也、

一 七ツ後ヨリ武岡上方へ乗廻步行ニ差越シ暮時分帰宅候

事、

一 五月廿八日、七ツ後豊後殿事下着有之、足痛ミニテ用

達ヲ以テ着之届ケ有之候事、

一 五月廿九日、今日豊後殿出勤有之、宰相様ヨリ毎之通

リ御意有之、三御役一所ニ難有承知仕候事、

一 五月晦日、出勤毎之通り、今晚花田幽齋相頼ミ針治イ

タシ、少々不平有之故也、

一 閏五月朔日、五時浄光明寺へ、

貞巖院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拜

但

御惣霊様へ御代拜

着服麻袴

右之通り相勤夫ヨリ出勤、八ツ退出、

一 今日ヨリ御出座ニテ月次御礼等被為請候間、御座之間

御礼御一門方之御取り合相勤、夫ヨリ御書院へ之

御先立相勤候事、

一 閏五月四日、晴天、暑サ強シ、出勤毎之通り、七ツ後  
 永田與右衛門參リ候、今日二之丸御庭ニテ奥向勤并ニ  
 御側支配小役人書役等迄砲術稽古被仰付候処、惣人数  
 三百二三十人モ罷出候由、與右衛門等モ差引ニ相勤候  
 間、始終之成行荒増シ申聞ケニテ無程帰リナリ、  
 一新五左衛門・宗右衛門毎日程被參候テ写シ方中取等無  
 怠事也、

一 閏五月五日、出勤毎之通、四ツ後

御前へ被為 召段々御内用被仰付、且ハ被 聞召上候  
 条々多々有之候得共御内用向ニ付略ス、

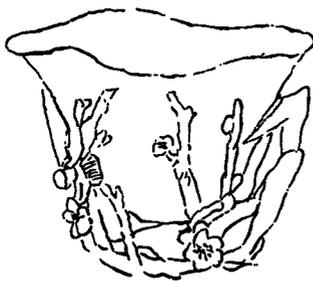
一 退出ヨリ興国寺へ御墓參イタシ七ツ過帰宅候事、

一 閏五月六日、八ツ後山田壯右衛門見廻ニテ暫時ナガラ  
 御内用向キ段々申談シ候也、

一 同刻市來正之丞見廻候、是ハ今日不時出府被仰付候故  
 也、

一 閏五月七日、今日地頭所指宿東方村中齋門之市右衛門  
 ト云者用向有之差越候序、去年八月比在所唐之山ト云  
 所ニテ拾ヒ得候トテ、唐作之猪口ト相見得蠟石ニテ彫  
 刻、夫ニ梅ヲ枝花トモ彫抜タル物ニテ珍敷器物故、拙  
 者用ニモ相成候へハ幸之至リトテ差出候間、直ニモラ  
 ヒ置候、左候テ返シニ金子二百疋差遣シ置候、随分面  
 白キ物故別ニ委細ヲ記シ置也、追テ爰ニ補ベシ、

瑪瑙梅花洗記



大サ  
 図之如シ

右ハ安政三年辰八月中旬頃指宿東方村中藪門之市右衛門、一日草刈トシテ同村之内唐之山

〔注〕  
一 地頭飯屋ヨリ道法巷里ニ合位午未ノ間ニアタル雜木山ニテ、高山之半腹ナリ

ト云フ所ニ差越候処、雨後洗崩候場所アリ、其所ニ何カ器物等數物ノ土付居候ヲ見当リ取揚洗ヒ候ヘハ、右図形之通り之器物ニテ珍敷物故暫シハ市右衛門所持セシカトモ、此節菜種子上納方トシテ差越候ニ付致持參、若哉御地頭様御用ニモ相成候得ハ冥加至極之旨申出候間、猶又唐之山ト云フ訳承候ヘハ、往古唐人為致居住場所トイヒ伝ヘ、于今墓石ノ損シタルモ建居、唐人塚トイフ、ヨツテ其辺ヲ唐ノ山ト唱ヘシ由、則其近辺洗ヒ剝キヨリ出候カト見得候由承リ、其形行御披露申上候処、珍敷物ニテ御貰可被置、然トモ市右衛門何様ノ心組ニテ致持參候哉、猶細々承候様致承知、則市右衛門ヘ篤ト承リ候得共何ソ御返ニ等ニテモ過分頂戴仕考全無之、私式見出シタル品御地頭様御用相成候得ハ無

此上冥加至極ニテ、外ニ心組無之段申出候ニ付、其段申上候得ハ、弥御モライ置相成御返シトシテ金子貳百疋外ニ品々被下置候、此段形行記シ置也、

安政四年巳閏五月七日

但

指宿役々方ヘ唐之山并唐人塚等之由来糺方申遣置候

事、

御取次

伊東茂右衛門

覚

指宿

爰許東方村之内唐之山古跡相糺可申上旨、当所郡見廻永山六右衛門出府之節被仰達候段承知仕候、依之老人共召呼相糺候形行左ニ申上候、

一 唐山之儀御地頭飯屋ヨリ巷里余午未之方ニ当リ、杉山  
其外雜木山ニテ間々開地等モ御座候、

一 唐人上代居住イタシ夫故于今唐山ト申伝候欵、唐之山

下式拾町程ノ所へ道上ト申在家有之、其村之子共泣候

節ハ唐之山ヨリガラトイフヲソロシキモノ来ルト申候  
得ハ、則泣止ミ申候由、右居住之唐人異様之容体ニテ  
右様申伝へ来リ共ニテハ有御座間敷哉、

一遙之上代入唐之僧有之、帰朝之上唐山之儀檀特山之山  
形ニ似寄候逆致安置置候申伝へモ御座候、

一唐之山内へ寺屋敷ト申伝候場所御座候、尤古井之跡有  
之、伏石等茂御座候段承リ申候、

一爰元十町村ノ内ハ光明寺并観音堂有之、上代ハ唐之山  
へ有之、其後右十町村之内へ引直相成候哉ニ申伝候、

左候テ別紙大和素生法相宗光明寺開基定惠和尚墓之儀  
モ光明寺へ御座候得共、是以唐之山ヨリ寄墓共ニテモ

候半哉ト申伝御座候、尤光明寺当住持招呼相札申候へ  
共、引直方年号等相知不申其外右様之書留等ハ無御座

段申出候、

一先年百姓共唐ノ山開ノ節墓式(掘カ)ツ掘出シ于今墓同所小杉  
山之脇へ有之、遙上代之物ト相見得居無銘之墓ニテ御

座候間別紙写差上申候、

一所郷士竹之内住右衛門亡親嘉左衛門代、右唐之山ニテ  
大茶碗程ノ器物捲ツ百姓共掘出シ右嘉左衛門實請、先  
年

齊宣公当所 御光越之折御用相成候由、右器物之儀ハ  
紺色ニテ外ヨリスカシ見候得ハボタンノ形チ相見得、

内ヨリスカシ見候得ハ菊ノ形チ相見得、至極音宜敷物  
ノ由申伝御座候、

右ハ爰許唐山古跡糺方ニ付、老人共へ承合申候処、  
左之通申伝御座候、何ソ書留等モ無御座候間此段御

届申上候、以上、

已閏五月十五日

郡見廻

永山六右衛門

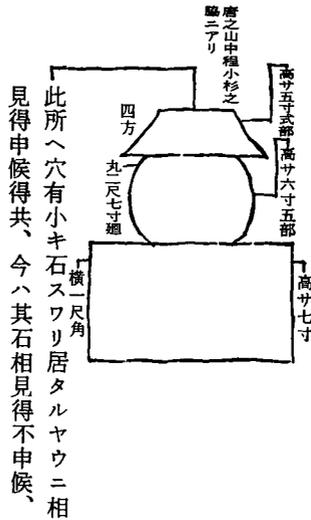
郷士年寄

寺田清太左衛門

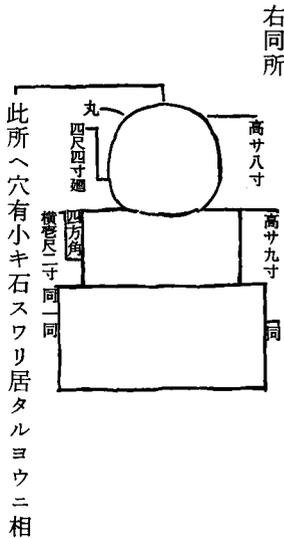
右同

平嶺新藏

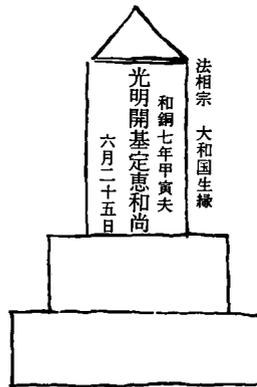
御用達  
伊東茂右衛門殿  
山川石又ハ池田石ノヤウ相見得白キ方



三重共ニ赤石ヤワラカナル方



見得申候へトモ、今ハ其石相見へ不申候  
当分光明寺江有



瑪瑙梅花洗記

指宿邑東方村距治所里余有山焉、曰唐山、古老相伝昔有西土人来住此、因得名、而往時其冢亦存、今也為烏有云、安政三年八月村民芻糞於唐山側、有砂土為兩所洗而崩陷者其中見一土塊、状如器物、剝土視之一器也、其形非常、其人寄之持之而帰、乃告里長請以献之、大夫新納君、々時為指宿地頭職、聞之使問其所以請之、意曰吾儕小人以土中偶所得者、得献之 君子、其為米莫大焉、豈又有他意哉、於是 君受之、厚賜物以謝之

一日 君召余示之且請為之記、余諦視之其質瑪瑙、其形似爵、高三寸一分、口博縮三寸、衡三寸九分、腹圍九寸三分、而凸起梅樹枝幹輪囷繞其腹、而下自成附、精工可愛、余謂、此蓋往時所住西土人所携來筆洗也、

雖其人不可知、年代不可考、然其雕鏤奇古造意臻妙、

固非近世、所及殆其六七百年物歟、嗚呼此器之不幸耶、久埋土中而不見天日、一旦為野人所得而遂升 尊貴之堂、亦非此器之幸耶、若野人得之以為已有、則雖出土中又遂藏於村野、今野人不以為已有而獻之君、以顯於世、見知於人、長承 君之愛翫、亦非幸之又幸者耶、夫一顯一晦幸与不幸豈特此器為然哉、凡物皆有數焉、因又思 君家有其 祖先為舟翁曾所愛古梅樹亦數百年物也、若其著花放香之日、以此器陳之書窓、則兩梅相對為嘉耦、媲美流芳以供 君之欣賞則不亦一奇遇乎、不亦一奇觀乎、 君曰善此宜書以俟後來也於是乎書、

安政四年丁巳冬十月

山田有裕拜識

安政丙辰秋八月指宿邑東方村農民市右衛門獲之於唐山沙土中、甚為奇古、乃因邑吏濫續之余、故余為函藏之記概蓋爾、

新納久仰 識

指宿東方村唐山記

久仰以國老為指宿地頭、安政丙辰八月邑內東方村農民芻蕘、於唐山得瑪瑙器於土中、乃告里長以贈諸余、其器奇古可為珍也、又聞先是土民開懇於此山、亦得古磁器、邑士竹內實有乞得而獻之、

大慈公嘗予遊於此乃獻其器於左右云、久仰謂、此地往

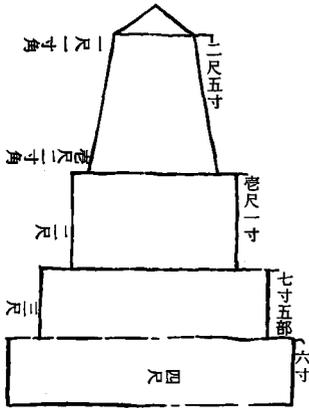
々出古器、必有以也、乃命里長質唐山之由、里長記所

(所說之)

傳之說并写古冢圖以遞致之、其言曰、唐山距治所西南里余、昔西土人燔化而來、家於此、因得名焉、又曰昔高僧還自西土者、以山似檀特卓錫於此、而敗冢皆并今尚存、故有此名、又曰、十町村光明寺、和銅中僧定惠所開、旧在唐山後、移今地而定惠墓亦存云、因按元亨

(藤原錄定)

積書、定惠大織冠長子投沙門惠隱出家、白雉四年隨遣



石碑  
惣高サ四尺九寸五部

指宿唐山碑銘建方左之通、

地頭新納駿河久仰識

安政六年己未三月

唐使到長安城、習学多年、伴百濟使而至白鳳七年九月也、而不日其為光明寺開基、又不日其葬于何地但以其化為和銅七年来由是觀之、其所謂高僧者殆其定惠乎、且其墓所記之卒年与釈書符合、則其為靈蹟亦昭々焉、因記其顛末於石、以建於此、使後來有所考、可為以驗矣、

石碑者通  
惣高サ四尺九寸五部  
土台石四尺  
繪図面通切調方  
代老兩三步  
但タンタトウ上通石ヲ以切調方ヨリ船場迄持届迄  
外ニ文字老字ニ付  
代四文ツ、

右之賦リ方仕候処右之通御座候間此段申上候、以上、  
未七月

石切頭  
竹下喜太郎

右は指宿唐山へ被召建筈ニテ中村新介殿へ石切調方之儀御頼ミ相成候処、右之通賦方為致被遣候間入御覽候処、繪図寸尺之通リニテ宜敷候ニ付、切調方ヨリ持届迄致手当給候様御頼ミ入相成候事、  
一石切調方致成就候間、何方へ可相届哉之旨中村氏ヨリ承リ候間、下室小路指宿浦間屋森田傳助方迄相届候様、

御受取トシテ可被才領申置候処、右傳助ヨリ八月廿二日相届候由申出候間、致格護置候様相達候事、

細々相達候処受合候ニ付、送状相認相渡置、左候テ石碑之儀庭包ニイタシ文字不相損様荷作為致引渡候事、

覚

一未八月廿三日、浦問屋方へ碑文認方トシテ伊東猛右衛

唐山石碑壹基

門差越候処、石切之金次郎・喜次郎ト申者兩人參居候

但三重土台

間、早速ヨリ認方打立大鐘時分漸々相濟候ニ付、直ニ

彫刻方取付候事、

右ハ先達テ被仰渡候通此節彫刻方御成就相成り、宮ヶ濱船帰便ヨリ御積入被差廻相届申候、尤唐山御見分之節私相勤申候ニ付、建方仕可申、然処当分爰許へ御新田御見聞トシテ郡奉行毛被差入、毎勤仕申候間、来ル十日比ニハ相濟可申賦御座候間、其上早速建方仕御届可申上候、此段申上候、以上、

一惣字数三百八拾四字

代錢壹貫六百文

卷字ニ付四文ツ、

石切之

金次郎

喜次郎

未九月四日

郷士年寄

寺田清太左衛門

右未八月廿三日ヨリ同廿五日迄相掛彫刻方相濟候、毎

覚

日為檢者差越候、右ニ付本行之通り代払イタシ候事、

唐山石碑一基

一右之通彫刻方相濟、然処指宿宮ヶ濱ヨリ菜種子積船前

但三重土台

之濱へ致滞船居候段承及候間、早速船頭召呼届方之儀

右ハ先達テ御差廻相成昨十一日罷登御地頭横目立会建

方仕、別紙之通取仕立置申候、尤見締人東方村中齋郷  
之市右衛門へ申付置候間此段御届申上候、以上、

未九月十二日

郷士年寄

寺田清左衛門

御用達

伊藤猛右衛門殿

一唐山麓絵図相添差上候ニ付左之通り写シ置也、



未九月

伊東猛右衛門

記之

一閏五月九日、先頃ハ雨続キニテ候処、梅雨中ニ相成<sup>(返)</sup>  
テ雨絶ニテ、当時田地仕付唐芋植付ナト潤ヒ頓ト無之

付、農民大<sup>(返)</sup>込リニテ、今日ヨリ明日迄吉野原并紫原ニ

テ雨乞有之候ナリ、梅雨中ニ雨乞ハ珍敷事ナルトソ、

然ハ今晚ニ相成少々雨降り出シ雨乞即驗共可申哉、乍

去昨夕方ヨリ少々曇リ居候ニ付祈ニ不拘事ソト存候事

一閏五月十日、出勤毎之通、今日

上様福昌寺ヨリ南泉院・寿国寺・南林寺マテ御参詣被  
遊、七ツ後御帰殿之由也、

一昨日夕方ヨリ雨降り出シ今日追々強降相成、九ツ後八  
ツ時分ヨリハ敵敷降相成、雷鳴等モ有之候事、

一閏五月十一日、今日モ細雨也、昨日之雨雷鳴ニ櫻島野

尻村ノ百姓夫婦雷死イタシ候由也、

一 閏五月十二日、夕方ヨリ田中八郎兵衛参候テ、無抛差  
迫リニ相成候間金子沓両取替イタシ呉候様、左候テ質  
物ニ沓刃筒貞氏作鉄砲遣シ置候旨ニテ持参ニ付、質物  
ニ不及金子ハイト安キ事候間可致合力旨申達候得共、  
其通ニテハ致迷惑候間是非鉄砲受取置候様承候間、其  
意ニ応シ金沓両遣シ鉄砲預リ置候、尤其段ハ先日ヨリ  
細々承趣モ有之候事也、左候テ今晚モ緩々咄イタシ帰  
リ也、

一 閏五月十三日、八ツ後島津帶刀殿御用向有之被参候、  
尤明日三番組・小組沓番之人数二之丸砲術稽古ニ御呼  
出シ被仰渡候ニ付而ナリ、

一 今日八ツ後二之丸御稽古所へ、造士館へ罷出候兒二才  
共都テ被召出、素読并席書或ハ説教等被仰付、暮ニ及  
相濟候由也、

一 閏五月十四日、出勤、九ツ時ヨリ下總殿拙者一所ニ二  
ノ丸砲術稽古御式日ニ、昨日ヨリ仰渡之通三番組・小  
組沓番之人数被召出候、尤諸士被召出候儀ハ今日初テ  
之事ニ付右之通也、尤御小姓与番頭鎌田典膳・島津帶  
刀罷出差引有之候、然共組頭ハ御庭内之事故陰ヨリ差  
引有之候、左候テ

上様ハ九ツ過ヨリ御出ニ付、下總殿拙者并御軍役方惣  
頭取之川上式部ニモ御座末ニテ

御目見、直ニ御直ノ間ノ末ニ相詰居稽古方見候、然如  
諸士御呼出之人数ハ初テノ事ニテ、不揃モ有之候得共  
先ツ太体之事也、奥向之人数ハ至極能相揃居候、左候  
テ一通リ手数相濟候節八ツ半時分一旦

御引入被遊、左候テ七ツ半時分又々

御出有之、夫ヨリ備ニテ稽古有之、空砲打方迄モ兼テ  
之通被仰付、日入時分惣体相濟直ニ御入被遊候、左候  
テ今日 御呼出シ人数へ素麵ニテモ被成下筈候へトモ  
時刻モ遅ク相成候ニ付、御目録ニテ被成下候間、可然

可取計トテ金子千疋頂戴被仰付候、今日御呼出之人数  
小番新番打込七十三人、其内児モ七八人罷在、其等之  
小輩ハ砲ハ不持足踏之稽古迄被仰付候、奥向惣人数モ  
七十三四人有之、兎角首尾能相濟仕合之事也、尤  
御入限リニテ御暇被下候間、直ニ仕廻一同退出イタシ  
候事也、

一 閏五月十五日、今朝御軍賦役成田彦十郎参リ、夜前八  
ツ時分穎娃ヨリ早打ヲ以テ、昨昼時分硫黄島西ノ方遠  
沖西ヨリ東ヘ差シ、異国船体之モノ通帆イタシ候ヘト  
モ、無程帆影モ不見得様ニ相成候トノ届有之候ヘトモ、  
右之通最早帆影モ不見得趣ニ付今朝持参ノ者承候間、  
其通路越候届ニ付何モ御手当及間敷、乍去御側役迄右  
之書付差出置候様相違候事、

一 今日五ツ時出勤、御役替等之御用多人数有之右之通也、  
左候テ四ツ時御座之間へ御出座、月次御礼、引続下總  
殿・伯耆殿御役々御礼并下總殿ハ地頭職之御礼モ被仰

付、夫ヨリ御書院へ御出座、月次御礼、引続島津出雲  
殿家督之御礼、且家来一人北郷平太左衛門ニモ  
御目見被仰付候、并佐土原ヨリ  
御着城御祝儀之使者モ

御目見被仰付候、右ニ付拙者御座之間御取合ヨリ御書  
院へノ

御先立相勤候事、

一 今日八ツ時御供揃ニテ磯御茶屋へ被為入候間、右之御  
席ニ新橋下台場并弁天波戸台場大砲船承天丸等  
御覽可被遊間、拙者モ罷出居候様ニ昨日ヨリ致承知居  
候間、九ツ後ヨリ退出、上町築出シ桐野某所へ立宿ニ  
テ、惣頭取川上式部・御軍賦役奉行田中仁右衛門・御  
軍賦役等モ相揃居、八ツ打直ニ承天丸近クへ橋船ニテ  
罷出居候処、無程

御出有之、直ニ承天丸へ

御乗被遊候間、我々モ罷出候処、委敷御覽有之、左候  
テ新橋下台場并大門口祇園洲台場ヨリモ一所ニ打方イ

タシ候様、尤浮的ハ昨日ヨリ繋キ置候ニ付、暫時賑々  
敷鳴音イタシ候、太体ニテ打方相止候処、新橋下台場  
へ被為入御見分被遊候、夫ヨリ弁天波戸場へ惣成就不  
相成候へトモ御覽有之、夫限りニテ我々ハ御暇被下、  
上様ニハ蒸気船へ被為乗御見分有之、夫ヨリ磯へ被為  
入御滞在之筈也、右ニ付拙者共ハ弁天波戸ヨリ下津畑  
へ渡リ、銘々相分レ大鐘時分帰宅イタシ候事、

一今日佐土原ヨリノ御贈リ物相届候、品物左之通也、

覚

新納駿河様へ

炙鱈

二簀卷

木綿

二反

穂北紙

五束

以上、

淡路守より

一今日都之城家督御礼ニ付、此方何レモ参候様承リ候へ  
共、拙者儀ハ前条之通り勤方、其外家内ハ差支有之、

次郎四郎・お悅参リ候、彼方ハ急度之祝ヒニテ候由、  
四ツ過罷帰り候也、

一今晚新納八郎兵衛・同休藏嫡家之儀ニ付用向有之被参  
候事、

一閏五月十六日、出勤毎之通り、今日鹿之間格ヲ以テ御

家老座ニテ左之通、

金山掛

新納駿河

右之通被 仰付候、

閏五月

登

右之通被仰付候、右ハ金山之儀御勝手方支配ニテ候へ  
トモ、此節御用部屋計ニ被仰付候間右之通被仰付候事  
也、御右筆頭ニテ御家老座奥掛書役勤野元市郎事、去  
年来胸・肩・背ニ掛痛強ク至極難儀イタシ候得共、追  
々快方ニ向、稀ニ出勤等モイタシ、宅ニテ之御用談等  
ハ何茂無差支趣ニテ昨日迄モ其通ニ候処、今日八ツ時

分吐血イタシ夫限り頓死之由、誠ニ家内モ存外ニテ驚入仕合候由、惜シキ人柄ニテ候事、当年四拾九歳カノ由也、

一 八ツ後岩山八郎太・山口喜三右衛門・堅山郷之丞・市來正之丞見廻候、是ハ今日産物方別銀ヨリ一人ニ付三拾兩ツ、被成下候御礼也、尤大目付座書役之産物方掛リモ四人程同様被仰付候事也、

一 閏五月十七日、出勤毎之通、昨日八ツ後小暑入ニ付、今日大目付以上於唐子之間伺御機嫌申上候、左候テ退出掛大奥ヘモ罷上伺御機嫌申上候事、

一 閏五月十八日、八ツ後重富御三居靜洞殿御私用之事有之、不凶御出ニテ御長談被成七ツ後御立也、

一 大鐘前北郷平太左衛門参候、尤豊前殿ヨリ御伝言之用向有之ニ付テ也、

一 同刻ヨリ伊敷方へ乗廻シ步行ニ差越、不動院近クヨリ

引返シ暮時分帰宅也、

一 閏五月廿一日、急飛御差立候ニ付、永江休之丞へ御内用筋致問合置候事、

一 今日新在番摩文仁親方年頭御祝儀并諸御祝儀、且御礼等之使者兼務ニテ、今月十一日那覇川出帆、十六日坊津着船、陸地罷通り昨日御当地上着イタシ、且琉球館書役嵩原親雲上并与力兼城親雲上召列見廻也、且又来午年江戸立方旅籠役田里親雲上・田名親雲上并旅方書役和宇慶親雲上ニモ同様上着イタシ候トテ見廻也、

一 閏五月廿二日、出勤毎之通、今日御殿ニテ山田壯右衛門御取次ヲ以、於唐子之間左之御品々拝領被仰付候、右ハ此内琉人到来之品物共御内々進上イタシ候御返シノ由也、右ニ付同人へ相付則御礼申上置候事、御添書左之通也、

覚

硯箱 一通

押懸 二懸

以上、

一 御勘定奉行本田六左衛門事、此内ヨリ長々病氣ニ付今

日御役御断願之通被仰付、左候テ六十一ヶ年御役相勤

当年八十四歳カニテ首尾能退役ニ付紗綾三卷拜領被仰

付候、尤多年相勤其内江戸詰等モ多年ニテ物入ニ及、

当时至極困究之由ニ付、此内ヨリ御訴訟有之御側役暨

山武兵衛等へ申談奉伺候処、金百五拾兩先日御内々頂

戴被仰付候事、

事、

義岡主殿組

御小姓与  
田代太郎太

右来午春代中之島在番申付候条可申渡候、

閏五月

駿河

右之通御心付名代勤被仰付候、尤拙者名前ニ候得共御

家老中一同へ七島在番被仰付、割り合之事ニテ名前不

差合トノ旨モ及承候事也、

一 閏五月廿四日、新在番摩文仁親方へ肴一折・酒一樽上

着之祝儀トシテ差シ遣シ候事、

一 当家先祖代ヨリ元服之節拜領其外段々由緒有之、或ハ

近代且拙者相求置候刀・脇差等迄訳有之分ハ、中心ニ

其段彫リ込、去々年比ヨリ少々、イタシ昨今日モ五

六本出来イタシ候、為見合此旨記シ置也、

候、

一 今日御軍賦役掛御用人島津藤馬取次ヲ以左之通被仰付

昨日拜領物之御礼申上置候事、

一 閏五月廿三日、五時出宅、南林寺へ致参詣夫ヨリ山中

墓参イタシ、出勤毎之通也、今日山田壯右衛門へ相付

〔朱書〕  
一本行十月廿二日安藤新之助江金拾貳両式歩ニ付属イタシ候

一 閏五月廿六日、五ツ過出宅福昌寺へ

(島津重豪様寄)  
玉貌院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

但

御愼靈様江御代拝

着服麻袴

右之通相勤、別勤ニ付帰リヨリ深固院并ニ月香院大興寺へ御墓参等イタシ、九ツ前帰宅候事、

一去年ヨリ小牧良助へ鍛作り方相頼置候処下作り出来候ニ付、金物へ知覧之鍛冶へ相頼候処是亦無程出来ニ付、ヌリ方へ植村平左衛門へ頼置候処、追々出来ニ付、近比金具師永岩善兵衛へ銀ニテ紋所相頼置候処、是モ先日出来植村へ付調方迄モ相頼惣成就ニテ今朝差出至極宜敷出来、廻リ別テ喜悦イタシ、カコノ所透シ丸茄子<sup>(紋具)</sup>之形ニテ、一体伊勢作之鏡形写シ也、

一当家所持之刀・脇差ニ中心彫刻等先日ヨリ伊地知平覺正良へ頼置候処、今日モ大小四本共出来候事、

一今晚四時分磯詰御小納戸ヨリ、左之通り拝領被仰付候

旨、申来候間、致頂戴御請書等差出候事、

鹿 卷肢

右拝領被 仰付候間御頂戴可被成候、以上、

閏五月廿六日 御小納戸

新納駿河殿

一閏五月廿七日、今朝法允宇左衛門一昨日大島ヨリ罷リ

登リ候トテ見廻ナリ、島元之成行細々申出有之候事、

一今日出勤毎之通、夜前拝領被 仰付候鹿之御礼、当分

磯江

御逗留中候得共、於御殿御小納戸伊集院藤九郎へ相付

申上置候事、

一先月末之中急キ当月二日被差立夜前着、右便ヨリ申来

候、於江戸先月廿三日御能方面々十人計列立、佐水蒲

屋ト云所へ酒ノミニ参リ候処、淵脇正左衛門ト云樋脇

郷士列合之者ヲ三人即座ニ突殺シ、其身モ致自殺候由、御外聞旁別テ不可然次第也、左候テ蒲屋等江不事立様ニ御頼入旁ノ為金式百兩余モ被下候由也、

一 夕方ヨリ都之城出雲殿御出被成、跡ヨリ北郷哲五郎殿モ夜咄トシテ被參候テ緩々ニテ御帰リ也、

一 閏五月廿八日、岩下清之丞事御代官格横目勤是迄之通リ被仰付候為御礼見廻リナリ、拙者世話イタシ候訳有之候ニ付テナリ、

一 閏五月廿九日、今日ヨリ豊後殿事霧島へ湯治トシテ被差越候事、

一 六月朔日、出勤毎之通、

一 六月三日、先月末之定式中急差立候ニ付、江戸永江其外へ書状差越候、尤永江ハ先頃

宰相様御機嫌能御參府之為御祝儀御肴料金三百疋進上ニテ五月廿九日御祝儀之御披露取計被具候処、御都合能候旨申来居候間、左様ノ礼共申越候、且又佐土原之城主江モ左之通御礼申上越候事、

一 筆啓上仕候、愈御堅勝被成御座珍重御儀奉存候、然ハ炙鱒二簀卷・木綿二端・穂北紙五束被下之、被為入御念儀忝奉存候、御礼為可申上如斯御座候、恐惶謹言、

六月三日  
新納駿河  
久仰判

島淡路守様

一 六月四日、八ツ後ヨリ御勝手方書役前田傳左衛門・日置半兵衛諸役場当年御心付藏方賦吟味ニ参リ、夕方帰リ也、

一 六月八日、用達伊東茂右衛門ヨリ大隅国加治木之住池六郎正路へ袋籠打調方相頼候処、此節出来差越候へト

モ、代金等調兼候間拙者入用共有之候ハ、取入間敷哉  
之旨ニテ為見候間、至テ幸之儀ニテ則相求置候、袋鐘  
ニテ大隅国正路ト袋ニ銘アリ、代金三步一朱ニテ候事、  
一預リ所高岡ヨリ暑中尋左之通差出候、

覚

高岡

右二行料物金百疋

右御嫡子様へ

一炙鮎 一籠

一酒 一荷

右式行料物金百疋

右若奥方様へ

右之通暑中伺御機嫌トシテ進上仕候間宜敷御披露可

被下候、以上、

已六月 郷土年寄 河上笹右衛門

同 今井元右衛門

同 長野助兵衛

同 本田次郎五郎

同 一佐土原ヨリ暑中御尋トシテ左之通り被下候事、

一粕漬鱒 一桶

一酒 一樽

一炙鮎 一籠

一酒 一荷

右二行料物金百疋

右奥方様へ

一炙鮎 一籠

一酒 一荷

一炙鮎 一籠

一素麵 一折

一酒 一荷

右三行料物金貳百疋

右御地頭様へ

一炙鮎 一籠

一酒 一荷

右二行ニテ毎之通御状相添也、

宰相様御代拝

但

一六月九日、<sup>(新納久敬老)</sup>璞心院様来月九日御一周忌被為成候得トモ

御惣霊様へ御代拝

今日ニ取越興国寺へ相頼ミ御法事イタシ候間、今朝五

着服麻袴

ツ時ヨリ次郎四郎并用頼長野源助役人前田嘉平次差シ

右之通相動別勤也、

越シ候事、

一松島親方宿元ヨリ到来之趣ニテ塩豚一重・焼酎砧一双

一今日出勤毎之通ニテ、四ツ打切直ニ御側役豎山武兵衛

内証ヨリ之尋トシテ贈リ有之候事、

へ相付八郎太御暇奉願候、退出、夫ヨリ興国寺御法事

一今日大鐘時分ヨリ武村方へ乗廻歩行ニ差越、暮時分婦

御牌前并御墓参共イタシ、九ツ過帰宅候、左候テ八ツ

宅候事、

後ヨリ追々類中并兼テ被致出入其時分預世話候面々等

一今日地頭所指宿ヨリ暑中尋左之通り差出シ遣シ候事、

相招、餛飯トモ振廻候、名前等ハ愛ニ略ス、

覚

指宿

一六月十日、五時福昌寺へ

一肴

一折

廣大院様

一酒

一樽

慈徳院様

式行料物売貫五百文

大慈院様御忌日ニ付

一素麵

一台

太守様

代料老貫文

一西瓜 三ツ

代料三百文

一紙袋 五ツ現品

右御地頭様御方へ

一肴 一折

一酒 一樽

式行料物壹貫二百文

一西瓜 三ツ

代料三百文

一玉子 一台現品

右奥方様御方へ

一肴 一折

一酒 一樽

式行料物壹貫貳百文

一西瓜 三ツ

代料三百文

右御子様方御相中江

合料物五貫八百文

右之通暑中伺御機嫌申上候間差上申候ニ付、宜敷様御取成奉頼候、以上、

巳六月 郷士年寄 寺田清太左衛門

一六月十二日、八ツ後井上嘉左衛門・日置半兵へ招呼、

前田傳左衛門所帶方極々差迫日勤モ調兼候、就テハ屹

ト家内中之取締無之候テ不叶訳合ニ付、右之両人ヨリ

傳左衛門へハ勿論、懇意之朋友共ニテモ見立委敷致異

見候様申達置候事也、

一今晚梅北宗右衛門被參候、是へ先日ヨリ加世田川邊方

へ旅行ニ付、川邊玉泉寺へ花岳道春様之御墓致再建度

内存有之候ニ付、当春モ細々糺方且ハ地面モ見合置候

ニ付、買入之儀共相頼置候処、去ル朔日約束モ相済代

料入付致引結候トテ証文等持參也、

証文

御寺境内

墓地

壱坪

右ハ新納駿河殿先祖花<sup>(新納結久)</sup>岳道春庵主之墓住古御寺内ヘ為

有之由候ヘトモ、多年致破壊居候ニ付、此節被致再建

度及御相談候処、御承諾ニ付右通御貰申度、地料差上

申候間御引渡給度、尤後年住替等之節々紛敷無之様、

御帳面ニテ御次渡給候様御頼申上候、此段駿河殿被承

届如斯御座候、以上、

安政四年巳

用頼代

梅北宗右衛門印

六月朔日

川邊

玉泉寺

御役僧衆

証文

寺地 壱坪

但

地料七百文

右ハ新納駿河様御先祖様花岳道春庵主御墓此節御再興

ニ付、当地之内右之通御取入相成、為地料寺納仕候儀

別条無御座候、尤住持代合等之節ハ紛敷無之様次渡置

可申候、仍テ証文如斯御座候、以上、

但

過去帳ヘモ此段書載置可申候、

安政四年巳

川邊玉泉寺  
量梵印

六月朔日

御用頼

梅北宗右衛門殿

右之通新納駿河様御先祖様御墓玉泉寺ヘ御再興ニ付、

寺地ノ内御取入相成候儀別条無御座候、仍テ次書如斯

御座候、以上、

巳六月朔日

玉泉寺役人  
木原七郎印

梅北宗右衛門殿

一六月十三日、此節上国在番摩文仁親方、初テ之見廻イ  
タシ度旨先日ヨリ承居候ニ付、今朝四ツ前關役新納太  
郎左衛門同伴ニテ見廻有之候ニ付、毎之通吸物・差身  
等ニテ盃事三返イタシ候、右相濟直ニ歸リ也、贈リ物  
モ左之通、

覚

御扇子 一箱

藤盆 十

十錦太碗 十

紺地鳥細上布 二端

紺島細上布 二端

縮緬紅 二卷

縮緬白 二卷

白滑大綸子 一本

天青漢府龍紋緞子 一本

太白砂糖 一籠

焼酎砧 一 双

以上、

摩文仁親方

右之通ニテ、何事モ定式之通互ニ致会釈候事、

一六月十四日、摩文仁親方内意事有之、關役太郎左衛門  
同道ニテ被參候、右ニ付米砂糖一籠・焼酎砧一 双送り  
有之候、

一六月十五日、晴天、暑氣甚シ、今日例之通祇園洲祭礼  
有之山引廻シイタシ候、上様ニハイマタ磯へ御逗留  
中也、

一今日お悦事ハ四ツ前ヨリ哲五郎殿所へ見物被參、夕方  
歸リ候事、

一六月十六日、新納衛守殿所へ秘蔵之先祖又左衛門久了  
大之犬追物伝書一箱始抹不行届ニ付、此内ヨリ此方へ

預リ置候処、此節島津下總殿ヨリ一覽イタシ度旨承候

ニ付、今朝箱入付之儘遣シ置候、尤品立書別帳ニイタ

シ置候事、

一 迫水善左衛門へ此内相頼、江戸へ致調文置候お悦并拙

者入用長持袴対・箆笥大二ツ・小二ツ・鏡之<sup>マ</sup>箆等大小

二ツ・飯碗具等迄モ、都テ大廻船大願丸先日前之濱着

船ニテ今日右ノ道具相届候、何茂痛損無之品柄モ随分

宜敷仕合ノ事也、

一 今日お鐵正忌日ニ付退出ヨリ拙者墓參イタシ候、存命

候得ハ最早式拾七歳之賦リナリ、

一 七ツ後ヨリ山田壯右衛門被參候、段々御用向有之暮ニ

被帰候事、

一 六月十七日、八ツ後磯ヨリ大鯛二尾拜領被仰付、御小

納戸ヨリ左之通申来候、

鯛 一折

右ハ先達テ西瓜御進上有之候為御返被下相成候ニ付、

差廻候間御頂戴可被成候、以上、

六月十七日

追テ御礼之儀ハ私ヨリ御取合申上置候ニ付、別段被仰

上不及候、此旨モ申上候、以上、

磯詰御小納戸  
豎山八郎

駿河殿  
用達

鯛 一折

右ハ先達テ進上物仕候処為御返被成下候間、頂戴可仕

旨御書付之趣承知仕難有頂戴仕候、御礼ハ別段罷上リ

可申上候、其内御受迄申上置候、以上、

六月十七日

追テ御礼之儀ハ御取合被仰上置被下候段モ承知仕、重

疊難有奉存候、乍去追テ罷上、猶又申上候様可仕候、

此旨モ申上置候、以上、

磯詰御小納戸  
豎山八郎様

新納駿河

敷存候へトモ、古書之扱処モ無之候へハ、今更是非モ  
論シ難ク、只伝来之儘ニテ秘藏イタシ置趣共別紙刀剣  
帳ニ細記イタシ、此段大意ヲ爰ニ記シ置候事、

右之通御受書差出候、尤料紙小奉書半切ニ相認候事、

一 今夕方ヨリ新納四郎右衛門・同喜左衛門・同彌太右衛

門・同八郎兵衛・同休藏・同三次出会相催、拙者父子

相揃嫡家之四郎殿事今通りニテハ兎角往々家格之御奉

行難被調、就テハイッレ三躰堂之方へ引越栖居有之候

ハ、可然申談、左候テ四郎殿老人ニ無之、御家内都テ

被差越候様無之候テハ相叶間敷、勿論其後之儀ハ追々

吟味モイタシ、何分ニモ家系立行候様有之度、彼是不

輕訳合筋ノ致吟味、九ツ過イッレモ被帰候事、

一 右喜右衛門家へ、元祖悪四郎久顯、ウフメト云雪女ニ

逢フテ被得タルトテ、短刀重宝有之由承居候ニ付、今

日望ミ見候処、至極ノ短刀小作り之物ナリ、当家へモ

同様申伝短刀一口所持セリ、ケ様之靈劍二本トモ有間

一 六月十八日、朝木脇賀左衛門被参候、今夕方ヨリ出立

ニテ長崎へ差越筈ニ付、御用筋段々有之長談也、

一 今日出勤毎之通、左候テ昨日御着拜領被仰付候御礼、

イマタ磯へ

御逗留之事候へトモ、今日御殿詰御小納戸井上庄太郎

へ相付申上置候事、

一 当二月坊津一乘院内橋隠軒様御墓参イタシ候処、御墓

相損居候ニ付建替方之儀、坊津郷士年来御墓致見締候

伊瀬知直之進へ頼込置候処、此節建替方惣首尾イタシ

成り行キ申出候間、始終ノ成行キ左之通り記シ置候事、

一 然ハ先達御廻勤之節

御領主様ヨリ御沙汰承知仕居候御石塔御立替之儀ニ付

其後古墓等段々見合吟味仕候処、別紙絵図之通寸尺仕

候ハ、可宜哉ト吟味仕申候間、御伺被下何分思召之程被仰下度奉願候、本石取高ハ則取付申度加世田之石切共へ申遣候処、子共瘡瘡ニテ難迦御座候へトモ、相次第可差越返答有之候処、先日ヨリ四五人列立差越申候ニ付、昨日ヨリ本石取方ニ取掛リ申候間、御碑文之御取シラへ出来申候ハ、早目ニ御遣被下度奉存候、且又橘隠軒様御位牌御祠堂銀之儀モ相糺可申上旨承知仕居、シラへ申候処別紙之通御座候間、是又御申上置可被下候、以上、

三月十六日

伊瀬地直之進

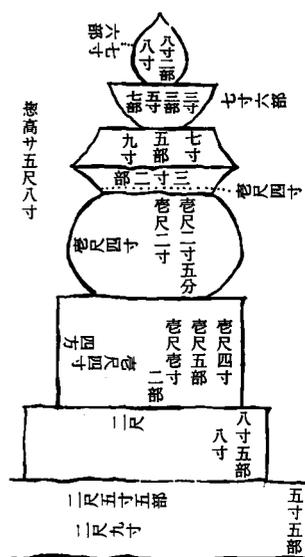
伊東茂右衛門様

文政二年卯八月八日

銀式百目

橘隠軒様位牌料トシテ畠山式部殿寄附、

橘隠軒様御墓絵図此通申候へトモ、朱書之通申遣置候事、



別紙被遣候絵図通ニテ可然候へトモ、為念御作事方石切方へ吟味相頼候処、朱書通有之候得ハ、猶可然トノ旨承候間、未其元石切方惣成就ニ相成不申候ハ、朱書之通御調ハセ可給候、若又其通出来方六ヶ敷候ハ、少々惣高サヲ下ケ今少シヒクキ方ニ御調セ可給候、左候ハ、大風何ソノ節タラレ不申丈夫ト成方ト吟味イタシ候、銘々文字モ朱書ニ応シ相認メ差越候間、若又石切方成就ニ相成居候ハ、其方ヨリ被遣候絵図之通ニテ宜敷候間、文字モ矢張り此方ヨリ遣候紙形ヲ石ノ中程ニ張付御彫ラセ可給候、左候ハ、銘々所石之上下少

シ太ク明キ申賦ニテ、外ニ何ソ差障モ有之間敷相考申候間、左様御取シメトシテ可給候、左候テ石塔忽成就之上ハ、惣高サ何程トノ龜絵凶御遣置給度御頼申達候、此段旁張紙ヲ以申進候、以上、

四月八日

伊東茂右衛門

伊瀬地直之進様

天正十三年

丸石ニアリ 角石ニ年号共記ス  
橋隠軒 啓叔常榮庵主  
(長寿院盛淳父)

乙酉八月七日

〔朱書〕  
〔左脇〕 「文字配此之通」

君 諱 頼 國 畠 山 氏 中  
務 少 輔 其 先 河 内 国  
人 世 仕 幕 府 補 管  
領 職 至 君 詣 京 居 今  
出 川 第 天 文 己 亥 匿  
名 避 乱 来 薩 坊 津 寓

〔朱書〕  
〔後之方〕

一 乘 院 自 称 橋 隠 軒  
邦 君 屢 招 慶 府 待 以  
賓 礼 特 見 寵 眷 卒 年  
七 十 六 法 号 忌 日 如  
題 前 面 至 寛 政 丙 辰  
旧 墳 殆 廢 余 生 父 義  
〔朱書〕  
〔右脇〕  
矩 恐 久 而 失 其 処 研  
石 建 墓 今 也 石 防 銘  
寝 漫 滅 故 余 繼 志 与  
今 義 胤 謀 更 復 建 焉  
安 政 丁 巳 春

新 納 久 仰 誌

一 然ハ領主ヨリ御頼被申置候石塔立替方之儀、則ヨリ段々御世話ヲ以加世田之石切へ御掛合給候処、早速四五人差越本石取方ニ取付候由定テ無滞出来上リ申候半、

尤石塔格好モ細々絵図面被遣段々御面働(働)ニ相成候、此方モ亦々西目方限廻勤被致先月末方帰リニテ、其折御状モ致承知候、則ヨリ銘文モ取シラヘニ相成被遣候、絵図モ為念御作事方石切方江吟味相頼候処、朱書ヲ以取直シ御座候間其成リ差遣候、其元モ最早成就ニテハ有之間敷哉、左様共候ハ、其方ヨリ被遣候絵図通ニテモ宜敷御座候、乍去若哉取直シ相調事ニ御座候ハ、少々ニテモ朱書ニ似寄候様取直有之候ハ、大風等之節倒レ不申丈夫成筈ト及吟味候、左候テ銘文等モ唐紙ニ相認差越申候間、右ヲ張り付彫リ方之儀御申付可給候、文字モ為念ニ通差越申候間、字ノ太ク有之方ヲ御彫ラセ可給候、少シテモ文字ハ太ク深く彫リ候方被申(無カ)迄永々之為ニ宜カルベク候間、左様御心得可給候、一位牌祠堂之儀御シラセ被下致承知候、是以御面働(働)ニ罷成候、

一石塔切替之代料之儀差上置候、三両ニテ不足等モ御座候ハ、早々御聞セ可被給候、右旁早速御返答可致候処、

前文之通領主旅行ニテ致延引候、石切方繰合モ不都合ニ候半ナガラ、無致形(急)此旨御答且ハ旁御頼申上候様被申付、猶又此上之所ハ何分ニモ御任セ申上候間、無御遠慮御見計ヲ以テ御世話可給旨、訳テ申遣候様被申付候間、左様御心得被成宜敷様御取計可給候、此段旁申上候、以上、

四月八日

新納駿河用達

伊東茂右衛門

伊瀬知直之進様

一橋隠軒様御石塔立替方、前文絵図面之通、五輪ニテ寸尺朱書付之通久志江之浦石ニテ相調、其外坊津石ニテ地廻リ、石垣押廻シ、四方共高サ二尺ツ、石垣仕廻シ、前之方ハ是迄土手之形リニテ候ニ付、此節石垣築立惣成就イタシ、巳六月伊瀬知直之進出府ニテ、同廿一日細々届申出候事、

但石工并夫方賃錢払等左之通、且地廻リ籠絵図モ差出候事、

覚

久志江之浦石

惣磨御石塔老組

一右同御石燈炉老組

一右同御花立并水溜老ツ

一御墓所石垣并囲垣廻り迄

右諸払

一下業拾五人

賃錢四貫五百文

但石取方

一夫拾四人

右同貳貫八百文

但津畑迄石持下シ夫

一同六人

右同老貫貳百文

但船積并卸方迄

一同六人

賃錢老貫貳百文

但泊濱ヨリ御墓迄石持届夫

一下業貳拾四人

右同七貫貳百文

但切調并立方迄

ノ拾六貫九百文

一同拾貳人

右同三貫六百文

但石垣并塀石取調方ヨリ仕調迄

一夫拾人

右同貳貫文

但石持届方并小取夫迄

ノ五貫六百文

惣合下業五拾一人

合賃錢拾五貫三百文

但老人ニ付三百文ツ、

惣合夫三十六人

合賃錢七貫貳百文

但一日一人ニ付貳百文ツ、

二口合式拾貳貫五百文

外ニ

金百疋

但一乘院住持兩度御経供養等相頼候付布施

大惣合錢貳拾四貫三百文

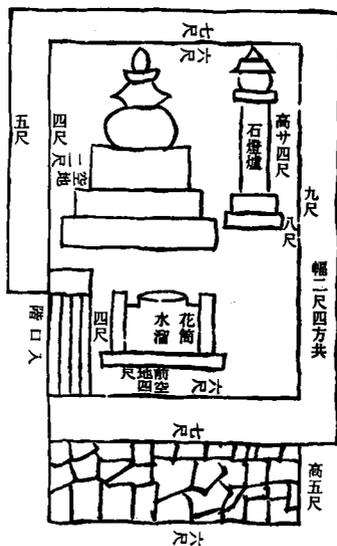
金ニシテ三兩考分式朱

右ハ御石塔御造立之儀承知仕諸弘方仕候処、右之通り御座候間、宜敷御取計ヒ可被下候、以上、

巳六月十八日

伊瀬地直之進

伊東茂右衛門様



一 橋隱軒様御墓之儀殿父義矩君御崇敬被成置候次第、為  
見合左ニ抄録イタシ置也、

〔朱〕  
〔義矩記〕

一 橋隱軒様御事坊津ニテ御死去、御墓一乘院ニ有之由申

伝、段々相糺候へトモ致伝失候、依之去ル寛政三年亥七月末我等事伊作温泉御暇ニテ坊津へ差越、一乘院寺中鳥越奥院等之古墳ハ勿論、村老野人之申伝等段々相糺候得共不尋付、夫形罷帰候、然処同八年辰五月下旬鳥山孫右衛門参リ致咄候ハ、彼家来志戸岡周助ト申者、日州佐土原産ニテ永代ニ相抱、鹿籠金山へ中宿此節泊之内へ致転宅候、先日彼ハ自宅へ参リ相尋候ハ、泊之内草野村ト云所ニ鳥山橋隱軒様ト申之御墓御座候、御先祖様ニテモ可有御座哉自身草野へ参リ見候処、川口隱岐入道ト申之墓モ同所ニ有之、川口氏ハ御家中ニテ茂候カト相見得候由周助致咄候由、孫左衛門被申候付、又候伊作温泉御暇ニテ、永田平左衛門列立家来藤井萬太郎召列衆從三人ニテ六月十六日夜半時分鹿兒島出立、翌十七日夜加世田日新寺へ止宿、翌十八日雨降昼時分漸ク泊之内草野村へ罷着、案内ヲ乞川口隱岐入道之墓并其脇ニ有之橋隱軒様御墓ト承及候ヲ見候得ハ、妙珍禅尼八月廿八日ト有之、就夫相考候ハ、橋隱軒様奥方

之御墓ニテハ有間敷哉、是モ御墓不相知法名玉宝妙珍  
 庵主ト称シ候、是ヲ橋隱軒様御墓ト伝聞之誤カト相考、  
 一乘院へ参リ門前へ止宿、其夜周助召呼相尋候共耽ト  
 不相分候付、翌十九日所役共其外召呼承候得ハ、坊津郷  
 士年寄伊瀬地仙太夫ト申者之咄ニ、橋隱軒様御墳墓ハ  
 一乘院之後坊ト泊之境鳥越ト申所ニ為在之段承及候旨  
 慥成致咄候ニ付、翌廿日猶又相糺候得ハ、一乘院門前之  
 弥右衛門ト申者、先年致畑開キ候砌墓石持除候由相知  
 候ニ付、直ニ弥右衛門ヲ召呼仙太夫ヨリ相糺候処、廿  
 年計以前致畑開キ候折、土台石三尺余リ有之、其上ニ  
 石尅重相残居候ヲ取除候、尤五輪ト相見得候、先年御  
 糺之砌ハ墓石取除キ候事故態ト隠居候由申出候付、直  
 ニ弥右衛門召列持除候ト覚居候辺、我等モ共々致見分  
 候得共、廿年計以前之事ニテ不相知候、依之一乘院并  
 所役共へ致内談候ハ、此上可糺附期不相見得候、不苦  
 候ハ、掘候テ見度旨致内談候処、不苦由承候ニ付キ、  
 翌廿一日早朝ヨリ直ニ仙太夫弥右衛門ヲ召列、弥右衛

門頭取ニテ此辺ト覚候処ヲ掘候へハ、土器式ツ並燈明  
 皿掘出候、其後赤色真石四人持位又鶴之ハシニテ割候  
 儘之三尺方計以上之大石出、夫ヨリ三尺廻リ程カ一筋  
 土之色替候ヲ無程骨出候、左候テ右之所ヨリ引続三拾  
 帖余茂多人數ヲ以為掘候得共何茂不相見得候、尤右之  
 所外ニ墳墓無之、只一面之畠地ニテ仙太夫聞伝弥右衛  
 門覚皆以致符合候ニ付、一乘院隠居へ相頼致ト筮候処  
 弥其通無相違トノ事ニ付、橋隱軒様御墓ト致一決、一  
 乘院住持法印覺仁へ相頼、御骨ハ壺ニ入本之通奉納候、  
 前文武ツノ石其外之品モ本之通相納置候而、同廿二日  
 大鐘前比坊津出立、其夜加世田津貫村へ止宿、翌廿三  
 日日新寺踊見物、其夜川邊神殿村へ止宿、翌廿四日瑞  
 朝寺へ参詣、其夜鹿兒島へ帰着、左候テ右妙珍禅尼忌  
 日八月廿八日則見合候処、橋隱軒様奥方玉寶妙珍庵主  
 ハ忌日九月十三日ニ而、忌日致相違候ニ付是ハ別人ト  
 相決候事、

寛政八年辰八月日

義矩

一六月廿日、五時福昌寺へ

(鳥津重孝)  
大信院様

(鳥津齊興宅)  
賢章院様御忌日ニ付

太守様御代拝

宰相様御代参

但

御惣霊様へ御代拝

着服麻袴

右之通相勤別勤也、

一四ツ後甲斐右八郎被参候、左候テ指宿郷士平嶺新藏父

子并野村剛太夫人柄等之事、書付ヲ以被申聞候事、

一八ツ後静洞殿御私用有之、今日モ押掛御出被成暫時ニ

テ御帰り也、

一六月廿三日、五時寿国寺へ

(鳥津齊宣雜室)  
蓮亭院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

着服麻袴

右之通相勤別勤也、夫ヨリ南林寺へ致参詣候テ四ツ時

分帰宅候事、

一今朝ヨリ雨ニテ候へトモ、夕方ニ成候テ空モ、晴候ニ

付、お悦・彦熊南林寺へ参詣イタシ候、尤彦熊ハ安之

助事也、此節ヤス寧姫様御弘メ有之、安之字遠慮ニテ彦

熊ト改名為致候事、  
(鳥津齊彬玄子)

一昨夕方ヨリ大口之家来松坂市右衛門・岩城弥助・宮原

金太郎加世田踊見物トシテ差越、今夕方帰り候事、

一六月廿四日、朝新納三次被参候、明朝ヨリ四郎殿御供

ニテ三駄堂へ差越之一件用向有之、且金老両三步此方

へ在金之丈取替ニテ持帰り也、左候テ夕方新納八郎兵

衛モ被参候、是亦明朝ヨリ四郎殿御供ニテ踊へ差越之

筈ニ付用向有之候也、尤四郎殿御人品ニ付テハ先夜類

中一会及相談候通、兎角往々家格之御奉公難調次第誠

ニテ乍残念不及是非、兎角往々三鉢堂栖居ニテ跡職之儀ハ篤ト可及吟味申談也、就テハ四郎殿御姉上ノおセイトノ事モ全体柔弱之生レ付ニテ、其上始終惣身腫物イタシ病身ニ付テハ、是モ往々縁与等モ間遠キ人柄ニ付、四郎殿同様三鉢堂栖居ノ内意ナリ、且又四郎殿御叔母お熊トノ事モ此内一旦ハ新納四郎五郎へ縁与有之、男子モ一人ハ出生有之候へトモ離別ニテ、全体チ

ト氣過之人品ニ候へハ、是モ縁遠ク旁之儀トモ、末家中氣之毒ナカラ右之三人ハ往々三鉢堂栖居之方可然トノ内意也、其外おサトトノ・おカネトノ兩人ハ衆并、殊におサトトノハ幼少ヨリ家事モ相勤、今以家内中ノ着類洗濯等ヲ勤メ、下女モ不被召仕都テ朝夕ノ飯廻リヲモ、おサトトノ一人ニテ世話被致、誠ニ奇特成人品ニテ候間、追々此人ヲ取立度内存也、然共此節ハ家内不殘引越ニ不相成候テハ情合旁難致訳合有之、一列ニ明曉打上荷船二艘ニテ國分濱之市迄差越一宿、翌日（坂）へ参着之手当也、右之通四郎殿・お熊トノ・おセイト

ノ三人ハ、何レモ三鉢堂へ永住ニテ無之候得ハ不相濟成行誠ニ苦々數次第也、尤ヲサトトノ・おカネトノハ不遠爰元へ歸リ有之候様取計不致候テ不叶、旁末家中一同別テ心痛之事共也、

一 六月廿五日、今曉四郎殿御家内中御打立之筈候処、順風無之差延ニ相成候事、

一 今日夕方坊津郷士年寄伊瀬（地）知直之進見廻候、尤先日ヨリ致出府居候段ハ及承居候、右ハ前条ニ記シ置候通、畠山家先祖橋隠軒様御墓所見締旁右直之進親之仙大夫ト申者へ、義矩君ヨリ御頼被置、引統直之進致世話候付、当春拙者彼地へ差越候節致世話、殊ニ御墓石霜崩等ノ損シモ有之候ニ付、立替之儀共頼置候処、先達テ致成就、此節細事届モ申出候付、彼是之為挨拶金子百疋・掛物一幅・鶴之絵探信筆并品々取合之包物共直之進へ差遣候、左候テ暫罷在歸り候也、

一 今日摩文仁親方ヨリ安否為尋、鶏頭（下）飯一重・唐釜（下）壺

贈り有之候也、且又古在番松島親方ヨリ、在勤中段々  
預世話首尾能勤仕廻候トテ、左之通品物持参ニテ見廻  
有之候也、

覚

御扇子 一箱

御菓子皿 十

紺地島細上布 一端

紺嶋細上布 一端

水色滑大綸子 一本

六月廿五日

松島親方

一大坂古御銀主和田休左衛門ヨリ暑中為尋菓子料金子二  
百疋、且亦京都御染屋中島利兵衛同姓利助・瀬尾源九  
郎相中ヨリ紹肩衣染地式具、例年之通り差贈り今日相  
届候事、

一六月廿六日、晴天、今晚四郎殿始御家内中打立被成、

八郎兵衛・三次御供イタシ候事、

一今朝佐土原之權藤直一郎見廻リ暫時ニテ帰り也、右ハ  
主用ニテ先日ヨリ致出府居、今朝モ用向有之ニ付テ也、  
一八ツ後甲斐右八郎被参諸郷御藏々茅フキ普請之儀ニ付  
存寄有之、書付ヲ以テ被申聞候事也、

一六月廿八日、例年之通小役人書役等へ御心付藏役方今  
日申渡相成候ニ付、御礼トシテ段々見廻人有之候事、  
一兵庫小豆屋畠山助右衛門ヨリ、次郎四郎へ婚禮且嫡男  
生出等之祝儀共、此節飛脚便ヨリ申遣候ニ付、明日之  
飛脚便ヨリ、返礼トシテ拙者到来之唐扇子并細上布共  
取合、次郎四郎ヨリ書状共相添差越候様致下知候事、  
一岩下清之丞明日江戸へ出立之筈ニテ、為暇乞見廻有之  
候ニ付、輕品餞別トモ差遣候、且岩下佐次右衛門へ書  
状并音物トモ相頼候事、

一六月晦日、今晚山田壯右衛門被参候テ御用談長々ニ相

成候事、

一 七月朔日、昨日ヨリ東風強ク夜前モ終夜騒々敷候ニ付  
何様可相成哉ト存居候処、今晚ヨリ和ラキ今日静ニ相  
成候事、

一 今日周防殿事帖佐地頭職ノ外ニ蒲生地頭職被仰付、合  
テ二ヶ所之事ニ相成候、右ハ以前ニモ垂水之靜山殿ナ  
ト有之御例ヲ以被仰付候事也、

一 江夏十郎事、今日御小納戸格御伽役兼務被仰付候事、

一 夕方ヨリ乗廻トシテ伊敷不動院下迄参リ、夫ヨリ川渡

リ妙谷寺下ヨリ櫻馬場川筋罷通り暮比帰宅候事、

一 四郎殿三鉢堂へ差越ニ付テハ、無御暇ニテハ不相濟事

ニ付、左之通御暇之儀取計ヒ申出相成候事、

口上覚

〔朱書〕  
一 願之通御暇被下候、

七月

下總

右之通翌二日御用人同人取次ヲ以被仰付候事、

私事踊<sup>〔牧園〕</sup>三鉢堂村之内持切在へ召置候家来共へ、段々申

付度内用向之儀有之差越申度御座候間、此涯日數三十  
五日御暇被成下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉願候、  
以上、

巳七月朔日

新納四郎

右之通月番御用人小笠原轍へ用達茂右衛門ヲ以差出置  
候事、

一 七月二日、四郎殿御暇今日願之通御用人同人取次ヲ以

テ下總殿名前付札ヲ以被仰付候事、

一 今日ヨリ例年之通在踊有之候事、

一 七月三日、四郎殿三鉢堂へ明日ヨリ差越候筋、今日用

達茂右衛門ヲ以テ月番御用人小笠原轍へ申出置候事、

一 今晚お久續気分ニ付四ツ過西郷幽泉相招候、右ハ萬太

郎乳母一件ニテ段々入組到来イタン、お久心配ニオヨ

ヒ差起リ候事ト致推量候事、

一七月四日、出勤毎之通、退出ヨリ都之城屋敷へ、緩々

被參候様先日ヨリ承居候故ナリ、人数下總殿・倉山作

太夫・北郷哲五郎・新納四郎左衛門・東郷一介等ニテ

夜入四ツ前罷立候、尤八ツ後参リニ付茶漬被差出、夫

レヨリ浜ノ涼座へ参リ彼方ニテ緩々イタシ、可罷立ト

イタシ候処ニ先月十九日江戸被差立候急キ飛脚到着、

御用封彼方へ差出候間下總殿一所ニ致開封候処、江戸

表御機嫌能被遊御座、御用向御勤事ニ付テ之問合等ニ

テ候事也、

一今日例之通り下町踊有之候ニ付、お悦・彦熊事南林寺

へ見物ニ差越候処、住持ヨリ段々馳走有之候由也、

一七月五日、五時福昌寺へ

(島津重年)  
圓徳院様御施餼鬼ニ付

太守様御代参

着服長袴

右之通相勤別勤也、夫ヨリ周防殿へ先日蒲生地頭職被

仰付候御祝儀近習迄見廻、夫ヨリ靜洞殿へ御見廻申候  
処、御逢被成暫時咄イタシ罷立候事、

一七月六日、例之通上町踊ニ付、お悦・彦熊南林寺へ見  
物ニ差越候処、前日之通住持ヨリ愛憎有之候由也、

一七月七日、出勤毎之通、九ツ退出、

一今日武村東郷一介別荘へ参候様先日ヨリ承居候間、七

ツ後ヨリ参候、外ニ出雲殿・倉山作太夫・吉利仲・平

田直之進ナトニテ、緩々イタシ四ツ時分罷立候事、

一七月八日、今朝於訓練場バタイロン備并ニ騎隊訓練拙

者共見分之筋ヲ以テ、内実ハ佐賀ノ藩中五人先日ヨリ

差越居、拜見之儀御側向へ相付願出趣有之、且又筑前

之藩中モ先比ヨリ差越居、是ハ騎兵之分也、先日拜見

モ相濟居候へトモ、今朝猶又歩兵等モ致拜見度罷出候、

尤右ハ御側向へ相付願候ニ付、御小納戸井上庄太郎并

御徒目付森八郎次ナト案内差引共イタシ候間、表之方ヨリハ何モ不差構候事也、

右ニ付下總殿・拙者・大目付織部殿六ツ前ヨリ出席イタシ候処、今朝少々雨降候へトモ六ツ半時分ヨリ止候付随分相調候、左候テ四時分相濟候間直ニ引取候事也、

一 今晚七ツ過時分彦熊乳母小用ニ起候処、下女部屋へ蠟燭ヲ燈シ不見馴男罷居候付、盗人ト見受声掛候処直ニ逃出候由、早速拙者共へモ知ラセ候ニ付、家来共モ呼起シ屋敷中精々改候へトモ最早人影モ無之候、前条之通今朝六ツ前ヨリ致出宅候賦ニ付拙者モ七ツ時分ヨリ目覚居ウツ、ニテハ候へトモ、下女部屋モ纔三四間隔居候事ニ付、物音イタシ候へハ随分心付候賦ナレトモ、至極ヒソカニイタシ候哉毛頭モ氣寄候儀無之、近方へ目覚罷在中ニモ残念之次第也、右ニ付夜明け篤ト下女トモ之衣類其外改方イタシ候処、左之通り紛失之筋ニ見得候、

一金子老歩

一紙入老ツ

但白茶金錦、金物ナシ

一同一ツ

但桃色右同銀、金物鏡付、懐中箸等入

一フシゾフ式ツ

但地ノ切ニハキ合物

一小柳コフリ老ツ

但極小形

右五行彦熊乳母コマ所持品

一金子老歩

一紙入式ツ

但桃色西洋布金物付

右式行下女竹所持品

一銀髮差式本

内

老本杏南ノ葉

老本竿計

一指カ子式ツ

内

一ツ菊之花

一ツ無地

一紙入巻ツ

但桃色西洋布

右三行下女フチ所持品

一錢百三十二文位

一針箱蓋計巻ツ

但小形

右式行萬太郎乳母セキ所持品

右之通不相見候由、左候テ夜明ケ篤ト屋敷中モ猶又サ  
カシ方改カタイタシ候処、裏門脇ノシ立乗越出入リイ  
タシ候形ニ足跡砂ナト付居候事ナリ、

一今晚四ツ時分ヨリ又々お久癪氣ニテ心下ニセキ込候様  
ニ付、則西郷幽泉・朝稻三益等江申遣候処、幽泉ハ直  
ニ被參候、三益ハ泊リニテ弟子參リ致療治候処、暫時

ニテ治リ候、乍去心下ニテ苦病ニ付、終夜灸治旁致養  
生候、九日晚ニモ又々強クセキ込難儀イタシ候ヘトモ、  
医師兩人モ留置候ニ付、則ヨリ世話ニテ無程治リ先ハ  
仕合之事ナリ、今日モ又々乳母ノ一件ニ付口事起リ及  
心痛候事有之、右等ノ訳ニテモ候半哉ト存候事、

一七月九日、今晚前文之通お久煩ヒニテ候ヘトモ、六ツ  
過キ相成追々平治イタシ、四ツ時分ヨリハ安眠相成候  
事、

一今日右次第ニ付拙者引入候也、

一四ツ後幽泉被參候、押通快方也、八ツ時分三益被參候、  
且同刻新村謙齋ニモ見廻候間一所ニ診脈イタシ、薬法  
吟味有之候事也、

一今晚押通り宜敷、幽泉參リ療治イタシ被具候事、尤喰  
事モ好ハ全無之由ナガラ氣張候テ少シツ、參リ候事、

一七月十日、五時福昌寺へ

慈徳院様御正忌日

大慈院様

廣大院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拜

但

御惣霊様江御代拜

着服麻袴

右之通相勤左候而

慈徳院様御正忌日之訳ヲ以テ、御霊臈下被差出候付、

致頂戴、直ニ帰宅別勤也、

一 お久今日モ押通り快方也、

一 萬太郎乳母之儀ニ付段々口事出合、去ル三日晚長々召

置候者モ暇出シ繰替相成候ヘトモ其者モ不宜、又々今

晚ヨリ谷山之者呼入相成候、至極無益之口事差起リ込

リ入事共ナリ、

一 七月十一日、お久押通り宜敷候、然共西郷幽泉ハ毎日

相頼致療治候、今以喰事好等ハ全ク無之、片刻モ居座

ナトハ不出来位之様体ニテ、此節ハ相応之病体ナリ、

一 七月十二日、朝徳尾藤左衛門見廻ナリ、尤モ先日大坂

ヨリ下着ニ付而也、段々御用筋モ有之候事也、

一 今日出勤毎之通也、然尠四ツ後御側役堅山武兵衛ヲ以

テ於唐子之間左之通拝領物被仰付候、

一 御野羽織袴ツ

但

表木綿黒染、御紋所十文字後之方ニ三ツ相付、

裏黒八丈、

一 伊賀袴袴ツ

但

地西洋布、鶯色ニテ大形付、裏ナシ

右ハ御留守中御内用計ニテ台場井ニ反射炉・ホールバ

ンク等始段々御用筋被仰付候尠、骨折相勤候ト之御取

訳ヲ以拜領被仰付候段被仰渡、頂戴仕誠ニ以難有次第也、御小納戸早川務御取伝ニ付、則兩人へ相付難有次第奉恐入候旨御請御礼申上置候、左候テ罷下リ同席中江モ御礼共申上置候事、

一 福崎助八事モ拙者同様諸御用相勤候ニ付、同断御野羽織袴ツ・伊賀袴袴ツ拜領被仰付候由、助八ヨリ御礼被申出候、且又御家老座書役岩山八郎太・市來正之進兩人モ御内用致取扱候ニ付、白西洋布二反ツ、拜領被仰付候由、御礼申出候事、

一 摩文仁親方・松嶋親方ヨリ大官香三把・氷砂糖一籠ツ、盆用トシテ例年之通送り有之候事、

一 七月十三日、四ツ前出宅磯へ罷出、昨日拜領物被仰付候御礼、且ハ

御逗留中イマタ伺御機嫌モ不申上候付旁之儀談合、御側役名越彦太夫へ相付申上候処、今日ハ

御取込之儀有之

御目見ハ不被仰付候、盆後ニ相成豊後一所ニ可被召呼旨承知仕候、左候テ今日ハ反射炬辺其外諸事致拜見罷帰候様承知仕候ニ付、難有奉存候旨御受申上置、九ツ前ヨリ反射炬之方へ参リ、掛リ御徒目付竹下覺之丞案内ニテ諸事細々致拜見、八ツ時分御暇イタシハツ過帰宅也、

一 今日二百十日ニ候得共、今朝暫時曇、昼ハ晴天相成、東風如キ至極暑サ強ク候得共、別テ御成事ニテ喜悅之事也、

一 七月十四日、六ツ前出宅、大興寺へ御墓参イタシ深固院へモ同断、月香院へ御牌参イタシ五ツ時浄光明寺へ得佛様(島津忠久)

但長袴

(島津忠久) 貞嶽院様へ盆ニ付

太守様

宰相様御代参

但

御愼靈様江御代拝

着服麻袴

右之通相勤候、夫ヨリ興国寺へ茂御墓参イタシ、滑川へ参リ御牌参イタシ四ツ過帰宅候事、

一 今昼之内晴天、炎暑強ク候処、夕方ヨリ打替リ雨風ト成、今晚燈炳燈シ候儀モ不相調天氣ニテ候事、

一 七月十五日、四ツ後南林寺へ致参詣、夫ヨリ山中墓参イタシ直ニ帰宅、

一 今日朝雨、昼止之間モ有之、夕方細雨ニテ、兎角燈炳モ暫時ハ燈シ方相調候位ノ事ナリ、

一 今昼南林寺住持仁山回向トシテ参リ被呉候事、

一 今晚ハ水棚祭り迄モ相仕廻緩々罷成候処、又々お久齋氣起リ難儀ニ付、家内中致世話起通シニテ候、然共先日程ハ無之仕合之事也、追々治リ候也、

一 七月十六日、今朝お久押通り快方也、然共心下之事故

氣力等モ頓ト無之、喰事不進急速快方参リ兼候病症也、  
屋ニ成幽泉・三益モ参リ被呉候テ療治等也、

一 七月十七日、六ツ過砲術館へ出席、下總殿・龍衛殿相

揃五番組稽古致見分候、惣人数三百八拾人余ニテ四ツ過相済、夫ヨリ出勤、御用仕廻九ツ過退出イタシ候事、

一 今日出勤ニテ板鼻某之手紙加治木ニ有之候ヲ見出し候処、何カ子細有之ソフニ見得候間、何様可致哉之旨主

水殿ヨリ昨日承り候ニ付、豊後殿等へ今日致相談無事ニ取扱イタシ候内意ナリ、

一 今日モお久押通り快方也、

一 七月十八日、五ツ過浄光明寺へ

得佛様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

但

御愼靈様へ御代拝

着服麻袴

右之通相勉夫ヨリ出勤、八ツ退出、

一先日ヨリ東風ニテ候処、今日共終日東風強ク間々微雨有之大風懸念之事也、

一七月十九日、六ツ過砲術館へ出席、下總殿・織部殿相揃六番組稽古致見分候、惣人数三百九十人余有之、九ツ時分相済退席、別勤也、

一夜前モ終夜東風騒々數、今朝雨ニテ砲術モ難調存候処、六ツ半比ヨリ止候テ晴上リ、風モ静ニ相成候、夫故ニ砲術モ昼時分迄掛リ候事、

一七月廿日、市成之右膳殿事先頃ヨリ病氣候処、頃日段々差重リ候様ニ察居候処、今朝朝稻三益外ノ用向有之參候ニ付承候処、イヨく其通之事ニ付、八ツ後次郎四郎見廻ニ遣候得ハ至極難波ニ見得居候段承リ候事、

一先月末定式中急今日八ツ後到着イタシ、永江休之丞ヨリ御内用状其外諸人書状等相届キ候事、

一今晚モ次郎四郎市成へ参リ大鐘過キ罷リ歸リ、先ツハ平和之方ニ候ヘトモ、何分難症ニ見得候段申聞候事、

一七月廿一日、六ツ過砲術館へ出席、一番組之致見分候、惣人数三百人余也、今日再聞等モ有之候ニ付、下總殿ナト難被迎、見分ハ拙者一人ニ付、若年寄矢五太夫殿誘引イタシ四ツ過相済直ニ退席候事、

一彦熊事三日少々風邪氣分之様有之、夜前共ハ相応ニ熱氣相発ニ付今日三益・幽泉等相頼候、且お久ニモ追々快方ナカラ今以昼夜起タリ臥タリニテ、家事何モ不相調位ニ付、両医師ニモ毎々相治療治相頼候事也、

一右膳殿事今日ハ使ヲ以様体承候処、先ツ押通り快キ方候旨ニテ候、然共暮過ヨリ次郎四郎遣候処八ツ過比罷歸リ、九ツ半時分ニテモ候哉、終ニ養生不相叶死去之由申聞候事也、

一今日摩文仁親方内意事有之見廻、且左之通贈物有之候事、

一太白砂糖

一籠ツ、

一焼酎砵

一双ツ、

右ハ両様之内意事ニ付二通り贈リ有之候也、

一七月廿二日、今朝モ彦熊・お久事ニ付三益・幽泉相招候、兩人共同様之趣也、

一今日拙者少々不氣分ニ付頼合出勤不致候事、

一今日用達茂右衛門へ御趣法方御用人ヨリ、御金百両被

成下候ニ付相渡トノ旨ヲ以テ引渡候由、右ハ例年御心

付藏方当年ヨリ御仕向替候テ大目付以上へハ現御金被

成下候事ニ相成、右之通難有致頂戴候事也、

一今日彦熊氣分宜敷相成、夜中モ押通りヨロシク仕合之

事也、

一七月廿三日、六ツ過砲術館へ出席二番組致見分候、惣

人数二百八拾人余ニテ、下總殿・主水殿出席也、四ツ過帰宅直ニ改服イタシ市成へ見廻一刻ニテ罷帰り候事  
一今日モ幽泉相招候、彦熊愈快方お久モ押通りヨロシク候事、

一萬太郎乳母谷山之者召置候処、去ル廿日夕方ヨリ無暇

ニテ逃去、別テ及手支近所へ掛リモラヒ乳等ニテ日ヲ

送り候得共、今日乳母尋出シ候ニ付明日モ参ル筈也、

一幕前磯方へ出火之由承及候付、何方ニテ何様之事候哉

ト存候央、伊集院周右衛門ニモ其段及承、伺御機嫌可

罷出候ト相談ニ被参候間、磯方へ出火ト承候上へ、

御逗留中ニ付可罷出、乍去最早鎮火之様ニモ候間、火

羽織等ハ不致着野羽織ニテ可罷出旨申談、直ニ兩人打

列乗出シ田之浦近ク参リ掛候処、同所永福寺上之方島

津頼母殿<sup>(池)</sup>拘地之飯屋ニテ、屋番新納平次郎ト云御小姓

与罷居候処焼失之由、左候へハ磯御茶屋ハ余程間遠ク

何モ子細無之候得共、是迄参り候儀ニ付何分ニモ伺

御機嫌ハ申上度周右衛門申談、磯迄暮過罷出、泊り番

御小納戸伊十院藤九郎へ相付向

御機嫌等申上置、無程退出イタシ候、夫ヨリ矢張周右

衛門列合、種子之御隠居松壽院殿田ノ浦御栖居ニテ近

火ニ付、近習迄御見廻申置罷帰リニ榊方ニテ五ツ打候

事、

一 帰宅之処下總殿ヨリ用達宇都宮清兵衛被遣、今日田ノ

浦火事ニ付火元見トシテ下總殿家来被差出候処、与風

馬上ニテ差越、中途ニテ拙者へ行逢候得共不心付、跡

更存当リ不敬至極之段申出、領主ニモ被承届何共断之

申様モ無之候得共、平ニ致用捨與候様被申遣候ニ付、

拙者ニハ見留モ不致事ニテ候、近比被入御念候儀ニ存

候旨申答置候事、

一 七月廿四日、出勤毎之通、今日堅山武兵衛ヨリ鹿府中

組々方限分ケ之儀御内々致承知候趣、少々趣意違之段

并相良弥兵衛出崎之儀、且又青山千九郎内願之儀共致

承知候事、

一 八ツ後市來正右衛門見廻、今日御徒目付被仰付、左候

テ惣髮成願出候様内々致承知候トテ御礼也、是ハ疏地

園田仁右衛門へ交代被仰付候御内定也、

一 今日豊後殿ヨリ地球図儀并攝州名所図絵一部差送リ有

之候事、

一 市成今晚葬送ニ付次郎四郎并用達用頼等差遣シ候事、

一 彦熊愈快方也、お久モ追日快方候へ共、心下不廻リ之

事ニ付、別テ不氣根之様体昼夜起タリ臥タリ之事也、

一 先日飛脚便ヨリ差越候由ニテ、大坂御銀主等之々面ヨ

リ左之通り贈リ也、

一 書状老通

一 金子百疋肴料

森元櫓之助

一 書状老通

一 晒手拭式ツ

濱村三郎兵衛

一 書状老通

一金子老兩菓子料

津田休兵衛

右三人例年之通暑中尋也、

一氷砂糖 一籠

一焼酎砵 一双

右ハ老ケ条分

一太白砂糖 老籠

一焼酎砵 一双

右之通り兩条之内意事有之二通贈リ有之候事、

一七月廿五日、雨天ニテ候ヘトモ六ツ過ヨリ砲術館へ出

席、天氣見合候処無程降り止ミ候ニ付、三番組稽古致

見分候、下總殿・織部殿出席ニテ、惣人数四百式拾人

余有之、四ツ過相濟直ニ退席候事、

一今夕方ヨリ山田壯右衛門被參候テ緩々御用談ニテ四ツ

過歸リ也、尤段々御沙汰之趣モ承知仕候事也、

一七月廿六日、出勤毎之通、昨夕方磯ヨリ御帰館被遊候

ニ付、今日伺御機嫌三役一所ニ申上候事、

一彦熊事ハ追日快気也、お久事ハ頓ト気分不相直、別テ

不塩梅之事ニテ食事モ不進候ナリ、

一摩文仁親方内意事有之見廻リ、且左之通り贈リ物有之

候也、

一七月廿七日、夜前お久下瀧兩三度有之、終夜不氣分之

由ニ付、今早朝三益・幽泉へ申遣置候事、

一六ツ過ヨリ砲術館へ出席、豊後殿・下總殿ニテ四番組

ノ稽古致見分候、総人数三百式十人余有之、四ツ時分

相濟直ニ退席、別勤ナリ、

一都之城御三居（新納久命繪巻）芳樹院殿御事、五月末比ヨリ少々御不例

之処近比ハ痢疾相成、当分モ昼夜ニハ十四五度ノ下瀧

ニテ、御老体ニ付キ余程草臥モ見得候趣、一昨日方申

来、哲五郎殿ハ昨日直ニ打立被差越、出雲殿御夫婦ハ

今晚打立被差越候筈候段、夜前遅方東郷一介ヲ以承候

ニ付、今曉次郎四郎ヲ以爰元屋敷迄為致見廻候処、イ

マタ出雲殿等モ出立無之内ニテ其段申上置候由也、

一 今昼両医師見廻有之、お久事何ソ為差事ニテモ無之滞  
リ居候カニ付、却テ可然トノ趣被申聞安心之事也、

一 七月廿八日、佐土原ヨリ酒匂求馬主用ニ付出府イタシ

今日玄喚<sup>(四)</sup>迄見廻リ、且淡路守殿ヨリ左之通り被下候、

一 鱒簀卷 二

一 穂北紙 三東

一 樽代金 五百疋

一 先日ヨリ東風ニテ候処、今夕方共ハ相応相成候ニ付致

心配居候処、暮比ヨリハ和ラキニ相成少シ安心之事也、

一 七月廿九日、四ツ前南泉院へ、

<sup>(雜川家齊)</sup>  
文恭院様御忌日ニ付

太守様

宰相様御代參

着服麻袴

右之通相勤、夫ヨリ出勤毎之通、

一 三原正眞之刀太刀ニ替拵イタシ置度、サヤ柄・縁頭鏝

・サヤ尻、手籠并帶取ナト迄都テ下地イタシ、岩下佐

次右衛門出立之節相頼江戸へ遣シ置候処、此節致成就

菱刈奎之助殿下リ之便ニ相頼被差越、菱刈家一昨日着

ニテ今日右鞆柄・鏝ナト相届候処、直ニ打込見候処、

黒拵ニテサヤ梨子地ニ定紋七ツ金泥ニテ付候得ハ随分

宜敷、至極好之通ニテ喜悦イタシ候事也、尤江戸ニテ

拵料都合金拾兩ト何奴ト申位爰元ニテ金五兩余之下地

入費ニ及ヒ、都合拾五兩余之入費ニテ出来候事也、

一 先日ヨリ東風ニテ及心配居候へトモ、今昼ヨリ平和相  
成、近日二百三十日安心之事也、

〔表紙〕

新納久仰雜譜

安政四年巳八月朔ヨリ  
十二月晦日迄

〔安政四年巳八月朔日ヨリ十二月晦日迄下〕

一 八月朔日、五ツ過出勤、当月拙者月番ナリ、毎之通

御座之間并御対面所御書院へ御出座、家格持参太刀等

モ例之通、引続新在番摩文仁親方等

御目見被 仰付候、左候テ九ツ退出ヨリ大奥江罷出御

祝儀申上置退出候事、

一 地頭所指宿并預所高岡役々祝儀申出候間面会盃共遣シ

毎之通り於役所酒・飯共迄緩之振廻、暮過罷帰候由、

且祝物末ニ記シ置也、

一 今日祝儀見廻客多々有之候へトモ名前略ス、

一 先日ヨリ之東風別テ及心配居候へトモ今日案内静之天

氣相成候、最早大風之懸念有之間敷ト衆人喜悅之事也、

一 今日為祝儀摩文仁親方・松島親方見廻、且海風二十・

焼酎砧一雙ツ、差贈リ有之候事、

一 地頭所指宿并預り所高岡ヨリ祝物左之通差出シ候、

覚 指宿

一 御肴 一折

一 御酒 一樽

式行料物壹貫五百文

一 玉子 壹台現

一 袋物 五ツ現

右御地頭様御方へ

郷士中

一 御肴 一折

一 御酒 一樽

式行料物九百拾六文

右奥方様御方江

郷士中

一中紙

一束

町

一御着

一折

一御酒

一樽

一御酒

一樽

右御子様方御相中江

一御着

一折

町

式行料物九百十六文

右御子様方御相中江

郷士中

一御酒

一樽

一中紙

一束

式行料物六百六拾文

右御地頭様御方江

一御酒

一樽

式行料物四百三拾式文

右御地頭様御方へ

一御着

一折

諸浦

町

一御酒

一樽

式行料物五百四拾文

右奥方様御方江

一御酒

一樽

式行料物四百三十二文

右奥方様御方江

諸浦

一御着

一折

一御酒

一樽

式行料物五百四拾文

右御子様方御相中江

諸浦

右御預様御方へ

一御着 一折

一御酒 一荷

ノ料物六貫參百七拾六文

一御着 一折

一御酒 一樽

右奥方様御方へ

一御着 一折

一御酒 一荷

右御地頭様御方へ

家督繼目等被仰付候御礼人数中ヨリ

右御嫡子様御方へ

右之通進上仕候、宜敷様御披露可被下儀奉頼候、以上、

一御着 一折

巳八月朔日 郷士年寄 上山善太夫

組頭 山口善次

式行料物金百疋

右御嫡孫様其外御相中様江

右之通八朔之為御祝儀進上仕候間、宜敷御披露可被下

儀奉頼候、以上、

覚 高岡

一御着 一折

一御酒 一荷

儀奉頼候、以上、

式行料物金壹步式朱

巳八月朔日 郷士年寄 市來 善助

同  
河上猛右衛門

同  
谷口與右衛門

同  
今井元右衛門

同  
長野助兵衛

同助  
本田二郎五郎

一位芳紙

二束

町中ヨリ

一半切紙

十折

在中ヨリ

右式行現品為祝儀高岡ヨリ差シ出シ候事、

一八月二日、米藏手伝老人分御勝手方掛リ御家老家来共

へ被仰付候儀、先例之通今日老人分拙者方へ被仰付候  
間、御勝手方書役勤前田傳左衛門極々差迫出勤モ実ニ

差欠候儀ニ付、右へ為心付差遣シ候、追テ附属ニ相成  
事也、

一佐土原之城代後酒田求馬先日ヨリ致出府居、今日見廻  
致面会度先日ヨリ承居候ニ付、其通ニテハッ後參候間、  
吸物老通り差出シ盃共取替イタン候、尤仮屋守宮里十  
兵衛同伴ニテ、求馬ヨリ肴一折・酒一樽・半切紙七百  
枚差送有之候也、

一夕方五代怒兵衛琉球ヨリ只今上着掛ニテ屈旁參候間、  
致面会御用筋共承候事、

一萬太郎乳母夕方ヨリ又々逃去、今日モモライ乳ニテ  
甚手支之事也、此儀ニ付テハ別テ及心配事有之候へト  
モ、打明シカタク<sup>(因)</sup>入り入、お久ニモ至極心痛之事也、

一八月三日、今日靈社様御祭例之通、有屋田信濃相頼相  
調候事、

一ハッ後相良弥兵衛參候、明日ヨリ長崎へ御内用之儀ニ  
付差越候間彼是申込候儀共有之候而也、

一七ツ後ヨリ市來正之丞・新納次郎九郎等参リ緩々也、  
尤祭日ニ付而之事也、

一八月四日、地頭所指宿年寄上山善太夫江左之通書付ヲ  
以申達置候事、

一砲術其外文武稽古ニ付、二月ヨリ七月迄之星帳此節

差出見届候処、調練ニ付出席星十ヲ以上ノ者ハ纔二

十人位罷在、其内上山嘉左衛門十四、田中仲五郎・

上山喜右衛門・池田袈裟次郎・市來善太郎等十二有

之、役目中ニテハ田中休左衛門十四、常松太郎次十

二有之、其余ハ都テ十以下之星ニテ、心掛居候者ハ

出精之廉モ見得候得共、所中大郷之人数ニハ不<sup>(相脱之)</sup>応出

席少人数ニテ、イツレ不埒之事ト存候、每度申達候

通山川引続ノ海岸殊更大郷ニ付テハ要路旁之訳相含

兼々無油断一同調練不致置候テ不叶場所柄、別テ不

心掛之儀ト存候、以來屹ト一同申談出精有之候様可

申達事、

一学問武芸ニ付出席星帳モ見届候処、是以郷内不相応

出席少人数、尤星数相少ク右輩修練ニ付テハ每度相

達置候処、右之通ニテハ別テ不埒之儀ト存候、文武

之儀ハ無油断不致修業候而不叶訳合ハ無申迄、何レ

相応相嗜居候テコソ御用ニモ可相立候得ハ、此儀第

一申合一同可致出精候事、

一兎共始壯年之者共手跡清書差出細々見分届候、是亦

出精之向々見得候ハ紙数多差出、尤墨色等モ宜敷、

然共清書等差出候様申達候涯ヨリモ、頃日ニ成候テ

ハ返テ惣人数ハ少ク哉ニ見及候、何様之事候哉、読

ミ書不達者ニテハ何之御用モ調兼候儀ハ無申迄モ、

一同致出精手跡等モ少ニテモ人数多可差出旨可申達

事、

一小筒鉄砲之儀ハ矢先キ中リモ相見得面白キ武術ニ候

得ハ、一同無油断致稽古候形相見得相当ノ事ニ候、

右之通存分申達候間、役目中申談郷士中一同へ細々可

致教諭候、

八月

駿河

一 八月五日、早朝都之城屋敷ヨリ御三居芳樹院様御事、

此内ヨリノ御病氣追々御差重リ、極々大切之御様体ニ候旨シラセ有之候間、直ニ宿所使モ遣シ用達茂右衛門ヲ以モ御尋共申入置候事、

一 今日モ出勤毎之通、八ツ退出ヨリ興國寺へ御墓參イタシ、七ツ前帰宅候事、

一 八ツ後都之城ヨリ芳樹院様御事終ニ養生不相叶御死去之段シラセ申来候間、直ニ使ヲ以悔共申遣置候事、尤お久事此内ヨリノ病氣快方ニハ候得共、何分心下之不廻リニテ急速全快不相成、今以至極之無氣根食事モ不味之体也、次郎四郎ニ茂折柄風邪ニテ無致方使等ヲ以尋共申入候事、

一 八月六日、出勤毎之通、御用筋段々豊後殿申談候処

御直奉伺慶事共有之、御側役名越彦太夫ヲ以奉伺候処、

直ニ罷出候様致承知候ニ付、罷出奉伺候儀ハ其通ニテ、段々極御内用筋被仰聞恐入奉承知候儀共多端ニテ、八ツ過ヨリ罷居候得共不相濟、然共長居ニ及奉恐入候間罷下リ候事也、

一 都之城屋敷迄今日大官香二把・香奠金二百疋拙者始何レ茂ヨリ、又大官香一把・香奠金百疋お久・お悦ヨリ差上候事、

一 今日摩文仁親方玄喚迄見廻、且左之通品々贈リ有之候訳ハ

御台様御入城御祝儀来年江戸立王子へ兼務且

御縁組御弘メ之御祝儀来年在番親方へ兼務、且又異國船人ヨリ受取置候著錢御取寄セ相成候為御返、丁錢被下候旨被仰渡候御礼也、

覚

御扇子 一箱

藤菓子盆 十

彩色蓋茶碗 十

紺地島細上布 二端

紺鳴細上布 二端

島紬 二端

紕滑緞子 一本

白大花織綿 一卷

以上、

一八月八日、今朝於調練場長崎并西目・東目御手当人数

調練見分有之候へ共、拙者月番之故出席不致候、彼方

へハ下總殿・伯耆殿・伊織殿等出席也、

一八月十日、今日四ツ時福昌寺へ

(島津宗信)  
慈徳院様

(島津齊宣)  
大慈院様

(島津重豪子・徳川家齊迄)  
廣大院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拜相勤候、

但

御惣霊様へ御代拜

着服麻袴

右之通相勤別勤也、夫レヨリ深固院・月香院・大興寺

へ御墓参等イタシ、川上矢五太夫殿へ立寄八ツ前帰宅

也、

一古在番松島親方玄喚迄見廻、且品物左之通贈有之候也、

覚

扇子 一箱

沈金吸物椀 十

沈金吸物膳 十

紺地鳴細上布 二端

紺島細上布 二端

漢府緞子 一本

以上、

松島親方

右御暇被成下候御礼

覺

御扇子 一箱

御菓子皿藤縁 十

御東道盆 一

縮緬白 一卷

紗綾白 一卷

以上、

松島親方

右ハ在番中万端預世話御用向首尾能交代イタシ候ト

ノ御礼也、

一八月十一日、出勤毎之通、堅山武兵衛病氣ニテ候処今

日ヨリ出勤有之、段々御内用筋致承知候、迫田甚藏等

之事モ今日仰出相成候事、

一新在番摩文仁親方役々召列定式之見廻有之、送リ物左

之通、

進上

大官香 二把

白花紗綾 二端

焼酎 一壺

以上、

進上

官香 三把

練蕉布 一端

以上、

進上

官香 三把

練蕉布 一端

以上、

進上

以上、

進上

進上

摩文仁親方

〔朱書〕  
「琉球館蔵役」  
勝連親雲上

〔朱書〕  
「書役」  
嵩原親雲上

官香 三把

練蕉布 一端

以上、

<sup>〔朱〕</sup>  
「摩文仁親方与力」  
兼城親雲上

右之通上国ニ付而之見廻例式之事也、

一 八月十二日、出勤毎之通、今日モ武兵衛ヨリ段々御内  
用向致承知候、吉川源右衛門・江田五郎左衛門・土岐  
孫兵衛等御用モ被仰付候事、

一 八ッ後石原龍助見廻ナリ、今日御鉄砲奉行へ御役替被  
仰付、左候テ御内用之儀有之来春大島へ渡海、市來次  
十郎へ交代相詰候様被仰付候間御礼也、

一 次郎四郎事今日表御用人川上右近取次ヲ以、伯耆殿ヨ  
リ明日四ツ時可罷出旨御差凶御用被仰渡候、然共先日  
ヨリ風邪氣ニテ引入罷在候得ハ、明日迄ハトテモ難罷  
出様体也、

一 八月十三日、次郎四郎今日御用之儀ハ病氣ニテ難罷出  
段成行之届申出候事、

一 今日段々御役替等有之、近隣義岡主殿四番組頭ニテ候  
処、今日寺社奉行へ御役替被仰付候事、

一 八ッ後吉川源右衛門見廻也、是ハ今日御鉄砲奉行へ御  
役替御趣法方御用人席へ相詰御用致取扱候様被仰付候  
御礼也、

一 夕方市來正右衛門見廻也、是ハ近々ヨリ琉球へ渡海之  
筈ニ付、今日仕廻料金百三拾兩被相渡候御礼也、  
一 今夕方指宿之者共十人程余先日ヨリ砲術稽古トシテ差  
越居、近日帰郷之筈ニ付今日手教致見分候事、

小頭イタン候、

上山善太夫

坂本助八左衛門

鎌田弥九郎

鎌田弥七郎

石嶺源次郎

味坂良庵

湯地逸介

寺田序助

徳永善左衛門

田中仲五郎

進上

官香

練蕉布

〔朱〕  
「琉球館蔵役也、」  
西平親雲上

一今日松島親方并役々近々乗船帰帆ニ付キ、安否尋旁ト

シテ見廻、且送物左之通、

進上

大官香

十錦御太碗

水色大桧垣紗綾

以上、

松島親方

進上

官香

練蕉布

以上、

進上

官香

練蕉布

以上、

〔朱〕  
「同書役」  
宮城親雲上

〔朱〕  
「松島親方与力也」  
仲村渠親雲上

一八月十四日、今日出勤、四ツ打切リヨリ、二之丸へ御

式日ニ付四番組小組五番人数御呼出シニ付差越相詰候

九ツ過御出有之、八ツ過

御入有之、又七ツ打直ニ

御出被遊、備相初リ現打方モ有之、一篇通り大鐘前相  
濟直ニ

御入有之、其節一同御暇被下退出也、

一 お久追日快方ナカラ昨夕方ヨリ腹合少々不廻カ無気分  
之由ナリ、乍去輕キ事ニ相見得候事、

一 八月十六日、松島親方并役々へ左之通り餞別品共差遣  
シ候事、  
覚

一 八月十五日、早朝都之城役人北郷新太郎極内用向有之  
参候間一刻致面会候事、

一 今日五時出勤、段々御用申渡有之ニ付テ也、左候而每  
之通四ツ時

御出座、月次并初而之

御目見諸御礼等多人数被仰付、今和泉因幡殿ニモ継目  
之御礼被仰付候事、

一 今日川上式部殿三男岩次郎・四男清次郎初テノ

御目見被仰付候ニ付、おせひとのモ早クヨリ被参候事、

一 御家老座書役奥掛勤迫田甚藏当分御右筆頭也、当御役  
ニテ長崎御付人初琉球産物方掛被仰付候事、

一 伊東新五左衛門事此間ヨリ妻病氣其外用向有之不被参  
今日八ツ後ヨリ久々振り参り前之通写シ方也、  
以上、  
右表通餞別尤松島也、

一 覚

縞縮緬

煙草

絵半切

扇子

杉原紙

白麻

晒布

鯉節

一箱

一束

三十帖

老疋〔朱〕代百目余〔朱〕

一折

一端

一箱〔朱〕

一箱〔朱〕十二合代丁ニシテ八百文〔朱〕

一箱

以上、

右同人へ在勤中折々見廻殊ニ品々送物等之礼トシテ遣候事、

覚

扇子

一箱〔巻〕  
三本入

白麻

十帖ツ、

以上、

右西平并宮城・仲村渠へ餞別也、

一八月十七日、夜前微雨、今日曇蒸暑強シ、今日毎之通

出勤、

一今日次郎四郎四ツ時早目罷出候処、左之通御役替被

仰付候、

一四番御小姓組番頭

一奏者番兼務是迄之通

新納次郎四郎

右之通御役替被 仰付

御役料米是迄之通被下置候、

八月

伯耆

右之通被 仰付難有次第ニ付、早速豊後殿・下總殿・

伯耆殿・伊織殿へ御礼申上置候、登殿事ハ当分病氣ニ

テ出勤無之候、若年寄矢五太夫殿江ハ吹聴イタシ置、

御側役豎山武兵衛江相付御内証之御礼申上置候事、

一今日次郎四郎難有被仰付候ニ付、類中其外兼テ出入之

面々相招致祝候、人数川上式部殿・新納主税殿・肝付

左門殿・川上源十郎殿・新納衛守殿・川上主膳殿・伊

集院周右衛門殿・山田十介・新納四郎右衛門・新納喜

右衛門・竹下壯右衛門・東郷一介・東次郎左衛門・志

岐藤兵衛・新納次郎九郎・新納甚助・新納龍雲・新納

休藏・新納喜兵衛・平田八郎太・磯永孫四郎・御家老

座書役岩山八郎太・井上嘉左衛門・前田傳左衛門・日

置半兵衛・安田喜藤太・田尻源兵衛・山口喜三右衛門

・豎山郷之丞・長野彦七・市來正之丞・田中治右衛門

・甲斐弥右衛門以上表御家老座・御勝手方御家老座・

御軍役方御家老座定書役ニテ候、六組触役所書役之内  
木藤源左衛門・税所市兵衛・永山清右衛門・伊東清七  
郎其外用頼ナト、兼テ出入面会面々四五人并お逸さま、  
四ツ後ヨリ御出被下候、お久モ快方ニハ候得共、今以  
身仕廻等モ不出来之事也、

一 昨十六日ヨリ明十八日迄佐竹右京太夫様御卒去ニ付、  
御停止被仰渡候間、今日モ座頭等ハ不召呼候事也、

一 八月十九日、五ツ過出勤、八ツ退出、下總殿ヨリ今朝  
早目致出勤吳候様承趣有之、右之通也、然処同人ヨリ  
不輕御用談承候ニ付、存分之程太体申置、左候テ猶又  
案シ候処、別テ不輕事ニ付、豎山武兵衛へ拙者心得之  
趣申入候処、此人ハ能存候事ニテ拙者考不承知ニモ不  
相見得候、段々申談候事モ有之候也、

一 八ツ後ヨリ梅北宗右衛門被參候テ、夜入迄緩々糺合共  
イタン呉被申候処、暮頃ヨリ田中八郎兵衛モ被參候、  
尋方同志ニ有之候間、共ニ緩々イタン四ツ過歸リ也、

一 八月廿日、井上嘉左衛門參リ、先日前田傳左衛門へ合  
カトシテ差遣候米藏手伝金三拾両ニ致附屬、当年儀ハ  
段々セリ合相成高料相片付仕合之段、同役共ヨリ礼共  
厚ク承候事、

一 八ツ後ヨリ梅北宗右衛門・伊東新五左衛門被參候テ写  
シ方毎之通也、

一 今日昼ヨリ於役座指宿高帳引合イタン、用達茂右衛門  
・用頼仲之丞等ニテ、豊後殿并下總殿用達加勢ニ參リ  
候由也、

一 七ツ後摩文仁親方内意事有之、太郎左衛門同伴ニテ參  
候、右ニ付氷砂糖一籠・焼酎砵一双贈リ有之候事、

一 八月廿一日、八ツ後靜洞殿御船用之儀有之、御出被為、  
別而<sup>(因)</sup>入り候儀共被仰聞候事、

一 八月廿二日、朝至極ノ冷氣ニテ綿入ニ羽織トモ着用イ  
タン候事也、

一 今日出勤毎之通、今日於殿中下總殿ヨリ先日ノ一件又々承旨、今日モ細々拙者心底申述不同意之趣申達候、

下總殿ハ是非々々

御意ニ向ケ取扱可致トノ趣也、就テハ周防殿へ相談有之度、左候ハ、何分宜敷趣モ可有之旨申候得共、拙者同意出来兼候趣申述候付テハ、今一往御都合相伺

御直ニ奉伺度トノ事ニ成リ別テ及長談候、尤今日豊後殿出勤無之事也、

一 八月廿三日、<sup>(昨)</sup>明昼ヨリ風邪ニ有之候間、今日下總殿へ月番相頼引入養生イタシ候事ナリ、

一 四ツ前摩文仁親方内意事有之太郎左衛門同伴ニテ被参候、右ニ付毎之通氷砂糖一籠・焼酎拈一双贈り有之候也、

一 八月廿四日、今晚大鐘時分返上物積船前之濱へ只今到着之届、高奉行田中源五左衛門被参候テ申出也、六ツ

過御家老座書役岩山八郎太モ参り候テ同断之届申出候事、

一 今日四ツ前福昌寺へ

<sup>(島津齊彬男子)</sup>覺法院様御忌日付

太守様御代参  
宰相様御代拜

但

御惣靈様へ御代拜

着服麻袴

右之通相勤、夫ヨリ重富へ見廻り、先日御末子初而之御目見相濟候祝儀申置候テ、夫ヨリ今和泉へモ見廻、是亦継目之御礼相濟候祝儀申置、夫ヨリ出勤、八ツ退出候事、

一 八月廿五日、豊後殿実子伊勢弥九郎殿詰衆・島津登殿嫡子權五郎殿差付之当番頭島津務詰衆ニテ候処、今日当番頭汾陽次郎右衛門町奉行ヨリ御用人御勝手方掛被

仰付候、是以内実ハ拙者取扱イタシ候ヘトモ、表通ハ下總殿江相渡シ候事也、

一八ツ後彌太右衛門被参候、是レハ七月初ヨリ病氣ニテ今日久々振リ被参候事、

一佐土原之城代酒匂求馬此内ヨリ致出府居候ヘトモ、近日帰郷之筈ニ付今日看一折持参ニテ見廻有之候ヘトモ風邪氣分ニテ面会断候事、

一今日喜久里親雲上・山内親雲上見廻リ有之、右ハ返上物才領等被申付、去月廿一日那霸川出帆諸所汐掛等ニテ今月廿一日山川着船、昨日御当地上着之届也、

一八月廿六日、島津隼見殿若年寄御役被仰付候事、

一八月廿七日、預リ所高岡高帳引合、今日此方役所ニテ下總殿・伯耆殿・矢五太夫殿用達加勢ニ参リ、此方用達用頼等ニテ相仕廻、緩々イタシ暮過帰リ候事也、

一八月廿八日、今日次郎四郎当番頭并ニ御小姓与番頭兩様之御礼被仰付候事、

一今日此辺祭礼ニテ候得共、客下トテハ一人モ不催候事也、

一七ツ後岩山八郎太御用談有之参候テ暮前長談及ヒ候事  
一八月廿九日、定式飛脚差立候間、御用問合并ニ自分状等段々差遣候事也、

一大口ヨリ召置候家来宮原金太郎事尋方手伝相勤居候ヘトモ、拙者内存モ有之候ニ付御断申遣サセ、今日ヨリ大口へ差帰シ候事、

一八月晦日、今朝御軍役方書役田中治右衛門明後日致出立、江戸へ差越候ニ付暇乞旁見廻也、

一嫡家四郎殿事ニ付、段々末家中之吟味筋有之候ニ付、今日拙者ヨリモ左之通御役柄且ハ老年之方ニモ有之候間、内存之趣申入候次第左之通、申モ恐入儀ニ候得共、

嫡家

四郎殿事、末永ク家格御奉公被相勤候儀無心元段ハ何レモ御案内之通ニテ、長々今形ニテモ相濟間敷、就テハ

四郎殿隱居ニテ、跡家督之儀ハ兎角養子願立相成外ニ

(脱アルカ)

良策モ有之間敷趣ハ、何レモ御内舎之事ニテ被申迄茂右ニ付、家督養子人柄之儀何様有之可然哉、直末家之面々吟味相約リ候ハ、其趣承リ度旨此内申入置、イマタ何分不承候、然トモ薄々及承候ハ、拙者事直別レ家格モ当分通之事ニ付、拙者父子之内ヨリ家格相続可相成当然之旨申向モ有之由、尤其段ハ先比四郎右衛門殿等内舎之旨拙者直面ニモ粗承居候事ニテ、此節新敷承事ニモ無之、末家中右通吟味之段拙者父子ニヲヒテハ冥加共可申哉、恐入罷在候、然共於拙者ハ外ニ存寄御座候、先第一嫡家へ段々女子有之、其内二番目のおさとの事、中ニ茂幼少ヨリ人柄宜敷、彼家内ハ申茂如何敷儀ナガラ、段々難述言語時宜モ有之候得共、始終

吾人ニテ家事朝夕茂手カラ被致、太儀一切不肖之様子モ無之、頃日ニ相成候テハ弥増難波ニテ、下女サヘモ不被召仕、勿論

四郎殿所行何ノ謹慎モ無之候ヘトモ、始終致堪忍

四郎殿髮結着類始末ヲ始、其外之衆身ノ廻リ迄モ過半被致世話、最早式拾歳計ニテ織縫之業迄モ教候人モ無之候ヘトモ、手カラ心配ニテ色々相調、万事経営被致候次第ハ逐一難尺紙上、何レモ案内之通ニテ、誠ニ孝女ト存シ、兼々愛憐イタシ罷在事候、就テハ此女子誰ソノ養女ニイタシ、他家末子之内可然人柄見合取合之上、嫡家相続相願候ハ、第一家之血統モ続キ、次ニハ幼少ヨリ家事艱難ヲ被凌候詮モ相立、拙者共ニヲヒテモ本意相叶、別テ致安心往々嫡家之御用モ相勤申度念願ニ御座候、若又右之女子ニテ似合之人柄無之候ハ、末之女子へ取合候人柄ハ有之間敷哉、何レニテモ嫡家之血統女筋ナガラモ相続キ候次第一同本意ニテ可有之、姉妹同様ナガラ可成ハおさとのへ取合候人柄

見立申度、拙者ニオヒテハ呉々念願之至ニ御座候、乍然直末家之内ニハ、前文之通拙者父子ノ間ヨリ相統之儀可然哉ニ申向モ有之由、嫡家相統ニ付テハ家督部屋栖之無差別、タトヘ跡職相絶候而モ嫡家相統之儀、世上ニモ段々及見否可存訳合ニ無之候、乍去近頃モ大家之内家督之人隠居ニテ、跡養子他家ヨリ相統之向モ有之候ニ付テハ、随分願之儀ニ寄其通被仰付候御法モ可有之哉、右ニ付愚案イタシ候処、拙者儀御案内通最早五拾余歳罷成、嫡子次郎四郎当年式拾六歳嫡孫忝人昨年末出生ニテ、外ニ拙者次男以下モ段々生レ候へ共致夭亡、当分末子纔四歳之幼少忝人罷在、此節嫡家相統共罷成候ハ、拙家之儀ハ右之四歳ニ相成幼少へ家督ニテモ可願立哉、又ハ嫡子次郎四郎妻子召列相統罷成候ハ、拙者ハ唯今通ニテ右之四ツニ相成幼少男上リ願立、往々家督相譲リ可申哉、両様之際イマダ承届不申候へ共、何分ニモ拙者次男ニ相応之年輩罷在候へハ、更ニ可申子細モ無之候へ共、前文之通末子ニハ纔四歳

罷成者忝人ニテ、別テ間違キ訳合ニ候、然ハ此節嫡家相統迄ハ無造作相済候テモ、則於拙家ハ同様致心配候事眼前ニテ、其儀ニ就テハ拙者今通罷在候へハ、イツレ一身ノ引受相成、至テ心痛可罷成モ差見得居候、乍去嫡家之儀ニ候へハ、何様有之候テモ心之及不尽心配候テ不叶儀ハ当然ニテ、其段ハ差ハマリ罷在候、就テハ拙者第一存寄候ハ、前文通段々女子有之、其内幼少ヨリ艱難辛苦ヲ渡リ、乍女モ是迄家事相勤被居候女子方モ差置、余事之及吟味候テハ、別テ不本意之至歎息ニ存申候、尤此内モ姉妹之内へ似合之人柄見立申度存候旨ハ、直末家之衆へ折々咄モイタシ置、此節ニ至リ弥其通ニテ、次ニハ拙者父子之間ヨリ相統共罷成候へハ、前文通至テ心痛之訳合ニモ罷成候得ハ、彼は深ク御汲取篤ト被及御勤考、御賢慮之程被示聞度、此旨御相談旁以書面申上置候、追テ何分之御報致承知度候、以上、

巳八月晦日

新納駿河

新納 主 稅 殿

新納矢太右衛門殿

嫡家御家内之次第

一 女子おせひ

当年貳拾貳歲位長病人

一 女子おさと

当年貳拾歲位

一 四郎殿

当年拾七歲

一 女子おかね

当年拾三四歲

外ニ

四郎殿御叔母

おくまとの

但

先年新納助次郎江

嫁シ被居候人

右之通御座候、御存之事ナカラ為御考合申上置候、

右之通貳通相認遣シ置候、追テ何分可承含ニ候事、

一 今晦日恩河親方与力召列見廻也、右ハ今般返上物之内

打捨荷有之、御断并清国へ遣シ用竿銅申受願之使者兼

務被申付、今月七日那覇川出帆、諸所汐掛等ニテ去ル

廿六日山川着船、陸地罷通昨日御当地上着之届也、

一 九月二日、彌太右衛門嫡家之儀并ニ自分之用向モ有之  
被參候事、

一 摩文仁親方内意事有之玄喚<sup>(喚)</sup>迄見廻リナリ、且太白砂糖

一 籠・焼酎砧一双贈リ有之、且又恩河親方ヨリモ氷砂

糖一籠・焼酎砧一双贈リ有之候也、

一 九月三日、八ツ後ヨリ新五左衛門・宗右衛門被參候、

尤兩人共無故障候へハ、毎々被參候テ中取旁イタシ被

與候得共、略筆イタシ候置候事、<sup>(符カ)</sup>

一 九月四日、快晴ニ付、四ツ後ヨリお悦・彦熊・近隣伊集院周右衛門小野ノ屋敷へ遊ヒニ参リ、暮過帰リ候事、  
一 今日恩河親方へ上着之為祝儀、肴一折・酒一樽差遣シ置候事、

一 九月五日、昨夕方ヨリ寒ク風ナト有之、今朝至極冷氣相催シ候事也、

一 夕方新納主税殿見廻、明日御差図御用致承知候トテ吹聴、且又先日嫡家之一件ニ付キ拙者存之程書付ヲ以申遣置候趣、得ト及勘考候得ハ、一々同意至極之事ニ候、右ニ付テハ此内新納喜右衛門・同四郎右衛門ナトヨリ承候趣有之候へ共、全体主税殿モ拙者同様相考候事故、拙者江モ不被申聞則主税殿前ヨリ今一往外ニ致吟味候様疾返答モイタシ置候次第之旨モ承候付、夫程拙者意ニ致符合候ニ付テハ、別テ致安心候旨共申置候事也、且又引続伊地知(季安)小十郎ニモ被参候間、是へモ嫡家之一件ニ付拙者存慮之趣致咄候処、至極同意ニ存候旨承候

間、段々安心イタシ候事也、尤彌太右衛門ハ先日被参候節承候趣キ第一拙者同意之事ニテ候、

一 今晚おイツさま御出被成候テ緩々被為成候、右ニ付キ去年

宰相様ヨリ拜領被仰付候御染地之内、黒羽二重十文字御紋付ハ御袖短ク拙者着用難相成候間、お逸さまへ差上候、左候テ裏用ニ白紗綾一反相染差上候、四ツ過御帰リ也、

一 九月六日、新納主税殿寺社奉行江御役替、菱刈奎之介モ同様被仰付候、是迄寺社奉行伊集院亘大番頭へ御役替被仰付候間、皆見廻有之候事也、

右ニ付主税殿江祝儀且祝ヒ迄次郎四郎差越候事、一八ツ後ヨリ新五左衛門・宗右衛門被参候、毎之通写シ方之処、七ツ後ヨリ面高新七郎被参候テ、当家所持之御文書類拜見イタシ度旨、尤此内ヨリ其段承居候間則品々差出候処、新五左衛門・宗右衛門等モ打寄り見方

有之、夜入五ツ過時分迄掛リ太体相濟候間、夫ヨリ暫時致咄、四ツ過三人共帰リ也、

右恩河上国便付玉川王子ヨリ焼酎入中壺老ッ音信物トシテ送り有之、今朝相届候事、

一 九月七日、朝五ツ時恩河親方聞役太郎左衛門同伴ニテ参リ、赤カネ・唐カネ之地金取合式万五千斤位申受被仰付被下度奉願候様、撰政三司官ヨリ申含之趣内意ニテ申出有之候事、

一 九月八日、御役替等多人数有之、伊地知小十郎御使番へ御役替勤方は迄之通、平川宗之進御勘定方小頭ニテ候処御船奉行へ御役替、倉山作太夫御勘定奉行一篇之勤等被仰付事、

一 今日八ツ後ヨリ次郎四郎勤場組所書役一同招呼、緩々酒共振廻候事、

一 今日八ツ後ヨリ次郎四郎勤場進達掛一同相招酒共振廻候事、

一 夕方伊集院周右衛門・新納次郎九郎一所ニ被参候、周右衛門ハ次男八郎明日御用ニテ候旨内通イタシ候処、八郎事当分樋脇へ湯治差越居候ニ付則飛脚可差遣旁之事也、

一 九月九日、五ツ過出勤、九ツ退出、今日御規式毎之通ニテ  
御書院へ御出座、御規式之節豊後殿拙者相伴ニ罷出、萩之御膳御本膳頂戴且御盃モ致頂戴候、左候而

一 先日大口へ差返シ候宮原金太郎事、用向有之今日致出府候事、

御対面所へ

一 今朝恩河内意事ニ付太白砂糖一籠・焼酎砵一双贈リ有之、且又安否為尋、塩豚一重・焼酎砵一双贈リ有之候、

御出座ニ付致席詰候、此節別段上国ノ恩河親方并付役三人

御目見被仰付候、引続大島外三島与人御台様御登 城  
御縁組并太守様御登 城之節、大廊下御部屋へ被遊  
御座候様被

仰出候、御祝儀上国ニテ申上候ニ付、今日都而  
御目見被 仰付候事也、

一 退出ヨリ大奥方江罷上御祝儀申上候事、

一 今日之為祝儀、摩文仁親方・恩河親方ヨリ砂糖一籠ッ  
、贈リ有之間、此方ヨリモ鯉節一折ッ、遣候事、

一 大島始四島之与人共モ見廻贈物有之候得共、別冊ニ委  
細記シ置候間爰ニ留略ス、

一 近隣伊集院周右衛門末子八郎今日奥御小姓御近習番所  
詰被仰付、父子共見廻難有カリニテ候事、

一 今日夜入左之通致承知候、  
今八時於大奥

御男子様被遊御誕生、御実正之御生付ニテ何之御差障  
モ不分為在候段、堅山武兵衛ヨリ為知有之候ニ付、早  
速御広敷江罷上リ

御目見等被仰付、先以恐悅御内意奉存候、右ニ付キ先  
御内分之御取扱ニ候間、明日改服ニテ登城 御内々御  
祝儀可被申上候、此段致通達候、以上、

九月九日

島津下總

右之通致承知別テ難有次第ニ候、然トモ其以前伊集院  
周右衛門ヨリ聞セ有之、疾内々致承知候、乍去尚又難  
有奉存候事、

一 九月十日、出勤毎之通、四ツ後三御役一所ニ

御男子様御出生之御祝儀、御側役へ相付申上候、且八  
ッ退出ヨリ大奥へモ罷上リ  
(島津若杉女子)  
典姫様へモ御祝儀申上置候事、

一 彦熊事今昼ヨリ浄光明寺へ致參詣、八ツ過帰候時分ヨ  
リ、彦熊両足共吹出ヒトクイタシ、惣身熱氣強ク発シ  
候ニ付、何様之事哉ト致心配、早速朝稻方へ申遣弟子  
召呼見セ候処、兼テ湿気相舍居候半、然ルニ寒風ニ吹  
カレ発シ候事ニモ可有之、何ソ深々敷事ニハ不存旨承

候間少シ安心イタシ候事也、

一今日左之通通達有之候、

昨日於大奥

御男子様御出生被遊候処

思召被為 在、先御内分之御取計ニテ、島津之御称号并ニ此様文字被相用追テ御届被為濟候節ヨリ、松平之御称号此様文字可被相用旨被仰出候付、可承向々へ内々申聞置候、此段致通通達候、以上、

九月十日

島津下總

一九月十一日、今朝彦熊余程宜敷候也、昼時分三益・幽泉被參候而彦熊直診之処、軽キ事ニテ少モ致心配事ニハ無之旨被申由、八ツ後新村謙齋モ招呼為見候処、是モ同様ニ申事候間、頓ト致安心候、尤今日迄モ時々発熱イタシ候へハ、立テモ居テモ不被凌様ニカユク候上、熱氣発シ候様子ニテ奇妙之次第也、

一九月十二日、八ツ後指宿納右衛門被參候而、当年迄蔵

方御訴訟モ三四年相願候得トモ不致願達、就テハ當時頓ト差迫ヒ難凌形行ニ付、何トソ御救筋之儀ハ相叶間敷哉、纔五六両ニテモ宜敷旨承候、然トモ申分也、自由ケ間敷可取揚訳合不相見得候ニ付、只今形ニテハ拙者之考ニテハ難相逢趣候間、誰ソ可然人柄見立内訴被申入候様有之度、拙者ニテハ難取受趣申切リ置候事、一八ツ後ヨリ御家老座書役相招緩々酒共振廻候、人数ハ定役限位ニイタシ候事、

御軍役方へ差寄也、

永田與右衛門

岩山八郎太

近日出立之筈也、

山口喜三右衛門

豎山郷之丞

長野 彦七

市來正之丞

伊地知仁兵衛

島山吉次郎

染川喜八郎

伊集院次左衛門

上村 休介

井上直左衛門

五代傳左衛門

堀平右衛門

知識七之丞

上村彦四郎

青山彦右衛門

有馬 新助

右之通ニテ、末四五人ハ月番ナトイタシ候者共ニ付召

呼候、左候テ夜入五ツ時分一同帰リ候事也、

一 九月十三日、快晴、今朝五ツ時御供揃ニテ上様万年丸

御見分被遊、夫ヨリ磯御茶屋江被為 入、八ツ後ヨリ

在番摩文仁親方并ニ此節別段之使者恩河親方且役々迄

モ被為 召候筈、左候テ今晚 御一宿、明日七ツ時御

供揃ニテ 御帰殿之筈ニ而候、右ニ付拙者茂磯へ相詰

候様先日ヨリ致承知居候ニ付、今日四ツ打切り比出宅

磯へ罷出候、御側役堅山武兵衛・山口直記被相詰候、

左候テ摩文仁并恩河江可相達候

御沙汰之趣武兵衛ヲ以テ致承知候間、其通表之御小座

末之間ニテ、武兵衛席詰ニテ申達候趣大意左之通、阿

蘭陀甲比丹ヨリ此節公辺へ願立之趣ハ、古来ヨリ日本

へ致通錨来候国柄ニ付、琉球へ渡来亜・仏同様致和約、

追々ニハ少ツ、交易等茂イタシ度願出、其通被差免候、

就テハ琉球へ可致渡来、其節ハ程能致約諾、交易筋等

茂無差障様可致、若又琉地ニテ致シ兼候儀モ有之候ハ

、大島へ致渡海彼所ニテ大和役々へ可致示談、左候

テ此節ヨリ大和人へモ可致面会被仰付候間、在番郷原

轉并諏訪數馬其外御役々茂、蘭人へ直応接イタシ候様

被仰付候、然共右之一件清国へ相聞得候而ハ不可然候

間、其段ハ急度不響様ニ可致旨蘭人へモ御諭シ、何茂

差障不相成様御取扱被仰付候間、其段ハ不及懸念旨モ申達候、尤恩河事近日出帆之筈ニ付、右之通被 仰舍候間、帰国ノ上撰政三司官ヘモ申達 国王ヘ申上候テ、其通致取扱候様被仰付トノ趣申達候事、

一 右申渡等相済候後

御帰館無之内ニ、琉人共ハ山田壯右衛門案内ニテ御庭内ヨリ御取添内反射焔・ホールバングナト或ハ硝子製等拝見被仰付候由也、

一 上様ニハ万年丸

御見分ヨリ中途御釣共被遊候テ、七ツ前比

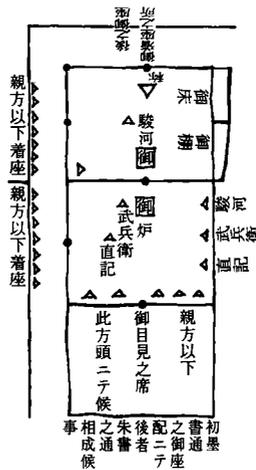
御入有之、御二度共被為 済、無程御小座へ拙者儀罷出候様承知仕罷出候処、段々御用共被仰付、左候テ直ニ鶴之間へ

御出座、御召物ハ御羽織・御袴也、左候テ親方兩人一所ニ、武兵衛引進ニテ

御目見、引次役々五人一所ニ同断ニテ、夫ヨリ御敷込へ親方以下七人着座、御主居ニハ拙者并武兵衛・直記

相詰候テ御取合共イタシ候処

上様ニハ御間遠被為 在候間、頭之方御敷込江被為 御直候ニ付、琉人共一同相進ミ、我々モ忖シ相進ミ候趣承知仕候間其通罷出候、



右鉤図之通御配リ相成、左候テ前文之通り拙者ヨリ表之御小座末ニテ達シ置候蘭人約定一卷猶又

御直達シ被遊候間、琉人共

御膝元へ罷出候様承知仕、拙者引進イタシ親方兩人相進候処、猶又細々

御沙汰茂被遊、拙者ヨリモ御取合共イタシ候、左候テ引下り得ト着座、夫ヨリ御吸物・御酒等被下、段々難

有次第ニテ御吸物モ三通程被下候、左候テ西洋仕掛之御道具共色々拝見被仰付

御庭江茂

御直御案内被成下、我々始親方以下モ一同ニ付上難有拝見物被仰付候、左候テ後ニハ席画有之、跡ニテハ親方兩人親雲上モ兩人ハ席書迄モ被仰付候事共ニテ、至極難有次第、拙者ニモ難有詰仕、種々頂戴仕候、左候テ御前ニテ御湯漬迄被成下、夫限リニ琉人共一同相下リ候ニ付、拙者共モ直ニ退席仕候、五ツ過比ニテモ候半、左候而御用仕廻直ニ退出、帰宅之時分四ツ時ナリ、

一 九月十四日、七時御供揃ニテ御乗船暮前御帰殿被遊候御事之由也、

(御事志也)

一大興寺蘭窓様御牌前へ、琉人ヨリ贈リ品之綴子ヲ以打敷、一片相調十文字御紋二ツ白縮緬ニテ相付致寄進候、右之裏ニ左之通書記置候、

蘭窓様御牌前へ御内々

奉寄進者也、

安政四年丁巳九月十四日

新納駿河

右之通相調、左候テ外入箱モ相調差上、箱之裏ニ此打敷御正忌日始盆・彼岸・年頭・節句日等御備奉頼候トノ旨記シ置候事、

一 九月十五日、五ツ時出勤、垂水城主家督御礼并ニ豊後殿嫡孫御直元服、其外初テノ御目見諸御礼等、多人數被仰付候事、

一 此節御出生御男子様七夜之御祝ヒ有之、御名

哲丸様ト被進候、右ニ付九ツ後大奥江大目付以上罷上リ、

哲丸様御目見仕候処、至極之御実正様ニテ、最早余程御太リモ被為付、難有次第也、左候テ大奥御書院末之間ニ而、御茶・御菓子等被下、御吸物二通リスマシ・味噌、御差身・御取肴等ハ御家老座へ引取候上、大奥

之筋ヲ以頂戴被仰付候、彼是之御用取込八ツ半時分退  
出候事、

一九月十六日、朝五ツ時摩文仁親方内意事有之、聞役太

郎左衛門同伴ニテ被參候、右ニ付毎之通太白糖一籠・

焼酎砧一双贈り有之候也、

一八ツ後ヨリ御家老座奥掛書役共五人、琉球三司官之儀

ニ付御内用談有之召呼、長談ニ及夜入四ツ過皆帰也、

一今日摩文仁親方見廻有之、訳ハ此節福建官人ヨリ竿銅

懇望ニ付、壹万五千斤之願有之候処、壹万斤申受被仰

付候ニ付右之御礼也、且恩河親方モ同断ニ付見廻、且

又国王方ヨリ当座之御礼トシテ恩河并聞役太郎左衛門

連名ニテ、御礼見廻有之候、左候而三通贈り物等モ有

之候次第、左之通也、

覚

御扇子 一箱

十錦太碗 十

紺地島細上布 一端

紺島細上布 一端

島紬 一端

以上、

摩文仁親方

覚

御扇子 一箱

御吸物椀 十

十錦御筭寒 十

嶋紬 一端

紺地島細上布 一端

紺島細上布 一端

以上、

恩河親方

覚

紗綾 三端  
白紅

毛氈 二枚

九月十六日

恩河親方

新納太郎左衛門

一今日恩河親方并琉役々上国ニ付テ之定式見廻有之、送

物左之通也、

進上

大官香

三把

白花紗綾

二端

焼酎

壹壺

以上、

恩河親方

・飯迄緩々振廻、先規之通相調候、尤道之島掛リ書役  
井上嘉左衛門・吉村才之丞八ッ前ヨリ参リ何篇致差引  
役所之取持ニモ亭主振リイタシ候、尤用達・用頼等取

進上

合緩々為致候事也、

官香

三把

右ニ付贈物等有之候得共、別段帳ニ記シ置候ニ付此所

練蕉布

一端

へハ略シヌ、

以上、

一豊後殿事来ル廿一日出立之管ニ付、今日御改革掛ニ付

而定式被下置金百兩并別段御心付御内々百兩被成下候

取扱拙者イタシ候事、

進上

一右之通出立之管ニ付、拙者ヨリ地頭所到来之筋ヲ以テ

大官香

三把

指宿煙草四拾斤・肴一折差遣シ候事、

島紬

二端

〔朱〕  
「恩河親方与力也、」  
伊志嶺親方

毛氈 二枚

以上、

〔朱〕  
一返上物才領出府也、  
山内親雲上

進上

大官香

三把

雲布

一端

毛氈

一枚

以上、

〔朱〕  
一右同大筆者也、  
喜久里親雲上

一拙者儀今日出勤、殿中ヨリ少々以下動気差起候ニ付、心カ

歸宅後直ニ朝稻三益弟子申遣候処、関養庵参リ候ニ付

菓共モラヒ候、三益事ハ今和泉之領主私領ニテ病氣ニ

付、三日以前ヨリ差越居候ニ付テ右之通也、且又西郷

幽泉弟子花田幽齋ニモ夜入召呼致療治候、是以幽泉ハ

今昼ヨリ方々行違之由ニ付右之通也、

一九月十九日、今日御殿ニテ豊後殿明後廿一日出立之誓

ニ付、段々御内用筋申談候跡ニテ、此内ヨリ起リ居候

極密之一件豊後殿へ程能口合承届候処、拙者案シ通ニ

テ候事、

一九月廿日、今朝五時出宅、福昌寺へ

〔島津重豪〕  
大信院様

〔島津齊興等〕  
賢章院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

但

御惣靈様江御代拝

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤夫ヨリ出勤、日入過致退出候、今日ハ四時

御供揃ニテ

上様福昌寺ヨリ恵燈院・浄光明寺夫ヨリ寿国寺迄 御

参詣被遊、八ツ過御帰殿有之候事、

一 豊後殿明日出立ニ付、今日

御帰殿後被為 召候ニ付、御用済迄拙者モ相詰居候処、

日入過御前ヨリ被相下候間、猶又御用筋次第等有之、

相濟候テ一所ニ退出候事、且又今日モ昨日豊後殿へ御

内用并私用等申談候内、昨日口合候趣今日承候処、豊

州ハ別テ喜ヒニテ候事也、

一 拙者事一昨日方ヨリ心下之動氣ニテ不塩梅有之候ニ付

今夕モ西郷幽泉相頼針治共イタシ候事、

一 九月廿一日、晴天、今朝案外白霜見得候、先日ヨリ別

テ暖氣之処今朝右之通初テ見得候事也、

一 今日再聞式日ニテ候へトモ、被召出科人不罷居、再聞

無之目出度事也、

一 八ツ後新納休右衛門被參候、是ハ重富御三居靜洞殿御

使ニテ、御酒肴・東道盆菓子トシテ金子五百疋被下候、

訳ハ此内度々此方へ押掛御出被成候段々御面働被相懸

候トノ御挨拶ナリ、仍テ奉恐入候段厚御取成給ハリ置

候様申達置候事、

一 九月廿二日、七ツ後清水養生正被參候、御内沙汰有之候  
而之事也、

一 今夕方ヨリ平田直之進殿・伊集院喜左衛門殿・同名周

右衛門殿・同人次男良助・東郷一介等緩々相招候、喜

左衛門ハ先日当番頭へ御役替勤方は迄之通御勝手方、

御用人勤、良助ハ周右衛門次男ニテ先日奥御小姓御役

御近習番所詰被仰付候故、御礼之心持也、皆緩々ニテ

四ツ過被帰候事、

一 九月廿三日、五ツ時福昌寺へ

(島津重豪宅)  
慈照院様御正忌日ニ付

太守様御代參

宰相様御代拜

着服ノシメ・半袴

右之通相勤、夫ヨリ靜洞殿御近習迄先日御手厚被下物

有之候御礼見廻置、夫ヨリ畠山主計殿長々病氣ニテ見廻候テ出勤、八ツ退出候事、

官香

三把

練蕉布

一端

以上、

伊志嶺親雲上

一 九月廿四日、出勤、四ツ過ヨリ二之丸へ砲術御式日ニ付罷出候、今日一番組小与屯番・式番・三番之參組被召出候、大鐘過相濟退出候事、

右之通ニテ此程ハ預世話、勤方モ首尾能相濟、近々乗船ニ付右礼且暇旁見廻ニテ、品物左之通贈有之候事、

一 今日御殿ニテ下總殿ヨリ豊州事ニ付テ之御用談且書付

覚

モ被為見候事、

御扇子

一箱

一 今日恩河親方見廻ナリ、右ハ願之通御暇被下候ニ付御

白唐子

一帖

礼ニテ、品物モ左之通贈有之候事、

島紬

一端

進上

紺島細上布

一端

大官香

紺地島細上布

一端

御菓子皿堆錦

十

毛氈

一枚

白花紗綾

二端

以上、

以上、

恩河親方

恩河親方

進上

一 九月廿五日、出勤、八ツ退出、下總殿ヨリ昨日八ツ後

重富へ被参、周防殿へ極御内用御相談被申上候趣承候事、

一今日北郷浪江殿当御役ニテ御用人勤被仰付候間、祝儀

且祝ヒトシテ次郎四郎差遣候、尤浪江ハ哲五郎殿事ニ

テ哲之字遠慮ニテ先日改名有之候事也、

一今日恩河親方等へ餞別品左之通差遣シ置候事、

覚

扇子 一箱五本人

白麻 三十帖

杉原紙 一束

鯉節 一折

以上、

右之通恩河親方へ

扇子 一箱二本入

白麻 十帖

右与力伊志嶺親雲上へ

右之通ニテ銘々口上書等相添遣シ候事ナリ、

一九月廿六日、今朝願娃織部殿出勤掛見廻ナリ、訳ハ昨

日御内々御救金四百兩被成下候付テ御礼也、

一今日犬追物稽古 御視有之、四ツ時ヨリ御出座ニ付、

下總殿・伊織殿・矢五太夫殿彼方へ被相詰候、尤下總

殿事ハ掛リニテ第一被致差引候事也、

一今日川上式部殿三男岩次郎事ハ高輪御方之御小姓被仰

付、仕廻次第出立迄モ被仰渡候、右ニ付おせひとのハ

早クヨリ次郎四郎ハ七ツ後ヨリ祝ヒニ参リ候事、

一当分到来之酒沢山有之候ニ付、番所人数へ下ケ遣シ候

処、嶋元浅右衛門始都テ及沈酔別テ不埒之成行ニ候段、

次郎四郎川上家ヨリ帰リノ上申聞候間、拙者ニモ番所

へ差越致見分屹ト叱リ置候事、

一九月廿七日、夜前相応之雨也、尤余程久敷降雨無之故、

草木人民潤沢イタシ大悦之事ナリ、左候テ今日中疊北

風也、

一今朝家来共ヨリ夜前不埒之儀無申訳トテ、用頼長野源

助・田代太郎ヲ以断申出候間、以来之儀共申達置候事、

以上、

山内親雲上

一 九月廿八日、今朝川上龍衛殿見廻有之候、訳ハ顯姪家

同日龍衛殿へ金五百兩御内々頂戴被仰付候御礼也、

一 七ツ後相良角兵衛・伊地知喜右衛門・稻留良助・飯牟

禮八郎見廻也、是ハ明日ヨリ佐土原へ差越候ニ付暇乞

旁也、

一 九月廿九日、朝白霜、今日奥向砲術御式日ニ付四番組

小与一番・四番組 召出候間、次郎四郎六ツ過ヨリ罷

り出、日入時分罷帰リ候事、

一 今日山内親雲上事、先日御暇被下難有奉存候トテ御礼

也、且左之通贈リ有之候事、

進上

太白砂糖

一籠

焼酎砵

一双

一 九月晦日、八ツ後伊集院亘殿・土岐平太夫殿其外段々

被参候、亘殿ハ伊集院伊膳事ニ付内願、平太夫ハ島津

仁十郎殿不縁之一卷ニ付相談也、

一 十月朔日、五時出勤、八ツ過退出、当月伯耆殿月番ニ

テ候得共、先日ヨリ穆佐悟性寺へ為御代参被差越候ニ

付、帰リ迄之間拙者可承旨申談置候、今日毎之通御出

座ニテ、御直元服其外諸御礼被仰付候事、穆佐ハ此節

(島津久徳) 義天様御石塔御再建有之、御供養ニ付テ之御代参也、

一 今日八ツ後市來正右衛門被参候、明日乗船ニテ琉球へ

渡海之筈ニ付、段々御内用筋有之候テ之事ナリ、

一 七ツ後ヨリおよしとの被参候テ緩々ナリ、右膳殿死去

後初テ被参候事、

一 今日返上物才領大筆者喜久里親雲上・同才領山内親雲

上見廻候、訳ハ今般厚御容免ヲ蒙リ難有奉存候トテ銘

御扇子 一箱

々品物等持参也、子細ハ返上物上納方ニ付テハ、御仕

玉掛床 一

立物役其外之掛役々シラヘ方隙取、中ニハ難納向ナト

紺地島細上布 一端

申立、六ヶ敷事モ有之由ニ付、昨年ヨリ声ヲ掛置、今

毛氈 一枚

年ハ猶以砂糖試之スクヒメシ具ナトモ此内ハ大キク砂

以上、

糖モ散々取扱候由ニ付、左様之事トモ費筋無之様取締

山内親雲上

可有之旨、掛リ高奉行等へ書役岩山八郎太ヲ以内々相

一山内親雲上事ハ追々乗船ニテ帰帆ニ付、暇乞旁トシテ

達、万事取締申達候故、琉球方モ余程喜ヒ候半ト存候

別段見廻、且贈物モ左之通りナリ、

事也、

進上

進上 御扇子 一箱

御扇子 一箱

御茶請盆 一

御筭寒 十

島紬 一端

以上、 山内親雲上

毛氈 一枚

右ニ付此方ヨリ左之通り遣シ候事、

以上、

扇子 一箱二本入

喜久里親雲上

白麻 二十帖

進上

一十月二日、昨日ヨリ疝癩氣之訊候カ又々眩暈塩梅ニテ

尤心下動氣モ有之候ニ付、今日下總殿へ頼遣シ引入致

養生候、左候テ四ツ後西郷幽泉相招致針、今夕方朝稻

三益モ相招診脈相頼候処、腹痛沈ミ居候ニ付、メクリ

立候ハ、可宜トノ旨ニテ薬加減共被致候、尤去月十八

日ヨリ薬用イタン居リ候事ナリ、

一今日在番摩文仁親方見廻リニテ品々贈リ有之候訳ハ、

唐国へ別段ニ送り用之赤カネ・地カネ又ハ唐金地金耆

万斤申受被仰付置候処、代銀モ竿銅耆斤ニ付代金九匁

ツ、ニテ被仰付置候処、其後直下リニテ耆斤五百文宛

覚

御扇子 一箱

藤御菓子皿 十

御取肴籠 一

紺地島細上布 二端

紺島細上布 二端

縮緬紅 二巻

緞子 一本

以上、

摩文仁親方

一琉球在番郷原轉・守衛方詰諏訪數馬へ、御内用之儀左

之通相認、今日差出シ置候事、

三司官座喜味親方事別段御内用掛ヲ以申越候通、当役

多年相成万事引受致取扱候ニ付テハ、其中仕損之事モ

有之、無抛時宜ニモ可有之候へトモ、我意押強キ様之

人柄ニテ、追々人望モ薄ク相成、雜説ナトモイタン、

諸人信服モ無之哉之旨、内々ハ巨細達

御内聽居候哉ニテ、拙者へ

御直御沙汰之趣モ有之候へ共、遠海相隔虚実不弁候ニ

付相応申上置候、然トモ夫々致吟味候様ニトノ

御沙汰ニ付、此内致渡海候面々へ承合候得共、何分ニ

茂人望薄キ様ニ雜説モ承及候得共、其処ニ深く心ヲ寄

セサル事候へハ、兎角突留難申出趣ノミニ御座候、依

テ表向申越通ニ候間、此上ハ細々被申聞合少モ無遠慮  
実意被申越度御座候、

前文通

御耳ニモ入候儀モ有之趣ニ付テハ、能キ様ニトノ心得  
ニテ取成等敷儀共有之候テハ、決テ不都合可相成存申  
候、大和ナラハ此節押切り何トカ故障申立、退役等ニ  
モ不及候テ不叶時宜候ヘトモ、遠海相隔突留候事モ不  
承得候、重役儀ヲ軽々敷拙者共致掛合万々一忠義ニハ  
マリ何篇氣張致精勤候者ニテ諸人自由不相成処ヨリ返  
テ悪口候様共申成候ハ、琉和共不可然事ニ付、御内  
々訊テ奉願一掛合之上何分奉伺候様仕度旨申上置候儀  
ニ御座候、返々モ無心置実意被申越度儀ト存候ニ付、  
訊テ此段自筆ヲ以猶又申越候処深ク御汲受細事可及御  
答処呉々相待申候、以上、

但

此節蘭人約定一件等ニ付而ハ恩河等江

御直御沙汰モ有之候ニ付否有之間敷、乍去少々ニ

テモ拒ミ候意味共御座候ハ、片時モ不差置撰政  
池城等へ御諭シ早々退役為致候処御取扱可被成候  
本文通三御役御都合ニ付両条共無懸念御取扱被成  
度此旨モ為御心得申越置候、

十月二日

新納駿河

郷原 轉殿

諏訪數馬殿

一十月三日、夜前深更ニハ心下動氣チト強ク起リ少々難  
儀ニ候得共、拙者一人ニテ腹ナト按摩イタシ相濟候、左  
候テ曉方ヨリ寸切ト平和ニ相成候間熟睡イタシ候事、  
一今夕方ヨリオいづさま御出被成候、岩下家へ御出御帰  
リ掛之由、五ツ過御帰リ被成候事、今日拙者誕生日ニ  
付酒共御寄合申上候事、

一十月四日、夜前ハ一昨夜ヨリ余程宜敷安ラカニ寢候事

也、

一十月五日、八ツ前岩山八郎太參リ此節造士館・演武館之事ニ付精微ニ

御筆書取被相下、拙者へ取扱被仰付候トノ御事ニテ拝見仕候処、誠ニ奉恐入御事ニ付深く御礼申上置、左候テ明後日方ヨリ是非致出勤夫々申渡候様取扱可仕旨御受モ申上置候事、

一今日下總殿江千石之御役料高被下置候由也、

一十月六日、追日快方也、西郷幽泉ハ毎日相頼致針治候事、

一島山主計殿御実母文清院殿此内ヨリ御病氣ノ処昨日御死去之由ニ付、今日加治木井村橋敷馬殿・主計殿等江悔共申遣シ候事、

一十月七日、今日ヨリ出勤毎之通、八ツ退出、尤先日ヨリ之不塩梅追テ快方ナカライマタ寸切トハ無之候得トモ、一昨日拝見被仰付候

御筆仰出シ、今日御弘メ方有之候ニ付押テ致出勤拝見之事取扱候、尤例之通り御一門方始月次御礼罷出候面々奥表共多人數罷出候テ拝聞有之候事、

一重久惣右衛門事明日江戸へ致出立候トテ見廻有之候間歸リ後則金子二百疋・扇子一箱・細上布紺地島老反・沖永良部島芭蕉布老反、取合為餞別差遣シ候、右重久ハ若年ヨリ近所同志ニテ此節モ品々送り物有之候ニ付右之通返礼旁遣シ置候事、

一退出掛拙者モ加治木へ見廻候、今晚加治木江引越ニ付用達使ニテ挑灯共差遣シ候、少々雨降り世話等敷事之由也、

一十月八日、今朝五ツ前ヨリ福昌寺へ

(鳥津所直)  
大慈院様拾七回忌御法事ニ付相詰候而

太守様

宰相様御代參モ兼相勤候、着服熨斗目・長袴ニテ、八ツ時分勤行等相濟直ニ退席候事、今日家名方宮之城圖

書殿・大目付頼娃織部殿ニテ候、且又今朝出掛  
(島津齊宣室)  
芳蓮院様御忌日ニ付

太守様

宰相様御代参

但

御惣靈様江御代拝

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤候事、

一七ツ後山田壯右衛門御用向有之、被参候テ暫時ニテ帰  
リ也、

一十月九日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ興国寺へ御墓参イ  
タシ七ツ過帰宅候事、

一拙者心下動氣追々平治イタシ候へトモ、薬用并西郷相  
頼針治不怠候事、

一十月十日、大慈院様御法事中ニ付御仏参被遊候事、

一七ツ後岩山八郎太・堅山郷之丞列立参リ、去ル七日

御筆仰出拜聞之節、島津帶刀敷舞台へ罷出居拜聞之央  
ヨリ小用洩レ出候処、トフモ引留カタク相応出候得ト  
モ無致方相濟候上被罷下候処、拜聞中被罷居候晝ハ勿  
論アフレ居、夫ヨリ歩行通り引下リ之道筋両足袋都テ  
大ヌレイタシ居候由ニ付、足跡モ零落、尤ヌレ候テ晝  
六枚程ハ御敷替ニモ相成候次第ニテ、頓ト無申訳事ニ  
付御役御断申上候筋ニ内決イタシ、乍去何様可有之哉  
旨承候間、何レ病氣ニテ右様ク、リモ弱ク相成候半、  
就テハ跡ハ得ト養生有之、追テ之成行次第被致候儀可  
然哉、何分此涯之所ハ引入居一切養生有之候方可然、  
其上之処ハ追々可致内通旨細々申達置候、内実ハ誠ニ  
前代未聞、是程ヲサマラン時宜ハ誰モ不知評判ニテ候  
事、

一八ツ後ヨリ伊東新五左衛門被参候、先日ヨリ拙者雜譜  
帳自宅江持帰リ中取ニテ、今日少々持参有之候間糾合  
等イタシ、夜入四ツ過被帰候事、

十一月十二日、今朝飯島地頭付役愛甲清右衛門見廻リナリ、先日中戻リイタシ又々明日方ヨリ差越トノ事ニテ候、

一今日摩文仁親方聞役同列ニテ見廻リ、来ル申年封王使渡来ニ付、入用銀及不足古銀八百貫目拝借願有之候処、当御時節御金繰モ別テ御難波之砌、不容易儀候ヘトモ格別成一世一度之大礼故、厚以御仁政無利ニテ願之通拝借被仰付候段、誠ニ以厚御取扱之段難有次第奉存候トノ御礼ナリ、且贈品左之通、

覚

十錦大碗	十
金之火燒 <small>(火焼)</small>	一
紺地嶋細上布	二端
島紬	二端
白花紗綾	二端
色緞子	一本

十月十二日

一十月十三日、八ツ半時分ヨリ靜洞殿御出被成、勝山家御取立之儀ニ付テ色々御沙汰有之、大鐘時分御帰リ被成候事、

一引統島津隼人殿見廻ニテ、先日実弟帶刀御殿ニテ小便洩シ候事ニ付テ段々預世話候トテ礼也、

一十月十四日、晴天至極暖氣、今日出勤、四ツ過御暇イタシ、伯耆殿并喜入主水殿一所ニ下町下会所ヘ立寄り、截揚野羽織ニ致服替、福崎助八・向井新兵衛等始書役共召列、先比江戸ヨリ廻船相成居候御船蒸氣船拜見、且乗試トシテ石燈爐通下ヨリ乗船ニテ、江夏十郎頭取ニテ御船方之細工人ナト乗組被致世話、大崎之鼻迄参リ、同所荒平ニ近頃ヨリ炭山被召入置候ニ付、炭竈場所共上陸見分イタシ、直ニ乗附引返シ大鐘時分乗船之場所ヘ着船イタシ候、蒸氣車誠ニ以珍敷モノニテ、櫓ナレハ太体六挺位モ立候程ノ早サ、御船長サ九間程ニテ幅老間アサ九尺位有之、長キ船形ニテ候、下会所打立之

節九ツ打大鐘時分帰着候ニ付、十郎事ハ夫ヨリ直ニ泊  
リ番ニ致出勤トノ事候間、同人へ相頼、先今日之御礼  
申上置候、外之御家老・若年寄等ハ去ル六日拜見乗試  
モ有之候由也、

一十月十五日、八ツ後指宿郷士年寄平嶺新藏江今般之

御筆仰出相渡、所中難有奉承知候様申達候事也、

一拙者(心)以下動氣追々平治之事候得共、矢張り西郷幽泉等

毎々相頼針治イタシ候コトナリ、

一十月十七日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ二之九へ騎兵隊

御覽有之候ニ付差越相詰候、七ツ打直ニ被為 入候而

日入過相濟候、騎兵ハ今日初テ御覽被遊、随分御都合

能向候、尤次郎四郎等モ罷出相勤候、惣人数百八人

ニテ候由、左候テ惣人数江御酒料金千疋被下候由也、

一十月十八日、出勤毎之通、今日下總殿へ豊州家事ニ付

テ書状差出置候、然処拙者此内粗下總殿迄申置候趣、  
先日御内々

御直ニ御尋被申上候処、チト意味違ニテ候由、然ハ拙  
者間違不行届之筋別テ如何之至ニ付恐入罷在候、イツ  
レ後日得ト御断筋之儀致相談候様可致存候事、

一七ツ後ヨリ馬ニ乗り高麗町方ヨリ田上方へ参リ、且ハ  
致歩行天神ヶ瀬辺ヨリ引返シ、三穂崎東郷一介飯屋へ  
立寄り茶共給へ、暮時分帰宅候事、

一十月十九日、奥向砲術日ニ付、四番組之内小与二・三

・四之内三組被召出候ニ付、次郎四郎事早朝ヨリ罷リ  
出暮ニ退出イタシ候事、

一十月廿日、今朝新納休右衛門被参候、靜洞殿御使ニテ  
勝山家御取立之一件六ヶ敷事共致承知候間、彼是及長  
談四ツ過キ被帰候事、

一十月廿一日、出勤、四ツ過キヨリ登殿・伊織殿一所ニ再聞へ出席、一組ニテ相濟直ニ退席、夫ヨリ岩下家へ立寄致服替、乗馬ニテ伊集院周右衛門伊敷之屋敷へ差越候、尤先日ヨリ約束ニテ候、志岐藤兵衛・本城源七郎・東郷一介被参、至テ閑静成催シニテ、飯共給へ緩々屋敷中歩行共イタシ、暮時分打立六ツ過帰宅、中途ヨリ銘々分レ候事、

一十月廿二日、八ツ後ヨリ御軍役方人数緩々相招候付、一同被参候テ夜入五ツ過キ帰リ也、

惣頭取

川上式部

御軍役奉行

田中仁右衛門

御軍賦役勤

安田助左衛門

右同

税所七郎左衛門

御軍賦役

野村彦兵衛

右同

坂元彦五郎

右同

成田彦十郎

書役勤

永田與右衛門

書役

甲斐弥右衛門

右同

田代孫九郎

右同助

野村仲左衛門

右同

橋口助右衛門

右同

龜山甚助

右同

安藤作之丞

右同

長谷場助七

右之人数被参候テ緩々也、

頭取寄琉球詰  
諏訪數馬

御軍賦役奉行江戸詰  
三原藤五郎

御軍賦役江戸詰  
折田平八

右同大島詰  
永田新八郎

御軍賦役病氣  
法亢字左衛門

御軍賦長崎在勤  
川南清兵衛

書役勤右同  
相良弥兵衛

右同琉球詰  
岩元清藏

書役江戸詰  
市來連右衛門

右同右同  
田中治右衛門

右同右同

永田直右衛門

右之通他行・病氣等ニテ候、為見合記シ置候事、

一此内被仰付置候中之島在番安藤新之助江代金拾貳兩式  
歩ニ致附属金子モ入付有之、今日茂右衛門ヨリ差出候  
間致格護置候事、

一十月廿三日、曇、今日四ツ時福昌寺へ

慈照院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

但

御惣壹様へ御代拝

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤別勤也、夫ヨリ深固院・月香院・大興寺へ  
致参詣服替ニテ致乗馬吉野筋太鼓橋之涯伊東茂右衛門  
屋敷へ参リ昼飯共給へ、夫ヨリ川添村川上筑後殿<sup>地</sup>拘地  
ノ内迄致歩行、夫ヨリ引返シ本海道罷歸リ伊東新五左

衛門所へ立寄り茶共給へ、日入時分致帰宅候事、

一十月廿九日、七ツ後ヨリ乗馬ニテ尾畔下ヨリ不動院辺迄歩行等イタシ、暮時分帰宅候事、

一十月廿四日、早朝野村彦兵衛被参、昨廿三日夕方ヨリ

鹿籠之沖拾四五里之所、異国船体之船南ヨリ西之方へ致通帆候へトモ、暮時分相成帆影不相見得候段、今晚早打到着之段申出有之、承置候事、

一十一月朔日、今朝肥後八右衛門被参候テ、沖永良部島へ三度下リ之船頭へ御褒美沙汰承候間被申出候様達置候事、

一十月廿七日、八ツ後玉里御側役橋口今彦被参候而、去ル廿四日晚御製菓方御座内失セ物有之、何者之仕業共不相知候、然トモ書役等之自銭ナト少々之事故、表向之糺方ニ及間敷旨申談置候事、

一中之島在番名代勤先頃附屬相成居候拾貳両式歩之内ヨリ、八両長野源助へ多年預世話候礼トシテ遣候、尤去年寶島在番附屬八両ニ成、田代太郎太へ遣シ候例ヲ以、右之通八両程ニ見賦イタシ遣シ候事、

一十月廿八日、明日飛脚便ヨリ道島源五郎へ差向金子五百疋差遣

一琉球へ焼過砂糖有之、館内ヨリ雇船差下積登度、左候テ掛物銀百斤ニ付手形銀込九百文余ニ及候ニ付、此節限半方上納御免被仰付度旨願之趣有之候処、先日願通被仰付難有奉存候トテ、在番摩文仁并聞役新納太郎左衛門一列ニ見廻、且品物左之通贈リ有之候事、

宰相様へ寒中之伺御機嫌申上度、永江休之丞へ相付取計被呉候様書状等仕合置候事、

覚

御扇子

一箱

金之火炉

一

島紬

一端

紺島細上布

一端

白花紗綾

一端

毛氈

一枚

十一月朔日

新納太郎左衛門

摩文仁親方

右同断ニ付在番親方ヨリ別段ニ左之通り品物共持参見  
廻有之候事、

覚

御扇子

一箱

藤盆椰子御道具相付

一

紺地島細上布

一端

島紬

一端

大松垣紗綾

一端

以上、

摩文仁親方

一十一月二日、出勤毎之通、退出ヨリ靜洞殿へ罷出七ツ  
過罷立候事、訳ハ勝山家御取立之一条ニ付昨日モ致承  
知候趣有之、且御着等被下候ニ付御礼旁也、右ニ付周  
防殿御方へ左之通申上置候事、

昨日ハ御三居様ヨリ御使ヲ以、此内ヨリ度々御出等ニ  
テ面働被相掛候トノ御挨拶、殊ニ御着一折被下置、左  
候テ御分立御願之事モ御願書被差出御模様ニカ相成候  
由、御喜悅被遊候段承知仕、何共奉恐入候、就テハ今  
日為御礼私参上仕、御分立之儀ハ是迄御願書不被差出  
御内分之事ニテ隙取ニ相成居候間、是ヨリ私共承知仕  
御役場之取シラへ仕、其上御内慮奉伺候様可仕候間、  
左様ニ思召可被下旨申上置、御屋敷御高割等之儀ハ何  
モ不拘候段申上置候ハ、全私共御役場之吟味ノミニ  
相成、乍恐御落着ニ茂可被為成哉ト奉存候、御礼旁取  
束申上置候様可仕候間、左様被 思召置被下様奉願候、

此段為御舍申上置候、以上、

十一月二日

新納駿河

右之通鹿島郷十郎ヲ以申上置候事、

一十一月三日、出勤毎之通、九ツ過ヨリ

御前江被為召候テ、御金奉行御取立并ニ水軍兵士之儀且ハ琉球付役等之儀共段々御沙汰被為在、又ハ奉伺候儀有之、數刻ニ相及終ニ八ツ打夫ヨリ恐入罷下リ候事也、

一今日例祭之鎗流馬(流籠)近隣藤馬殿嫡子島津織之助并徳永助

右衛門嫡子某ニテ、天氣モ快晴首尾能相濟候由、お悅・彦熊大乘院境内へ見物トシテ差越候事、

一八ツ後ヨリ伊東新五左衛門被參候、是ハ拙者譜帳彼宅へ持帰り中取イタシ被呉候、安政二年卯十二月迄出来持參候ニ付、糺合等イタシ夜更迄掛リ候、其内磯永孫四郎ニモ被參候テ暫時咄ナリ、

一十一月四日、八ツ後平田八郎太被參候テ存寄書老冊被差出候間受取置候事、

一十一月五日、出勤、四ツ過ヨリ外御庭御馬見所へ大目

付以上罷出候、訳ハ御一門方二男以下寄合并末子迄被召出馬乘方御覽被遊候、惣人数九十人余ニテ八ツ前ニ相濟候間、拙者乘馬市成栗毛ノ子恒吉生立青毛御覽被下間敷哉奉願候処、直ニ乘方為致候様ニト御沙汰ニ付伊集院弥右衛門等江申談、玉置周次へ乘方相頼候処能出来候テ仕合候事也、左候テ直ニ御入被遊候、其時分八ツ打候間我々茂直ニ退出イタシ候、次郎四郎等モ罷出自馬栗毛乘方イタシ、右周次へハ夕刻ヨリ肴一折・酒一樽遣シ礼申入置候事、

一十一月六日、出勤、四ツ過ヨリ二之丸御宝蔵へ差越、御格護金之内古小判壱万両出シ方イタシ候、御側役代伊集院周右衛門・御趣法方御用人福崎助八其外御役々

例之通相詰候、尤御内用之儀有之致出方候様ニトノ御沙汰ニ付テ也、八ツ時分相濟候間直ニ退出候事、

若年寄・大目付且奥向御役々一同拝領物有之候事、一右拝領被仰付候御礼、堅山武兵衛へ相付申上置候事、

一十一月七日、雨、冬至、今日例年之通御氏神祭イタシ、社人中馬長門病氣ニ付悴左太郎十四歳相成者為代役差遣シ候ヘトモ、兎哉角例之通相調候事、

一十一月十日、今朝新納休右衛門被參候テ、垂水之砂糖製本年用トシテ御金弍千五百兩拝借之儀先日申出有之候ヲ、拙者存寄申達置候処、今朝モ猶又承候趣有之候ヘトモ、不相替存寄細々申入候処畏入候トノ事也、

一萬太郎立初モ去ル三日誕生日ニテ相当之事候ヘトモ差延置、今日混シ祝ヒイタシ候間、七ツ後ヨリ川上式部殿・高橋縫殿(殿カ)・北郷浪江殿・川上主膳殿・伊集院周右衛門殿・志岐藤兵衛殿・伊地知小十郎・新納彌太右衛門其外兼テ出入之面々用頼等打寄祝候、尤式部殿奥方并御家内方およしとの等婦人方ハ、折柄段々差支ニテ御出無之候事、

一十一月十一日、今朝高奉行田中源五左衛門被參、返上物積船只今前之濱廻着之段届承候、尤此内大島辺へ滞船近比山川上着之船也、

一十一月八日、今日於御座之間御小納戸三原藤十郎・御取次御側役名越彦太夫席詰ニ而

一十一月十三日、七ツ後清水養正被參、御内沙汰之趣有之、被申達候趣ハ、御内々被聞召候マ処ヘマシ子有之様ニ候間、以来折角(無)ナヒ様ニ取締イタシ候様致承知、誠ニ以難有

御熨斗目花色御紋十文字 忝ッ拝領被仰付候、尤今日同席中并

御沙汰奉恐入候段御受御礼申上置キ候事、

十一月十四日、四時ヨリ調練場へ出席暮時分帰宅、尤

近々騎兵隊并一番組惣人数調練御覽之筈ニ付、今日惣揃ニテ致下見分候テ色々差図モイタシ候付隙取候事也

十一月十五日、出勤毎之通、今日例之通り御出座月次

御礼ハ無申迄、其外肝付左門嫡子狩野介

御直元服、市成之繼目御礼、伊地知小十郎嫡孫初而之御目見等被仰付、其外多人數之事也、

一日彌太右衛門時升八十ノ賀ニ嫡孫元次郎着袴ヲ混シ祝ヒ被致候ニ付、左之通祝シ遣シ候事、

時升八十賀に孫の着袴を混し祝ひて

久仰

幾とせもめくミの露は置ぬへし

なを栄行ん宿の小松も

右之通ヲロカモ不顧、志シ迄ヲ申遣シケル也、

十一月十八日、五時浄光明寺へ

(島津忠久)  
得佛様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拜

但

御惣霊様江御代拜

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤、直ニ帰宅候事、

一四ツ前出宅調練場へ出ル、今日騎兵隊并一番組惣人数之調練

御親被遊候ニ付、四ツ時御供揃ニテ被為入候テ直ニ相

初リ、七ツ過首尾能相濟直ニ御立有之候、今日ハ御一

門方并ニ三御役一同拝見被仰付、月番迄残り也、歩兵

八百人余有之、騎兵モ多人數ニテ、天気ハ快晴、物見

人モ夥數取締不行届次第也、乍去御不都合ニハ不相成

仕合之至、左候テ大鐘時分帰宅候事、

一上様今日御帰殿之節、不時ニ荒田之方へ御乗廻シ被遊、

郡元村之濱牛掛之下波打涯へ、先日ヨリ井杭御打セノ

所ニモ御見分被遊、夫レヨリ御引返シ、高麗町筋ヨリ柿本寺通千石馬場筋

御帰殿被遊候由、路達テ致承知候、尤諸人モ一同案内ニテ奉恐入候事之由也、

一十一月廿日、今朝宮里孫之進被參候テ、当分爰元へ下

リ居候、玉置半兵衛打方為致候白木之鞍骨一口持參、拙者へ可贈被申候ニ付、致辭退候へトモ強テ可遣志ニ付、受用イタシ厚ク挨拶申入置候、銘々

左之通、

安政四年己十一月九日

利武

和

一今日四ツ後ヨリ玉里へ罷出八ツ半時分退出候、御用ハ

御納戸蔵へドクヅシ(白蠟)虫多ク相見得、此内御手元御道具

ナドニモ虫付候処、不可然時宜ニテ余程夥敷虫勢ニ相

見得候間、其段江戸江モ伺相成候処、御立替ニテモイ

タシ候様被仰付越、見分也、然処兎角御立替不相成候

テ不叶次第ニ付、其通之吟味イタシ候、右御土蔵ハ都

テ大坂ニテ材木モ御取入相成、切り組モ同所ニテ、玉

里へ御取立モ大坂大工御雇下シ相成、御本丸之内・二

之丸御宝蔵ト此御納戸蔵ニ棟余多之御金入ニテ御取立

有之、見掛ハ誠ニ結構被申計御藏候へトモ、右之通虫

生シ致方ナキ次第ニテ候、此虫ハ地盤之所へ松之四五

尺成ヲ都テ打込候由、其節ヨリ御国元之松材木ハ虫生

シ安キモノ故、何様可有之哉ト存候人モ有之由、誠ニ

ツマラン御物入之御藏也、

一今日川上式部殿四男之清次郎殿

太守様御方小坊主御役被仰付、名モ清嘉ト被仰付候事

也、

一摩文仁親方見廻、且品物贈リ有之候、訳ハ中山王代替

ニ付、来ル申年大清国ヨリ封王使渡来有之候へハ、例

之通御役々等被差越候へトモ、琉球困究之段被聞召上、

此節ハ思召ヲ以御役々差越候儀御用捨被仰付、且去ル

辰年江戸立之節拝借金返上方モ、右冠船相濟迄之間年

延被仰付度願之趣有之候処、願之通御免被仰付候御礼也、

覚

御扇子 一箱

御床飾御香炉御花入古物 一通

御太碗 十

紺地島細上布 一端

紺島細上布 一端

毛御馬掛 一着

以上、

摩文仁親方

ニテ御立被成候事、

一十一月廿四日、今朝郡奉行福島半之進・伊集院周八召呼、先日清水養正ニテ致承知候へシ子無之様ニトノ趣、銘々受持郷中取締イタシ候様申談可有之旨、細々申達シ置候事、

一今日地頭所指宿郷士年寄平嶺新藏一代御小姓与被召出左候テ則今日句読師助被仰付、御扶持米等被下置、存外難有次第也、且先日ハ伊集院之坂本六郎モ被召出、当分小根占郷士之中村齋助モ御用申越相成居、段々諸郷ヨリ学文武芸ニテ被召出候次第成リ立難有事共也、

一十一月廿五日、七ツ後伊地知喜十郎(季通)被參、明日ヨリ大口へ差越トノ事ナリ、仍テ木之氏村之事共段々頼込候事、

一十一月廿三日、出勤毎之通、退出、夫ヨリ南林寺へ參詣、且山中墓參等イタシ七ツ過掃宅之処、靜洞殿八ツ過ヨリ御出被成御待御座候間、直ニ御挨拶共申上候処、御用向ハ此内ヨリ致承知候勝山家分立之一件ニ付、段々六ヶ敷承知イタシ奉恐入候、然共暫時

一今日返上物才領等ニテ上国ノ國吉親雲上并上里親雲上返上物取納方取締有之、別テ難有次第ニ候トテ見廻リ、

且品物左之通贈リ有之候事、

進上

御扇子

一箱

藤長盆

一枚

島紬

一端

毛氈

一枚

以上、

進上

御扇子

一箱

玉掛床

一

紺地島細上布

一端

毛氈

一枚

以上、

〔朱〕  
「返上物才領大筆者」  
國吉親雲上

〔朱〕  
「返上物才領出府」  
上里親雲上

一 今晚相良矢一兵衛被參候テ、身脇差老尺四寸有之、末

備前物ト見得候揚ケ物、代金老歩三朱ニテ別テ下料ノ

売物ニ候トテ被為見候間求置候、右ハ兼テ頼置候故持

參之事也、

〔朱書〕  
「右脇差持方イタシ大口家来松坂市右衛門江遣シ候事、」

一 十一月廿六日、五ツ過福昌寺へ

〔島津重豪雜書〕  
玉貌院様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拜

但

御惣靈様へ御代拜

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤別勤也、

一 大口郷士大田箭納右衛門并濱川茂右衛門所持之文書并

旧記、先頃ヨリ此方へ参リ居候ニ付、一覽且ハ写シ方

イタシ置、左候テ表装共イタシ奥書左之通相認、此節

伊地知喜十郎帰リ便ヨリ差返シ方頼遣シ候事、

一文書六通 老卷

右文書等六通其方家藏ニテ此節致一覽候処、靈社手帖且事蹟顯然ニ付、加表装差返シ候条、無匱抹永伝有之度モノ也、

安政四年巳十一月

大田箭納右衛門殿

新納駿河  
久仰判

一濱川西市丞覚書 老冊

此老冊ハ地頭代伊地知季通(喜十郎)被致持參一覽之処、我等先祖共事蹟ハ勿論、大口中之古事一廉之証拠ニ付、加表装差返候条無匱抹永伝有之度モノ也、

安政四年巳十一月

濱川茂右衛門殿

新納駿河  
久仰判

一十一月廿八日、出勤毎之通、今日

御出席月次御札、且ハ吉利杵右衛門殿嫡子仲殿御直元服并肝付新太夫嫡子御前元服、其外段々初テ之

御目見諸御札等多人数被仰付候事、

一八ツ後御勝手方書役前田傳左衛門、一昨日御内々御教ニテ御金拾貳兩壹步被成下候御札トシテ見廻候事、

一夕方岸喜左衛門殿玉里御用并靜洞殿御頼事ニテ被參候テ、長談ニ及候事也、

一十二月朔日、五ツ過出勤毎之通、当月拙者月番ニテ候、退出ヨリ靜洞殿へ参上イタシ、勝山家御取立之儀ハ此涯御見合ニテ、先キ寄り御都合ヲ以御願立有之候方可然トノ

御内沙汰、承知仕候旨申上置候テ罷リ立候事、

一十二月三日、八ツ後川上式部殿被參候テ、二男藤次郎事伊藤善兵衛養子貫度承候得トモ、存寄有之、此内断申入置候折柄、此節福崎助ハヨリモライ度承候ヘトモ、是モ断リ不申入候テハ、伊藤家へ不義理相成候トノ相談ニ付、相応申答置候事、

一十二月四日、今日二之丸御式日ニ付四番組小与、九番

・十番之二与被召出候間、次郎四郎早朝ヨリ罷出暮時分罷歸候、九十余人有之、初而之組へハ金子五百疋ツ、被下候由ナリ、

一今日御記録所ヨリ四郎殿用頼御用有之候ニ付、伊東茂右衛門差出候処、御氏族家之系図之ツリ繼被仰付候間、宝曆年間以来之儀可申出旨被仰渡候事、

一十二月五日、毎之通出勤、退出ヨリ靜洞殿へ罷出候、昨日御使被下候ニ付テナリ、然ル処勝山家御取立之一件、江戸へ可被申上越トノ旨、六ヶ敷致承知候へトモ相応ニ申上置、七ツ過御暇イタシ候事、

一十二月八日、佐土原ヨリ寒中尋、左之通到来候事、

一筆啓上仕候、然ハ貴殿様へ寒氣為御尋、淡路守ヨリ鴨二羽可致進覽之旨兼テ申付越候ニ付テ、此節差上申候、右之段為可申上如斯御座候、宜敷預御心入候、誠

恐誠惶謹言、

十二月四日

新納 亘秀判

伊集院相馬 久悠判

山田 靱負判

澁谷 直記判

酒匂 求馬判

新納駿河様

参御用達衆中

一十二月九日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ興国寺へ御墓参

イタシ、帰リ掛ナメリ川へ立寄り七ツ半時分帰宅、山家ハ先月四日夜女子出生ニテ、主計殿ハ五月以来之病氣今以不勝、返テ煩増シノ方也、

一今日御小納戸山田壯右衛門へ相付、琉人ヨリ到来之品

伺御機嫌トシテ御内々致進上候事、

一大扇形藤縁足付盆 一ツ

但

椰子細工器物色々趣向違ニ取拵候モノ十相添、

卓子用ニ取立候之物ナリ、

一毛馬掛 一ツ

但

銀鼠胴着也、

一茶色龍紋絵垣緞子 巻本

但

当三月廿五日到来之品也、

一御肴料五百疋

右之通進上仕候事、

一今日此節上国返上物才領大筆者國吉親雲上・同出府上

里親雲上上国ニ付テ之見廻、且贈品左之通也、

進上

大官香 三把

鳥紬 二端

毛氈 二枚

以上、

上里親雲上

進上

大官香 三把

雲布 一端

毛氈 一枚

以上、

國吉親雲上

一十二月十日、昨日御内々進上物則御披露被致候処、中

ニモ毛之胴着ハ丁度ヨヒモノヲト御意有之、直ニ御手

元ニ被留置候段、今日壯右衛門ヨリ聞セ有之難有仕合

之事也、

一今日八ツ後ヨリ中村新助御用談ニ被參、大鐘時分歸リ

也、訳ハ此内串良・高山・志布志方迄廻勤、夫レヨリ

福山・國分・帖佐・蒲生筋罷歸リ、一昨日帰着ニ付テ諸郷ニ成行申談シ候ナリ、

一十二月十一日、九ツ時御供揃ニテ磯へ被為

入、御逗留候テ明日ハ日暮シ白濱御狩之筈、

一今晚新納彌太右衛門・同四郎右衛門被參候テ嫡家之儀

承リ候、訳ハ此内四郎右衛門等評議ハ、拙者父子之間

ヨリ嫡家相統有之度承リ候ヘトモ、八月晦日書付ヲ以

拙者ヨリ主稅殿・彌太右衛門等江存分申入置候処、其

節ヨリ右之兩人ハ拙者同意ニテ兎角外方ヨリ養子有之

方可然趣ニテ候ヘトモ、四郎右衛門等ハ再度拙者父子

ノ間ヨリ相統之方ニ存寄之由、然共其通ニハ現実之処

難調段彌太右衛門ヨリ遮テ演説有之候処、左様ナラハ

無致方候間外方ヨリ養子貰受可然、乍去嫡家女子方迄

モ上通トハ難申間、此節ハ乍不本意嫡家之方ハ思ヒ切、

他家人柄宜敷ヲ貰度、此儀第一之事情旨四郎右衛門等

ヨリ承候間、別テ拙者残念ニ存候ヘトモ無余議応其意

候、尤拙者父子之所吟味候ニ付テハ遠慮可致事候ヘトモ、拙者父子之儀ハ根切レニ成候上ハ、嫡家之儀ニ候

間打寄り申談可致申述、就テハ何方ニテモ可然人柄見

立貰受、先今晚差当リニハ都之城三男トノ貰受候ハ、

可然哉之内評ニ及ヒ候、尤新納喜右衛門等第一打寄候

筈候処、今昼ヨリ風邪ニテ難參トノ事ニ付、四郎右衛

門・彌太右衛門等少々打寄り致相談候、四郎右衛門存

寄リハ色々六ヶ敷次第ニテ候事、

一十二月十二日、曇寒氣、今日御狩ニ付伯耆殿・登殿・

伊織殿・隼見殿大目付主水殿被罷立候事、

一今日甲斐右八郎参リ、御着屋御台所等之人足賃飯米仕

繰弘方滞居候、是ハ畢竟蔵役仕繰之段書付ヲ以内々承

候間、相応ニ申答置候事、

一十二月十三日、今朝五ツ時寒中之為伺御機嫌島津圖書

殿・島津又六郎殿・北郷八郎殿拙宅ニテ対客イタシ候

事、

一 今日出勤、疏銘<sup>マツ</sup>御祈禱等相濟九ツ過キ退出、今日ハ御煤弘ニ付当番迄テ出勤、御用仕廻次第退出之事ニ付右之通也、

一 十二月十四日、八ツ後畠山吉次郎・長野彦七見廻也、

訳ハ昨日琉人到来之品左之通遣シ候礼也、

一 毛せん 一枚ツ、

一 紺地島細上布 一反ツ、

一 納島 一反ツ、

一 泡盛 一瓶ツ、

右之通り遣シ候事、

一 十二月十五日、今日孝行ケ谷鳶之巢御船迄御狩有之、

拙者等モ狩立被仰付候間、今晚七ツ前出宅、乗馬ニテ

用達召列吉野筋差越、大鐘時分余程前方芝之外迄參着、

此所集リニ付扣居候、伯耆殿・主水殿ニモ依願今日モ

被罷立候間同所へ被參候、下總殿・矢五太夫殿ハ下場

へ間伏賦リ有之候由、左候テ初鹿倉孝行ケ谷鳶之巢ニ

テ、其節拙者猿ノイハリト云フ所ニ立候、是ハ塩ケ水

江下リ候街道之坂中程ニテ候、二番鹿倉ハ御船ニテ、

其節斧山二丁之内下之方ニ罷在候ニ鹿倉共拙者立所ニ

ハ完不出候、御狩濟花倉之方へ下リ、直ニ罷帰リ七ツ

<sup>(表)</sup>過帰宅イタシ候事、今日

上様御打留三ツカ被為在候由、先日白濱等之御狩ニハ

五拾壹丸カ取レ候由ナガラ、今日ハ別テ少々取レ候由、

究テ之事不承得候、右之御狩之次第左之通也、

明十五日晝起貝ニテ御支度、二度目打立貝ニテ御泊宿

御出立、芝之元御集、

一 壹番鹿倉御狩濟塩ケ水坂ノ上御集、

一 貳番鹿倉御狩濟三船本坂之上御集、

一 叁番式番鹿倉御狩相濟候節々、相凶之場貝ニテ御間伏

御引取、右集場へ御揃

右之通御座候間此段申上候、以上、

巳十二月十四日

山奉行

一今夜入左之通被仰付候、

鹿老丸

右ハ今日御獲之内被下候ニ付、差廻シ申候間御頂戴可被成候、以上、

巳十二月十五日

追テ御礼之儀ハ御取合申上置候ニ付別段被仰上及不申候、此段モ申上候、以上、

磯詰

山田壯右衛門

新納駿河殿

右之通頂戴被仰付候旨御受書相応ニ相認メ差出置、御品致頂戴候、至極之大鹿丸ニテ候事、

一十二月十六日、出勤ニテ、御小納戸井上庄太郎へ相付、

御殿ニテ昨夜頂戴之鹿之御礼申上置候事、尤今日大鐘

過

御帰殿被遊候御事也、

一今晚志岐藤兵衛・長野源助・林仲之丞・田代太郎太・梅北宗右衛門等打寄り、昨夜頂戴之鹿骨肉煮方イタシ頂戴、四ツ過比追々被帰候事、

一十二月十七日、八ツ後指宿ヨリ被召出候平嶺新藏為仕廻方一往罷帰リ、又々出府ニテ今日見廻候間致面会候、嫡子九助并甥佐土原林右衛門ニモ被参候間、召出シ致面会候事、

一川上式部殿次男藤次郎此内ヨリ福崎助八養子ニ貰受度趣候ヘトモ、訳合有之及断居候得共、福崎方ヨリ及再度モラヒ掛リ有之、応其意約束相成、既ニ明日引越之筈ニ付、今日おせひとのモ川上家之見廻被致候ニ付、肴一折・扇子一箱・煙草二拾包・毛せん沓枚何レモヨリ差贈リ候事、

一十二月十八日、四ツ時浄光明寺江

得佛様御忌日ニ付

太守様御代参

宰相様御代拝

但

御窓霊様江御代拝

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤別勤也、帰リ掛都之城へ見廻候、先日出雲

殿御夫婦出府ニ付テナリ、

一十二月十九日、地頭所指宿ヨリ寒中尋見廻、且例之通

産物差出シ候、

覚

寒中ニ付

一御肴

一御酒

式行料物老貫五百文

一玉子

一合

一紙袋

五ツ

右御地頭様御方へ

一御肴

一折

一御酒

一樽

式行料物老貫式百文

一玉子

一合

右御奥様御方江

一御肴

一折

一御酒

一樽

式行料物老貫式百文

右御子息様方御相中江

歳暮ニ付

一御肴

一折

一御酒

一樽

式行料物老貫式百文

一里芋

一合

右御地頭様御方江

一御肴 一折

料物五百三拾弍文

一里芋 一台

右奥様御方へ

一赤貝 一台

一里芋 一台

右御子様御相中江

一御肴 一折

料物五百三拾弍文

一玉子 一台

一耳組呉座 二十枚

右御地頭様御方江

郷土中

一御肴 一折

料物五百三拾弍文

一玉子 一台

右御奥様御方江

一御肴 一折

料物五百三拾弍文

一玉子 一台

右御子様方御相中江

一御肴 一折

料物五百三拾弍文

右御地頭様御方へ

諸浦中

諸在中

一御肴 一折

料物五百参拾弍文

右御奥様御方へ

諸在中

諸在中

諸浦中

合料物九貫四百三拾貳文

一御着 一折

内

料物五百三拾貳文

四貫百六拾四文

右御子様方御相中江

御地頭様御方江

諸浦中

貳貫八百文

一中紙 一束

御奥様御方へ

料物百文

貳貫三百六拾四文

右御地頭様御方へ

御子様方御相中江

町中

一中紙 一束

料物百文

メ玉子六百

右御奥様御方江

メ赤貝三百

メ紙袋五ツ

一中紙 一折(束カ)

メ耳組呉座二十枚

料物百文

外ニ 香具九ツ

右御子様方御相中江

伊勢海老七七  
右御祝之外御末迄進上仕候、

町中

一番年頭方

安政4年

一里芋 一台

右御地頭様御方へ

郷士中

右御地頭様御方へ

郷士中

一里芋 一台

右御奥様御方江

郷士中

一里芋 一台  
右御奥様御方江

郷士中

一里芋 一台

右御子様方御相中江

郷士中

一里芋 一台  
右御子様方御相中江

郷士中

一里芋 一台

右御地頭様御方江

諸在中

一里芋 一台  
右御地頭様御方江

諸在中

一里芋 一台

右御地頭様へ

諸浦中

一里芋 一台  
右御地頭様御方江

諸浦中

二番年頭

一里芋 一台

以上、

一里芋千三百

郷士年寄

園田宇左衛門

候事、

組頭

前田 勘助

十二月廿一日、今朝村境瀬戸御仕置者三人有之、其内

本御小姓与安藤名字之平八死体磔ニテ候事、

一十二月廿日、朝極々薄雪見得候、然トモ今日出勤ノ上、

一預所高岡ヨリ寒中尋左之通申出候、

三御役一所ニ雪之伺御機嫌申上候事、

覚

一八ツ後今朝之薄雪ニ付、在番摩文仁親方ヨリ蒸羹二箱

一猪 一丸現

・焼酎砵一双安否尋トシテ、例之通贈リ有之候事、

一御樽料金百疋 一荷

一御側役豎山武兵衛・山口直記等近隣之事情ヘトモ、イ

右御預様御方へ

マタ緩々咄茂不致候ニ付、先日ヨリ致約束置今夕方ヨ

一鴨 一番

リ相招候、右ニ付御用部屋書役伊東正兵衛・伊集院新

一御樽 一荷

之助茂相招候、是以初テ之事も、亭主前トシテ伊集院

式行料物金百疋

周右衛門・志岐藤兵衛・岩山八郎太召呼候、左候テ茶

右御預御奥様御方江

漬差出シ夫限リ九ツ過被帰候事、

一猪 一丸現品

今晚之馳走吸物三ツ・硯蓋老面・鉢一ツ・井三ツ・鍋

一御樽料物金貳朱

物一ツ・小井二組・惣菓子輕かん・ねり物等膳部五ツ

右御嫡子様御方

組、後菓子薄焼柏平ねり物等ニテ始終宗倫膳ニイタシ

一鴨 一番

一御樽 一荷

式行料物金百疋

右御嫡孫様其外御相中様江

右之通寒中伺御機嫌トシテ進上仕候間、宜敷様御披露

可被下候、以上、

十二月

郷士年寄

市來 善助

河上笹右衛門

谷口與右衛門

志賀八郎右衛門

今井元右衛門

長野助兵衛

本田次郎五郎

是枝八右衛門

一今晚四ツ時分畠山主計殿事此内ヨリ之病氣極々不勝旨

申来候間、直ニ次郎四郎差遣候処、七ツ時分罷歸リ、

主計殿事八ツ時分何ノ苦シミモ無之、只絶入ニ相成候

由申聞候、当年三十六歳嫡子釜次郎殿イマタ初テノ御目見ヲ(符カ)不相濟、誠ニ不幸之至也、

一十二月廿二日、畠山家不幸ニ付、忌掛ニテハ無之候へ

トモ致遠慮出勤差扣候、今日月番ハ下總殿被承候由也、

一上様今朝六ツ半時分ヨリ尾畔下其外模寄諸所御放鷹被

遊候、暮時分御帰殿之由ナリ、

一今昼畠山家へ次郎四郎差出シ、七ツ後ヨリ拙者モ参リ

夜入四ツ時分帰リ候、尤今晚入棺有之、明晩葬式之筈

ナリ、去年死去之兵庫殿ハ三拾九歳当年四拾歳之賦、

其次喜入家へ被縁候ニツ違当年三拾八之賦、其次村橋

數馬殿ハ当年三十七、主計殿モ卷ツ違三十六之由也、

一十二月廿三日、出勤、八ツ退出、館内へ例年之通招請

之儀承候得共、御用取込之趣ヲ以断申入候処、今日在

番親方等見廻左之通贈リ物有之候也、

進上

御掛物林梅筆

一幅

御花入

一

沈金御夜喰膳

十

縮緬紅

二卷

以上、

摩文仁親方

進上

御重甘物

一組

焼酎砵

一双

以上、

摩文仁親方

進上

散砂糖

一桶

以上、

琉球

役々相中

一主計殿今晚葬送ニ付八ツ後ヨリ次郎四郎并用達差遣シ

夕方ヨリ家来兩人・下男兩人加勢トシテ遣シ、見立挑  
灯老対家来老入遣シ、昼之内大官香二把・金子二百疋  
・重之内一組・酒一樽差遣シ候事、尤昨日モ重之内一  
組・酒一樽遣シ置候事、

一今晚四ツ前江戸先月廿九日被差立候中急キ飛脚到着、  
御用封相届候間、則月番書役助東郷四郎兵衛召呼  
御書入文箱九ツ、泊リ番之御側役へ為持差出シ候事、

一十二月廿四日、中雨、今日出勤、八ツ退出、今日  
哲丸様御百ヶ日之御祝被為在候ニ付、於唐子之間大目  
付以上一所ニ御祝儀申上候、左候テ四ツ後大奥へ罷上  
候処

哲丸様御目見被仰付候、余程御太リ被為付、至極之御  
壮実様ニテ難有奉存候、左候テ御座末ニテ御茶・御菓  
子・御吸物・御酒・御肴等被下候筈ナガラ、我々御用  
モ有之由ニ付御家老座ニテ致頂戴候様可取計旨、御年  
寄等ヨリ致承知候間、トフソ其通被仰付被下候様奉願

置候、直ニ大奥ヨリ相下リ御家老座ニテ右之通御肴・御酒等頂戴仕候事、

一京都御服屋并大坂銀主等ヨリ寒中尋品々左之通贈物相

届候事、

一絹糸 一組

濱村三郎兵衛

一菓子料金百疋

森元櫓之助

一菓子料金壹両

相中ヨリ

和田休左衛門

津田休兵衛

一麻絹長上下地一具

相中ヨリ

中島利兵衛

中島 利助

瀬尾利兵衛

一八ツ後種子島次郎右衛門見廻ナリ、是レハ今日御金五拾兩御心付トシテ頂戴被 仰付候御礼也、

一十二月廿五日、今朝加藤權兵衛見廻リナリ、是モ昨日御金百兩頂戴被仰付候御礼ナリ、八ツ後高橋縫殿殿ニ

モ御心付被仰付候御礼、且又畠山吉次郎ニモ兄孫平太

へ緩々抑勤三ヶ年勤続被仰付候御礼トシテ見廻リ候事

一高橋家等へ之御心付ハ琉球登リ砂糖支配方高橋へ被仰

付置候処、此節琉球在番不時被仰付候ニ付、右支配方

差合之訳有之差上ニ相成候間、右ニ打替リニ被仰付候、

左候テ右砂糖之支配方惣金高割合ニテ左之通被仰付候

事、

一砂糖支配方五ヶ年被仰付置、壹ヶ年二百兩ツ、ノ見賦

リニテ、当一ヶ年ハ最早支配相済居、来年ヨリ四ヶ年

之賦ニテ四ヶ年分之金左之通被仰付候事、

百五拾兩 高橋縫殿

百兩 菱刈奎之介

百兩 伊集院伊膳

五拾兩 島津 矢柄

一 今朝六ツ半時ヨリ

上様谷山方へ御延氣ニ御出被遊、御放鷹等候テ暮時分御帰殿被 遊候由也、

一十二月廿六日、五ツ過出勤、今日御歳忘旁被相混御祝

ヒ御能有之、御近習通迄拜見被仰付候間右之通也、四

ツ時御初リ、御一門方三御役拜見席江罷出居候処、上

之間御境御襖被相開 御目見被仰付候、左候テ御能央

ニ御吸物・御銚子・御取肴・御湯漬被成下、暮時相済

候ニ付、御礼等申上置一同退出、六ツ過帰宅ナリ、

一十二月廿七日、今晚新納休右衛門・畠山吉次郎・肥後

太郎八同直助列立参リ、主計殿跡之儀ニ付段々申談事

イタシ、九ツ過キ帰リナリ、

一十二月廿八日、五ツ過出勤、八ツ退出、月次御出座ニ

テ毎之通御礼有之候事、退出ヨリ大奥へモ歳暮之御祝

儀罷上リ退出候事、

一 預リ所高岡ヨリ歳暮之為祝儀左之通り申出候事、

口上覚

一猪 一丸四肢

一樽料物金百文 一荷

右御地頭様御方へ

一鴨 一番

一樽 一荷

式行料物金百疋

右奥様御方へ

一猪 一丸四肢

一樽料物金貳朱 一荷

右御嫡子様御方へ

一鴨 一番

一樽 一荷

式行料物金百疋

右御嫡孫様其外御子様方御相中江

右之通歳暮為御祝儀進上仕候間宜敷御披露可被下奉頼候、以上、

高岡郷士年寄

十二月

名前略ス、

一 在番親方摩文仁ヨリ左之通り贈り物有之候事、

一 水色大桧垣紗綾 一反

一 白大桧垣紗綾 一反

一 重甘物入付 一組

右年中之為礼定式之通也、

一 海鼠 一重

一 焼酎砧 一組

右歳暮之為祝儀贈り也、

一 摩文仁へ此方ヨリモ寒中并ニ歳暮祝儀トシテ、着一折

・酒一樽ツ、例之通差遣シ置候事、

一十二月廿九日、定式飛脚差立候ニ付、豊後殿・永江休

之丞等へ御内用向申越候、其外岩下佐次右衛門・東頼

左大夫ナトへモ状トモ差遣シ候事、

一穂北紙

三束

金子

五百疋

駿河様へ

島津淡路守殿ヨリ

右ハ佐土原之儀彼是御引受御世話被下候ニ付、歳暮為

御礼被遣候間為持差上申候、宜敷様御取計可給候、以

上、

十二月廿九日

仮屋守

宮里十兵衛

新納駿河様

御取次衆中

一十二月晦日、出勤、八ッ過退出、今日迄月番モ首尾能

相仕廻、御藏々御払方等モ無滞相济候段八ッ打福崎助

(八脱カ)

ヨリ申出候間、其段堅山武兵衛ニテ申出置候事、

一看料百疋

一今日鹿之間格ヲ以於御家老座左之通被仰付候、

一樽料金二百疋

高式百石

加治木屋敷ヨリ

新納駿河

一看料金百疋

右之通給地御取揚高之内申請被仰付候、左候テ代銀来

一樽料金式百疋

午十二月限リ上納被 仰付候、

垂木屋敷ヨリ

十二月

下總

一看

一折

右之通被仰付難有次第也、則下總殿始席中江御礼申出

一酒

一樽

置候、尤筑後殿・登殿・伊織殿モ式百石ツ、、隼見殿

一正蠟

一玉四十斤

・矢五太夫殿百五拾石、ツ、織部殿・龍衛殿百石ツ、

今和泉屋敷ヨリ

同様申請被仰付候、右ニ付退出掛下總殿へ御礼見廻リ

一看

一折

置キ候事、

一酒

一樽

一御一門方并諸家改革内用等承候向々ヨリ、歳暮ニ付音

一蠟燭

百五拾挺

信等給候家々太体左之通、

花岡屋敷ヨリ

一鱒

一尾

一看

一折

一酒

一樽

一白紬

一疋

重富屋敷ヨリ

都之城屋敷ヨリ

一金子 二百疋

一起炭 四俵

種子屋敷ヨリ

一歳暮祝儀見廻客モ段々有之候事、

一拙家弘方何モ無滞相濟候段用頼等ヨリ承届、尤源助・

仲之丞・太郎太ニモ暮前役人嘉平次へ申付置被届候也

尤前文之通給地高申受等モ被仰付、家内中モ当年無事

ニテ、平安ニ新年ヲ迎候事共千秋万歳喜悦之事ナリ、

「久仰譜卷九終」

〔表紙〕

新納久仰譜

安政五年正月ヨリ  
同 年四月マテ

「新納久仰譜卷之拾上安政五年正月ヨリ  
同年四月迄」

安政五年 戊午正月ヨリ

一 正月元日、晴天、夕方ヨリ雨、今朝五ツ打直ニ出宅、

浄光明寺へ年始并

御忌日ニ付

(島津忠久)  
得佛様

(島津忠久)  
貞獄院様江

(島津齊彬)  
太守様

(島津齊興)  
宰相様御代参

但

御愼靈様江御代参

着服熨斗目・半袴

右之通相勤、帰リ掛今和泉屋敷へ祝儀ニ見廻、夫ヨリ  
出勤毎之通、四ツ打切りニ唐子之間へ罷通、大目付以  
上相揃扣居候処、御側役堅山武兵衛ヲ以拜見被仰付、  
御品有之候ニ付只今御休息所へ御家老之分也、罷出候  
様致承知直ニ罷通候処、

上様ニモ御出座被遊居、御床へ

当今帝様御製寄国祝ノ御懐紙被為掛、左右ニハ堂上様  
之御筆日月之御掛物被掛置、拜見被仰付候、左候テ右  
之御製ハ誠ニ別段之御訳合ヲ以

御拝領被遊候、仙洞様之御製ハ随分御拝領モ被為調候  
得共

当君様之御製ハ急度不被為調御法之御事ニ付、外ニ御  
大名様ニモ御秘事之由、前文之通別段之御訳合被為在

御拝領之御品ニ付、此内ヨリ拝見被仰付候思召モ被為  
在候得共、今日ナレハ可然ト思召被遊候間拜見被仰付  
候旨、御委敷御意有之難有拜見仕候、左候テ右ニ相付  
候近衛様御添書并御手帖モ有之都テ委敷拜見仕候処、  
御文意誠ニ以奉恐入御訳合ニテ候間、御大切之御品拜  
見被仰付難有奉存候旨訳テ御礼申上置、何レモ罷下リ  
唐子之間へ又々扨居候処、無程御座之間へ

御出座、毎之通御一門方御祝儀相濟直ニ御書院へ

御出座、御家老持参太刀ニテ御祝儀被仰付候間、伯耆

殿・登殿・拙者持参太刀差上着座ニテ御引渡被下、銘

々御土器頂戴相濟御引渡相下り候節、三人共一所ニ壁

付罷下り直御勝手之方へ致席詰候、左候テ若年寄・大

目付持参太刀着座無之御土器頂戴有之、右相濟直ニ

御入被遊候、夫ヨリ唐子之間へ三御役相揃御土器頂戴

之御礼申上置候事、

一諸御式事等九ツ過相濟候ニ付直ニ退出、夫ヨリ御広敷

へ罷上リ御祝儀申上置相下り候、夫ヨリ南林寺へ参詣、

且山中御墓参等イタシ、帰リ掛花岡屋敷へ見廻、夫ヨ  
リ窪田諏訪社へ参詣、夫ヨリ市成へ見廻候テ、八ツ過  
帰宅イタシ候事、

一夕方ヨリ家内中規式例之通取ハヤシ、家来共へ通り盃  
共遣候事、

一今日、祝儀客余多有之候へトモ名前略ス、

一正月二日、夜前ヨリ雨、今朝雷鳴等甚敷、夕方ヨリ止、

風ト成候事、

一今朝書役助有馬雄之助参リ、今晚江戸去月十六日被

差立候急飛脚到着之由ニテ登殿方ヨリ問合為持被差廻  
候、

(龜津音興)  
宰相様御事、旧臘十五日從三位御位階御昇進被為蒙

仰候御吉左右御到来、難有奉承知候事、

一五ツ前出宅、福昌寺へ差越マ以テ首頭御規式ニ相詰候、

御名代又次郎殿、川上嫡家ハ筑後殿当分江戸詰ニ付、

嫡子右近被相勤候、九ツ前御式相濟直ニ退席、夫ヨリ

周防殿・樂水殿・靜洞殿江御見廻申上置、夫ヨリ都之城ハ参リ宮之城・垂水・加治木等之近習迄見廻置、八ツ前帰宅候事、

一 今終日天氣惡敷候ニ付、見廻客等モ相少ク候事、

一 都之城中抑勤東郷一介事当分彼地へ在勤ニ付、今日左之通書状出シ置候事、

御発足以後御左右不承候得トモ、弥以御安全被成御在勤、目出度新春ヲ御迎ノ儀ト珍重之至御祝儀申入候、此方ニテモ家内中無異致加年候、乍慮外御放意可被下置候、年内ヨリ珍敷暖氣ニテ元朝迄モ快晴、諸人喜ヒ之事ニ候、然処今二日早朝ヨリ雨強ク致雷鳴候、乍然追日暖晴可罷成ト存候、御発足以後節季ニハ相成旁ニテ武方へノ歩行モ相調不申、乍去近日差越申度存候、今曉ハ江戸飛脚到着

高輪様結構之御左右御到来、誠ニ以難有次第追々御承知可被成候、其御地ニテ御隠居御夫婦弥以御安康被成御座恐悦奉存候、扱ハ無束モ事ニ候得トモ難捨置貴所

迄御内分申承候、訳ハ拙者共嫡家新納四郎事当十六歳御座候得共、全体身弱ニテ兎角先キ永ク家格之御奉公難相調、既ニ近比ヨリ持切在踊之内(牧園町)三鉢堂村へ御暇ニ

テ差越居申候、就テハ末家中内々申談候趣ハ、右之次第ニテ兎角此上ハ不及是非候間、夫々御内意申込当四郎事ハ隠居、左候テイマタ妻子モ無之候ニ付、跡目之儀ハ他家ヨリ誰ソモラヒ受、家督相立候外ニ趣法モ有之間敷、拙者共別テ心痛之至ニ御座候、右ニ付同家四郎右衛門ナト存寄之趣ハ拙者父子ノ間ヨリ相統可致儀当然之事候旨承リ、嫡家相統ノ儀ハ御法通ニテ類例モ多々有之事ニ付、末家中其通之存寄ハ拙者共冥加共可申哉、更ニ申様モ不存候、然共拙者ニライテハ外ニ存寄候、訳ハ第一嫡家江四郎姉妹三人罷居、中ニモ二番目姉ハ至極人柄モ正道ニテ、妹モ衆並ニ御座候間、右姉妹之内へ智養子之趣法何トソ宜敷取計しめ統ヲ立候ハ、第一血脉相統キ、後代罷成候テモ本意ニ候半ト、同家主税・彌太右衛門等へ及内談候処、至極同意ニ候

旨承り候間、夫ヨリ四郎右衛門等江其段申聞候処、一往ハ申分シモ為有之由候得共、是モ致畏伏、拙者共父子之間ヨリ相統之儀ハ根切レニ相成申候、然共嫡家姉妹之内へ取合セ之儀ハ難相調不同意ニテ、全ク他ヨリ夫婦共為統立之儀申談度承り候間、拙者ニヲヒテハ至極残念之至、前後及勘考候得ハ、當時ハ勿論先祖子孫ニ対シ難忍訳合ニ付、外ニ何トソイタシ様ハ有之間敷哉ト再往及吟味候得共、迎モ四郎右衛門ナト落着無之、就テハ無是非次第ニ付拙者モ其意ニ応シ置候、然処他家ヨリ人柄見立申儀ニ付テハ、諸大家ノ内段々人柄有之候ヘトモ、其御方様ノ御内ニテ友熊様御モライ受申上候儀ハ相調間敷哉、乍然嫡家モ所帯困究之段ハ申様モ無之、当分サヨミ坂へ屋敷ハ構居候得共、無高同前ニテ家財器物一品モ無之、家柄之事ハ御案内通ニ候ヘトモ、衰微之儀ニ付テハ比類モ無之為体ニ付、此節相統之人ハ屋敷構モ何方ヲ可然場所見立、家作始メ都テ一家ノ備取立申人ニテ無之候ヘハ不相叶、旁之次第モ

四郎右衛門ヨリ其御方御近習役之内懇意之向へ内話可致、左候テ御隠居様御納得之事共候へハ無此上大慶之事ニ候間、其通イタシ度承リ至極同意ニ候旨申答置候、然処年内押詰四郎右衛門ヨリ承候趣ハ、其御方御近習役ヨリ返答之趣ハ、前文通御モヲヒ申上度儀ハ随分御仕合之事、乍去新納家之儀ハ家格順之訳モ有之候ニ付、宗八郎様ヲ御モライ申上候事共ニ候得共、尚更御仕合ニ御座候哉之旨承知イタシ候段承リ、拙者ニヲヒテハ当惑之至ニ御座候、御同人御事ハ無申迄哲五郎殿御方へ御引結ニ相成、頓ト落着為罷居事ニ御座候、拙者ニヲヒテハ申茂廉立候得共、嫡家方之事ヲノツカラ其御方様ニ付テモ内外御熟談不致候テ不叶事ハ無申迄モ、幸當時ハ貴様御在勤之事ニモ候間此段申進候、実ニ宗八郎様御取返シニテ嫡家之方江被遣儀、豊前様方御内望之事ニ候哉、何トソ貴様ヨリ不事立様御同被成候テ御内慮之程御聞セ給度、勿論ケ様之事ハ一度取結候上ハ違変モ難致、尤自他人氣ニモ拘ハリ可申儀ニ

候へハ、至極重キ事柄ニテ、就中拙者ニシテハ御双方宜敷様ニコソ御世話可致本意御座候間、訳テ御内談申遣候、貴様ニコモ旁御勘考之上御内慮之程御伺被成何分被仰越給度、尤此一二日中ナト、急キ申事ニコモ無之候間、得ト御勘考被成御書面ニテ不通候ハ、御近習役ノ内ニテモ被遣候儀共ハ宜敷御取計給度旁御頼申上候、イマタ心事申上越度事モ有之候ヘトモ難及愚筆、

荒方此段御頼申上候、何篇御推考可被給儀共御頼申上度如是御座候、返々モ御隠居方へハ折角不廉立様御申上可給候、四郎右衛門方一篇ノ取ツナキニテハチト拙者落着不罷成候間、此旨モ為御心得申進置候、何モ宜敷御汲取可被下候、以上、

正月二日

新納駿河

東郷一介様

一今晚例之通用頼長野源助・林仲之丞相招、役人前田嘉平次召出シ蔵披キ致祝候、田代太郎太ニハ風邪之由ニテ不被參候事、

一正月三日、朝曇昼ヨリ晴天、今朝岩城源七郎所ヨリ、規式之品此方家内人数へ例年之通贈リ有之候事、

一今朝五ツ打直ニ出勤、例之通御対面所并ニ御書院へ

御出座、家格之面々持參太刀、引統諸地頭・諸役人・

三町年寄・年行司・唐本通事・諸士迄

御目見被仰付、御書院ニテモ例之通被仰付、九ツ過相濟直ニ

御入、七ツ時分ヨリ御謡初ニ付、又々御対面所へ御出座、夕方御式相濟直ニ

御入被遊候ニ付、拙者共モ直ニ致退出候、日入前也、

一正月四日、五ツ過出勤、八ツ退出イタシ候、今日寺院等御祝儀毎之通ニ付、四ツ時

御対面所へ、御出座、御式済引統御座之間エ、御出座、

御鷹三居御覽有之、引統御鷹匠頭等へ御酒被下、且又

奥支配御役人へ

御流頂戴被仰付候間、御先立并ニ席詰イタシ候事、

且又今日御一門方始月次御礼罷出候面々諸役人・諸士  
并ニ寺院・琉人等迄惣出仕ニテ、

宰相様御位階御昇進之御祝儀有之、席々謁ニテ候事、

一退出ヨリ種子島鶴袈裟殿へ玄喚迄、北郷浪江殿へ見廻、

松壽院殿へ玄喚迄、肝付左門殿・諏訪數馬殿所へ見廻、

七ツ過比致帰宅候事、

一今日乙名祝ニ毎之通り多人數参リ候由也、

一正月五日、五ツ過キ出勤、寺院御祝儀等例之通ニテ八

ツ過退出、今日八ツ打豎山武兵衛ヲ以 御筆御書付老

通下總殿へ被相下、拙者兩人致拜見、存寄有之候ハ、

可申上旨致承知拜見仕候処、江戸近海へ亞墨利加船渡

来ニ付御取扱ノ一件之御書付ニテ、段々御委敷御上書

ニテ、存寄等有之訳ニモ無之候間、今日八ツ後ナカラ

返上イタシ候方可然申談、下總殿一所ニ御近習へ罷通

候処、最早武兵衛等退出相成候間、右之御書付ハ下總

殿預リニ申談、左候テ同席限リハ内々拜見被致置度伯

者殿・登殿・伊織殿へ拜見進メ置候事ナリ、

一退出ヨリ興國寺へ墓参イタシ、帰リ掛滑川へ立寄、七

ツ半時分帰宅候事、

一今日帰宅後預リ所高岡并地頭所指宿役々共祝儀申出候

間、面会ニテ盃共遣シ、役座ニテ毎之通酒・飯共緩々

振廻候、茂右衛門・太郎太等取持也、彼方ヨリ差シ出

シ候祝物左之通候、

覚

沓番年頭方

一御肴 〔米〕代八百三拾貳文

一折

指宿

一御酒 〔代六百六拾四文〕

一樽

外ニ

里辛沓台年内差上置候、

右御地頭様江

郷士中

一御肴 〔代五百三拾貳文〕

一折

一御酒 〔代六百六拾四文〕

一樽

外二

里芋老台同断

右奥様方様へ

郷士中

一御肴 「代五百三拾貳文」

一折

一御酒 「代六百六拾四文」

一樽

外二

里芋老台同断

右御子様方御相中江

郷士中

一御肴 同

一折

一御酒 同

一樽

外二

里芋一台同断

右御地頭様江

諸在中

一御肴 同

一折

一御酒 同

外二

里芋一台同断

右御地頭様へ

町諸浦中

二番年頭方

一御肴 「代八百三拾貳文」

一御酒 「代六百六拾四文」

外二

里芋一台同断

右御地頭様へ

郷士中

一御肴 「代五百三拾貳文」

一御酒 「代六百六拾四文」

外二

里芋一台同断

右奥方様江

郷士中

一御着 同

一折

一御酒 同

一樽

外ニ

里芋壹台同断

右御子様方御相中江

郷士中

一御着 「代五百三拾貳文」

一折

一御酒 「代六百六拾四文」

一樽

外ニ

里芋一台同断

右御地頭様江

諸在中

一御着 同

一折

一御酒 同

一樽

外ニ

里芋一台同断

右御地頭様へ

町諸浦中

合錢拾貳貫六百文

金ニシテ壹両貳歩貳朱ト四百拾貳文

外ニ

一赤貝 三百

一香具 十三

一伊勢海老 十三

右取得候ニ付御末迄進上仕候、

一赤貝 三百

右次郎四郎様御方江進上仕候、

右ハ明五日参上御祝儀申上候ニ付、進上仕候間宜敷御披露可被下奉頼候、以上、

披露可被下奉頼候、以上、

午正月四日

郷士中

寺田清太左衛門

組頭

前田勘助

高岡

右之通進上仕候間宜敷様御披露可被下儀奉頼候、以上、

一御肴 一折  
一御酒 一樽

正月五日

郷士年寄  
谷口與右衛門

式行料物金老步式朱

外名前略ス、

右御預様へ

一猪肉 二肢

一御肴 一折

高岡

一御酒 一樽

二見休右衛門

式行料物金老步

一猪肉 二肢

右奥方様へ

右同

一御肴 一折

榎木平右衛門

一御酒 一樽

一位劣紙 二束

同

高岡

右御嫡子様へ

町相中

一御肴 一折

一半切紙 十折

一御酒 一樽

右同

同

諸在相中

右御嫡孫様御方江

一中紙 一束

右同

岩切仲左衛門

右五行年頭祝儀トシテ差出候事、

一 今昼都之城出雲殿奥方祝儀トシテ御見廻有之候由也、

其外男之祝儀客多々有之候事、

一 宰相様御昇進之御祝儀江戸へ明日飛脚差立申上越相成

候ニ付、豊後殿・休之丞等へ書状差越候ニ付左之通、

一 筆致啓上候、先以

宰相様倍御機嫌能被遊御座恐悦御儀奉存候、然ハ今般

御位階御昇進被為蒙

仰候段、誠ニ以結構之御儀、右ハ年来御心願ニテ、貴

様方ニモ彼是御心配御骨折被成候御勤功相立、尤以來

之御家格ニハ不相成趣ナト

御沙汰モ被為在候ヘトモ、兎角以來迄モ結構之御儀ニ

被為在候半、幾久敷恐悦之至リ奉存候、右ニ付テハ大

目付以上一同之御祝儀進上物衆并ニテ申上候ヘトモ、

私儀ハ兼テ御用ヲモ被仰付候事ニ付、別段御内々御着

料進上ニテ御祝儀申上候テハ何様可有之御座候哉、成

リ丈其通被仰付候得ハ難有儀ニ奉存候間、此等之段申

上候、弥其通ニテ可然御序モ有之候ハ、御着料等之

儀ハ道島源五郎へ御申付、宜敷様御取計御披露可被下

儀奉頼候、尤源五郎方へ其段申遣置候間、何分可然様

ニ御取計被下候様奉頼度如是御座候、恐々謹言、

正月六日

新納駿河

永江休之丞様

一 正月六日、霜、昼晴暖氣、今朝五ツ時出宅、砲術館へ

御流儀初ニテ下總殿同断、諸郷私領諸家中等迄惣人数

八ツ半時分相濟候間、直ニ退席イタシ候、今日流儀初

ニ、地頭所指宿郷士共七十人余差越候ニ付、砲術館ニ

テ別段手都合備迄モ為致候テ見分イタシ候、左候テ帰

宅之上、郷士年寄召呼金子千疋用達ヲ以テ惣人数へ遣

シ置候事、

一 正月七日、昼晴夕方霰一通り降也、

一同八日、夕方ヨリ雨降、今朝四ツ時分大雄山御宮并ニ南泉院御位牌殿へ年始ニ付

太守様御代参

着服熨斗目・長袴

右之通相勤、夫ヨリ出勤、八ツ退出候事、

一 正月九日、曇寒風、今日宅別勤ニ頼置キ、地頭所指宿

之者共文武芸能見分イタシ候、惣人数七拾人余ニ付キ四ツ前ヨリ打立候、御軍賦役堀與左衛門・法元宇左衛門、書役甲斐弥右衛門召呼候、大鐘時分相濟候、惣人数江金五百疋遣シ置候事、

一 正月十日、指宿郷士年寄平嶺新藏難有被仰付候間、代り役組頭之前田勘助江今日申渡候事、

一 正月十一日、今朝五ツ前出勤、今日御役替其外地頭職

等被仰付候人数拙者之取扱サヘモ三十人余有之、右申渡共イタシ四ツ半比ヨリ玉里へ罷出、岸喜右衛門事モ今日御側役格被仰付候間、是亦申渡イタシ、九ツ半時分退出候事、

一 右之通玉里へ罷出掛福ヶ迫諏訪社へ致参詣候事、

一 今日矢五太夫殿養子川上主膳殿モ当番頭御役被仰付候間、次郎四郎祝儀且祝ヒニ差越候事、

一 正月十三日、霜強寒風、今日出勤、四ツ打切りヨリニ之丸江大的之式御初ニ付、伯耆殿・伊織殿一所拜見ニ罷出候、且大目付頼娃織部殿モ同断也、左候テ九ツ過相濟候ニ付直ニ退出、尤御式中御出被遊候事、

一 八ツ前ヨリ乗馬ニテ致出宅、郡元ヨリ脇田下迄津畑ニ乱杭御打セ、且牛掛瀬戸へ溜池御造築被仰付、当分御普請中ニ付内見分トシテ差越、掛り郡奉行猿渡彦左衛門并ニ檢者四人相勤居候木屋へ立寄暫時罷在、夫ヨリ

武村三穂崎へ水車織機御取立之場所へ茂差越致見分候  
此所ハ今日地割繩張共イタシ候位ナリ、夫ヨリ武村東  
郷一介飯屋へ立寄飯共給へ、暮前帰宅イタシ候事、

一 正月十五日、快晴暖氣、五ツ前出勤、八ツ退出、今日  
御役替旁尤毎之通

御出座モ被為在候ニ付右之通也、

一 夕方都之城役人北郷新太郎参リ候、是レハ嫡家四郎殿  
養子一件ニ付宗八郎殿江被相決度趣起リ、豊前殿ヨリ  
態ト昨日被差立用向申込被遣候間、得ト子細承リ候、  
左候テ夜入罷帰リ候事、

一 正月十七日、今朝北郷新太郎参候、今日打立在所へ帰  
リ之筈ニ付、此節之用向致再談置候事、

一 今日七ツ時分佐土原之一門家島津又次郎并ニ側役山口  
市郎左衛門、淡路守殿ヨリノ使者トシテ差越致面会候、  
尤モ昨日ヨリ承居候也、左候テ口上旁左之通也、

上包美濃紙折掛

今般江戸表不時之儀到来、多分之致出金、既ニ改革趣  
法筋崩立候時機罷成、家中持高之内可差出吟味ニモ差  
及、別テ致心配居候処、厚以

思召御金千両御内々拜受被

仰付、無存掛次第、偏ニ御憐愍之以御取扱、家中出高  
ニモ不及趣法筋立行、難有仕合難申上尽奉存候、右御  
礼且当年其御地へ参上願之通被 仰付候ニ付、万端之  
儀先御頼旁私ヲ以申上候、依之目錄之通致進覽之候、  
此段淡路守江戸表ヨリ申付越候、以上、

一門

正月十二日

島津又次郎

別紙

鴨

二

御樽代

五百疋

以上、

上包美濃折掛

口上

新納駿河様へ

一鮮鯛 一折

一半切紙 七百枚

右ハ此節御当地へ参上仕候ニ付進上之仕候、以上、

正月十六日

島津又次郎

上包美濃紙折掛

口上

新納駿河様へ

一半切紙 五百疋

右ハ此節御当地へ参上仕候ニ付進上之仕候、以上、

正月十六日

山口市郎左衛門

右之通持参旁ニ付面会、口上等承知イタシ候上、吸物

差出シ盃一通リ取替シイタシ候、尤茶菓子等ハ毎之通

差出シ候、右之千両被遣候訳ハ、佐土原留守居富田某

於江戸式千両余致聊尔逃去リ行衛不相知、類役中引合

借金ニテ淡路守殿ヨリ結構不相成候テハ故障モ可有之

訳合ニテ、右之通無拠此

御方様ヨリ被遣候テ尾成候由ニテ、別段之御礼ナリ、

右ニ付

上様江ハ鶴一羽・御樽代進上有之候由也、

一正月十九日、曇、出勤、四ツ過ヨリ二之丸江罷出候、

今日一番組三小組八番ヨリ十番迄被召出 御覽被遊候

大鐘過相濟直ニ致退出候事、

一今夕方ヨリ御趣法御用人蒲生郷右衛門・福崎助八・中

村新助・向井新兵衛・田中仁右衛門・吉川源右衛門、

書役勤中野喜三左衛門・中村吉左衛門相招候、向井ハ

近々江戸へ出立之筈也、右ニ付主居へ御家老座書役暨

山郷之丞・長野彦七招呼緩々ニテ九ツ時分帰宅也、

一正月廿日、今朝岩山八郎太・長野彦七見廻候、是ハ疏

人立ニ被召付候間、爰元ニテ仕廻料五拾両江戸ニテ五

拾両被成下候旨被仰付候御礼也、

一 今日上様福昌寺ヨリ浄光明寺夫ヨリ寿国寺・南林寺へ御参詣被遊候事、

一 夕方山田壯右衛門被参候テ段々御用談有之、夜入五時分被帰候、尤今日之御用談之内ニ御内沙汰之趣、私儀御用向取扱何篇今少シ差ハマリ候様ニトノ御旨ニテ、何事茂御任セ之御意承知仕難有御訳合難尽次第ナリ、

一 正月廿一日、今日下總殿江当秋

御参勤之御供

御直ニ被 仰付候事、

一 八ツ後ヨリ梅北宗右衛門被参候テ、諸帳留等清書旁加勢毎之通りナリ、且又当時郡方書役助帖佐弥八郎ト申人同様諸帳留等之加勢頼度申込置候処、今日ヨリ宗右衛門同断被参候テ加勢有之、皆共夜入帰リ也、

一 正月廿二日、今日モ八ツ後ヨリ宗右衛門・弥八郎被参候テ加勢被致、暮比帰リ也、且伊東新五左衛門モ被参

候テ、拙者之雜譜之内安政三年之卷冊持帰リ中取之筈也、

一 夜前飛脚着イタシ候由、江戸表旧臘晦日被差立候中急也、右之便ヨリ左之通拜領物等被仰付、難有頂戴仕候事、

一 白紬

式疋

一 浅草海苔

一箱

右ハ度々進上物被成候為御返、右之通り頂戴被仰付候、此節中急便ヨリ差下申候間御頂戴可被成候、此段申達候、以上、

十二月廿九日

永江休之丞

新納駿河殿

一 正月廿三日、出勤、八ツ退出、明廿四日御側役堅山武兵衛事、今般之御位階御昇進御慶事ニ付 上様ヨリ宰相様へ御祝儀御使勤被仰付被差立候間、大目付以上一所ニ伺御機嫌申上候、且亦タ

典姫様ヨリ御同断ニ付キ、御広敷番之頭白石仲左衛門被差立候事、

一右兩人被差立候ニ付昨日頂戴仕候御請御礼、永江休之丞へ左之通り申越候事、

白袖 貳疋

浅草海苔 一箱

右ハ度々進上物仕候為御返、頂戴被仰付候、此節中急便ヨリ被差廻候間、頂戴仕候旨御書面ヲ以被仰越、御品物共ニ頂戴仕候、誠ニ以御手厚御取扱被成下難有次第奉存候、此段御請御礼申上度貴様迄申上候、此上ノ御取成何トソ宜敷様奉願候、以上、

正月廿三日

新納駿河

永江休之丞様

添書ヲ以尚又貴様迄御礼申上候、誠ニ輕品進上仕候処、此節頂戴物被仰付候御事、何共奉恐入候次第ニ御座候右通之御取扱、却テ御面働奉掛候哉ニ御座候間、何トソ以来ハ左様之御心配不被成下候様奉願候、此節頂戴

被仰付候儀ハ、誠ニ以難有次第奉存候間、御礼之儀何分ニモ宜敷様御取成被下候儀共万々奉願候、以上、

正月廿三日

駿河

休之丞様

右同人等、旧臘廿八日御側役・勤方はマテ之通り被仰付候吹聴モ有之候ニ付、右祝儀且亦段々御用向之返答等モ相認差越候事、

一今日御殿ニテ山田壯右衛門ヲ以、先日承知仕候拙者勤方ニ付、ハマリ薄スキトノ御旨趣ニ付、心底之程モ申上置候処、猶又今日細々承知仕、右ハ別テ難有御訳合ニテ筆談等ニハ尽シ難キ御事ナリ、

一今日モ宗右衛門・弥八郎等被参候テ加勢ナリ、然トモ毎日程故細々不及筆記候事、

一正月廿四日、出勤毎之通、今日名越彦太夫ヲ以、申良(總)(米)・高山方限郷々其外郷モ出限出来過分相掛候儀、且ハ

締方横目共聞合方等之成行ナト細々達

御内聴、御内々御手ヲ被付候書面数冊御渡有之、段々御沙汰之趣共承知仕奉恐入御事ニテ候也、

当ノ酒料共被下方助八ヲ以取計置候、尤産物方御船場モ同断イタシ置候事ナリ、右旁御用相仕廻大鐘時分打立帰り、出船之所へ着船直ニ銘々帰宅候事、

一 正月廿五日、快晴、今朝新納休右衛門被参候、是ハ松<sup>(島津齊)</sup>

一 正月廿七日、出勤毎之通り、今日

壽院殿ヨリ拙者并ニ福崎助八・中村新助等被召呼度御<sup>(直女子)</sup>

御前へ被為 召、段々御用筋

使ニテ候事、

御沙汰有之候テ、別テ長々敷罷在退席候事、

一 今日四ツ後ヨリ出宅、下町石燈爐下津畑ヨリ福崎助八

一 八ツ後ヨリ岩山八郎太・堅山郷之丞・市來正之丞召呼

并ニ書役岩山八郎太・堅山郷之丞并ニ御趣法方書役中

御用談イタシ、夜入り四ツ過被帰候事、

野喜三右衛門等モ出会、乗船ニテ櫻島横山村へ渡海、

彼所ニテ産物方御用船拾八反帆壹艘御造立最中ニ付致

一 正月廿八日、今朝甲斐右八郎被参候テ私用、且ハ串良

見分候、此御船掛リ奉行橋口左衛門始御船手役々出

御藏々酒食取ハヤシ等之儀トモ被申聞候事、

張木屋へ暫時罷在、夫ヨリ地頭飯屋并ニ垂蠟所等致見

一 八ツ後猪倉源四郎被参候テ、此節口之永良部島へ渡海

分、夫ヨリ赤生原村ニテ三島方御用船拾八反帆式艘・

ニ付、見聞役詰等之儀トモ段々被申聞候事、

拾反帆壹艘三島方計ニテ御造立中ニ付、三島方掛リ御

一 二月朔日、出勤毎之通、月次御祝儀

役々ノ内伊地知八郎右衛門始彼方書役ナト出張木屋へ

御出座被為 在候事、

暫立寄、掛リ頭役へ金貳百疋其以下大工日用共迄モ相

二月二日、八ツ後郡奉行河野仲次郎・岸良清右衛門・小倉與右衛門招呼、御勝手方書役日置半兵衛・和田孫右衛門為詰、去秋串良方限之見掛并平日ノ儀ニ付諸郷段々諸出錢及太分候由、細々

御聞通被為在候ニ付テハ、吃ト可及

御沙汰事候得共、此節迄ハ不及其儀候間、向後急度旧弊相改致精勤候様可申達旨、難有致承知候旨、郡奉行中一同之場へ右三人招呼、段々之趣細々申達候処、何共無申訳次第ニ奉存居候処、誠ニ以御憐愍之御趣意難有奉存候、向後之儀ハ急度入念相勤可申旨謹テ御受申出候間、其段可申上旨相達置候、七時分何レモ歸リ也、一川上式部殿三男川上岩次郎高輪御付御小姓ニテ、今日向井新兵衛同道ニテ江戸へ出立ニ付、おせひとの・萬太郎召列被參候ニ付、おせひとの母子ハ一夜滞在之事也、

二月三日、靈社様御祭例之通相調候事、

一今日末家權左衛門事、表御用人汾陽次郎右衛門取次ニテ、下總殿ヨリ御用被仰渡候得共、当分稼御暇ニテ徳之島へ渡海ニ付、親類代伊東茂右衛門改服ニテ罷出、其段御届申出候処、名代ニテ宜敷トノ事ニテ、於御用人座同人ヨリ左之通被仰渡候由申出候事、高拾五石

新納權左衛門

右ハ先祖抽忠勤致戦死候家筋之者ニ候処、数代押移當時難渋候段被 聞召上候、依之別段

思召之御訳被為 在、給地御蔵入高之内右之通代銀上納申受被仰付候、左候テ代銀之儀ハ来ル戊年迄五ヶ年府上納被仰付候条、亦相励御軍役手当等行届候様、猶厚心掛可致精勤旨可申渡候、

二月

下總

別紙

新納權左衛門

右ハ先祖拔群抽忠勤候御取訳ニテ、別段ヲ以

思召、今般給地御蔵入高之内代銀上納申受被仰付、代銀之儀モ五ヶ年府上納被仰付候趣ハ別段申渡通りニテ、不容易難有 御趣意之事情ニ付、御軍役手当ハ勿論論奉公方可相励儀ニ付、心得違ハ無之候筈候得共、取納借又ハ壳片付候共有之候テハ、第一御趣意相振、別テ不可然事情候、此涯右体之儀共無之様屹ト可申渡候、

二月

下總

右之通被仰付、別テ難有御取扱ニテ、同様之向都合百三十人余ニ及候由、尤新納衛守殿・新納太右衛門ニモ同様被仰付、且又畠山主計跡へモ三拾石程被仰付、川上式部殿・桂小吉郎殿ナトモ同様被仰付候事、

一二月五日、出勤、今日名越彦太夫ヲ以

御手元御格護之諸聞合書之冊ナトモ、御取合數十通御

下ヶ有之奉預候事、

一夕方新納休右衛門被參候、松壽院殿御使ニテ候事、

一二月七日、出勤、退出、夫ヨリ大目付以上外御庭之御馬場へ被為、

召、御馬拜見被仰付候、右ハ兼テ奉願置候ニ付、一同罷出候処、無程被為

入、直ニ御馬相初リ、御召馬御立馬并ニ江戸御用等取

合二十八疋拜見被仰付、大鐘時分相濟候間直ニ退出仕候、右御馬見所ニテ御菓子・御煮菜共頂戴被仰付候事、

一二月八日、退出ヨリ種子御三居<sup>(散居)</sup>松壽院殿御栖居田之浦

江罷出候、右ハ先日ヨリ度々新納休右衛門御使ニテ致

承知居候事ナリ、左候テ罷出候処、外ニ福崎助八・中

村新介ニモ被召呼候、左候テ參上涯一返御目通イタシ、

御挨拶ニテ致支度替様致承知其通相下リ候処、支度替候ニテ右休右衛門等ヲ以

縞織縮緬 一反

白琥珀 一反

御包物<sup>揚枝入</sup>ニツ入 卷ツ

海布のり 十枚

右之通被下候、其内御反物ハ

宰相様并上様ヨリ御頂戴被成候御品ニテ

御包物ハ

御台様ヨリ御頂戴被成候御品ニ付キ、お悦へ被下候ト

ノ御口上迄モ致承知候、左候テ支度替ニテ再罷出候処、

段々御願筋致承知候間、相応ニ御受申上候、左候テ助

八・新介モ被召出、吸物一通リニテ盃事有之、直ニ料

理出、菓子・軽かんニテ、夫ヨリ家来之者席画共イタ

シ、其後庭へ出、押巻敷付有之候ニ付、暫時人通り見

物共イタシ候、最早桜モ少々咲出候ニ付、上荷船モ十

艘位帰リ船有之候、暮比ヨリ内へ参リ候処、段々御馳

走ニテ鳴リ物ナドモ有之、四ツ過御暇イタシ候、今日

拙者進上物ハ大鯛一折・鯉二尾・毛せん一枚・絵半切

一箱・煙具二組・箱入酒一樽進上イタシ候事、

一二月九日、今晚町田主馬殿・新納四郎右衛門殿・同次

郎五郎・同八郎兵衛・同三次・同彌太右衛門被参候テ

嫡家養子一件相談ニテ、都之城次男宗八郎殿モラヒ受

度致内決、イツレモ四ツ半時分帰リ也、

一二月十日、晴天、四ツ時福昌寺へ

(徳川家齊筆)  
廣大院様御忌日付

(島津斉彬)  
太守様

(島津斉興)  
宰相様御代参

着服熨斗目・半袴

(島津斉直)  
大慈院様御同断ニ付

太守様

宰相様御代参

(島津宗信)  
慈徳院様御同断ニ付

太守様御代参

宰相様御代参

但

御惣霊様江御代参

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤、別勤ニ付夫ヨリ月香院へ參詣イタシ、此所ニテ支度相替、用達茂右衛門并新納三次召列、吉野筋ヨリ下田村へ歩行ニ差越、磯井ニ伊敷之方へ一往掛込有之候井手之元ナト見物イタシ、夫ヨリ花野村へ差越瀧見物イタシ、淨光明寺役人所へ立寄り昼飯共給へ、夫ヨリ伊敷高野之瀬戸之方へ罷通り、妙谷寺下ヨリ草牟田筋罷通り、大鐘過婦宅候事、三次ニハ伊敷日当平ヨリ相別候也、

一今晚新納太郎左衛門被參候、訳ハ堅山武兵衛へ被仰付置候琉球館聞役附屬料一件ニ付、入組差起リ、書付共持參ニテ六ヶ敷事也、左候テ四ツ過被婦候事、

一二月十一日、摩文仁親方内意事有之參リ候、是ハ夜前新納太郎左衛門ヨリ承候聞役附屬料一件也、太郎左衛門当聞役断可申出トノ旨決着之由、然トモ琉人共ハ其通り有之候テハ当秋之琉人參府方用向モ不相弁候ニ付

穩便相成候様致取扱候様ニトノ旨摩文仁内願也、

一今日四ツ半時御供揃ニテ

上様磯江被為入御逗留也、

一八ツ後山田壯右衛門被參候、段々

御内沙汰之御用向有之候テ也、左候テ七ツ半時分被掃候事、

一都之城豊前殿へ用向左之通り相認今日差遣候事、

冷氣去兼不順之時季御地何様ニ御座候哉、乍去何レモ

様被為揃弥以御安泰被為渡、爰元ニテ御屋敷モ猶御安

康被成御座大慶奉存候、次ニ私共無異ニテ家中中息災

ニ御座候間、乍憚御安意被下置候様ニ奉存候、然ハ此

内ヨリ御便リ毎色々御丁寧成御品々被懸御意、中ニ茂

歳末彼是折節ニハ訳テ被入御念候御取扱共深々難有奉

存候、時々御礼等之儀モ行届不申乍存失敬之段ハ真平

御有恐被下置候様奉願候、扱ハ此内新太郎態々出府御

申付被差越御内慮之程モ細々承知仕、委細奉得其意候、

其後得ト私ニモ勘考仕候次第且成行旁別紙ヲ以申上候

全御内含被成置被下度奉願候、此等之段御礼旁申上置  
度如斯御座候、恐惶謹言、

二月十一日

駿河

豊前様

一私共嫡家新納四郎方訳合有之、養子之儀内々末家四郎  
右衛門ヨリ御近習役之内へ極内相伺候処、御末子様之  
御事ハ随分御聞濟ニ可相成御模様之由致承知、別テ喜  
ヒ申候事ニ御座候、然処御年増之御方ヨリ御順ニ御居  
リ着モ定候へハ、猶又御仕合之事ト面白キ御口氣モ相  
伺、一入末家中喜ヒニテ、私ニモ同意ニ御座候、乍然  
私ニヲヒテハ御縁約モ申上置候へハ、直様其向ニ願上  
候儀モ、第一豎馬場へ御対シ申上本意之儀ト奉存、  
次ニハ嫡家へ付テモ存寄申入置候事モ有之候ニ付、東  
郷一介へ書状差向御都合之程相伺候事ニ御座候処、東  
郷ニハ段々存慮モ御座候由、新太郎ニ付細々致承知、  
定テ其通御座候事ト推察仕申候、然処新太郎帰府以後  
私共類家中得ト及相談候処、弥以其御方御末子様之内

誰様ニテモ御モライ申上度、其ニ付テモ一ツニテ茂御  
年増之御方御モライ申上度念願ニ御座候、尤私ニモ其  
通之内願ニ御座候間、豎馬場之御方御都合サへ出来候  
ハ、ドフソ宗八郎様ノ方ニ御取向被下候得ハ、別テ  
難有奉存候間、偏ニ其筋ニ御都合御取向被下儀奉願候、  
勿論表向ハ御末子様ノ内誰様ニテモト申上、乍去御年  
増之方様ナラハ猶難有奉存候旨可申上候間、其段ハ宜  
敷御聞取被下度、内実ハ宗八郎様ヲ呉々願之事ニ御座  
候ニ付、此段極内御舍之為ニ申上置候間、表向別段申  
上候節、宜敷御汲取被下候様ニト奉存、前広私ヨリ奉  
願置候、以上、

二月十一日

駿河

豊前様

一別紙之通申上候付テ、宗八郎様ニ御取向被下候御返答  
承知仕候ハ、私娘御縁約之儀ハ御断可申上候、乍去  
其段ハ、誠ニ表向之御挨拶迄ニ御座候、訳ハ別紙ニ申  
上候通、豎馬場且ハ嫡家ニ付テ礼義相立不申候ニ付申

上候儀ニ御座候、夫ト申モ嫡家へ娘三人罷在候へトモ、  
参在旁トフモ御縁与出来不申候間、兎角外方ヨリモラ  
ヒ受ニ相成可申、就テハ何方ヨリモラヒ受候モ同シ事  
ニ御座候間、是迄御約束申上置候通ニテ思召寄不被為  
在候テ、矢張今通被成置度トノ御沙汰承知仕候ハ、  
私ニヲヒテ御断可申考ハ無御座候、此段ハ猶又極内々  
御含置被下度、ケ様成事ハ如何敷儀ナガラ、兼テ御懇  
意ニ付腹臆之底不残置申上候ニ付、御覽濟候ハ此書面  
ハ直ニ御サキ捨可被下儀奉願候、以上、

二月十一日

駿河

豊前様

一宗八郎様御事他所へ御修学之儀思召立御座候テ、私末  
家之彌太右衛門方へ御近習役之内度々被差向御相談之  
趣御座候処、当分京地・江戸表共異国人彼是之儀モ有  
之混雜之事ニ付、今少シ御見合御座候ハ、可然候半申  
上置候由、此内ヨリ始終私迄ノ内分承知イタシ候テ、  
私ニモ彌太右衛門同意ニ存申候、其上ニ別紙申上候通

嫡家養子之一条モ相決候上、御打立被下候儀内願ニ御  
座候間、弥嫡家養子ニ御聞濟相成候ハ、早速願出可申、  
左候ハ、當時

御在国之御事ニテ早ク相運可申候ニ付、其儀願濟ニ相  
成候上、則御発足御座候ハ、私共ニモ仕合之至存申候、  
尤家督タリトモ當時之御都合ニテハ少モ滞候儀ハ有之  
間敷存申候間、此段モ為御含申上置候、何トソ今二三  
十日位モ御見合被下候儀奉願候、是亦極内分申上置候、  
以上、

二月十一日

駿河

豊前様

右之四通相調差越候事、

一二月十二日、八ッ後岩山八郎太・豎山郷之丞召呼、琉  
球館附属料一件細々申達及吟味候、尤豎山武兵衛方へ  
引合之事ニ付、態ト郷之丞召呼聞セ置候、左候テ夕方  
歸リ也、

一二月十三日、朝、松崎彦兵衛招呼、琉球へ近日ヨリ渡海之上ハ彼是地之取締向細々申達置候事、

一二月十四日、同席之内下總殿・登殿・伊織殿・若年寄矢五太夫殿・大目付織部殿磯へ八ツ後ヨリ緩々被為召候、其外我々共五人ハ明日被為召候筈ニテ候事、

一今日八ツ後ヨリ谷村九郎右衛門拘地水上へ有之候ニ付右へ乗廻シニテ差越候、尤モ先日ヨリ亭主并ニ孫之進等ヨリ承居候故也、先方へ東次郎左衛門・三原善兵衛・三雲太郎左衛門・孫之進并ニ新次郎被參居候、彼之方參着ニ昼飯給へ、夫ヨリ屋敷内ヨリ模寄野原江歩行ニ出、暮比ヨリ酒事ニテ緩々イタシ四ツ過罷立候事、一右屋敷へ罷居候内、去十二月廿六日琉球ヨリ仕出シ飛船山川迄上着ニテ、夫ヨリ郷土牧之御用封相届候ニ付、則開封候処、在番郷原轉等ヨリノ御内用ノ問合ニテ、三司官座喜味病氣有之退役之儀、且ハ此方ヨリ掛合置

候聞合返答之趣等也、

一〔新納忠元〕笑蓮妙欣大姉様今日百五十年御回忌被為当候ニ付、於泉徳寺御法事致執行候様此内ヨリ申遣置、爰元ニテハ今朝興国寺役僧相頼御靈膳差上御経読誦為致、〔新納忠元〕者翁君ノサソナ春之御詠歌トモ拝吟イタシ候事、

一二月十五日、快晴、今日出勤、九ツ打直ニ退出、夫ヨリ磯へ罷出候事、尤モ当分磯江御逗留ニ付御座支之筋ヲ以

御出座無之候事、

一今日我々磯へ被為召候ニ付、九ツ打退出イタシ、田之浦松壽院殿へ先日之御礼旁罷出暫ニテ、夫ヨリ磯へ罷出候処、早クヨリ御釣リニ御出被遊候由ニテ八ツ半時分御帰リ被為在、暫御間有之、拙者迄御用有之、御目通願上候テ、表御休息所ニテ御用奉伺扣居候処、無程鶴之間へ一同罷出候様ニト御側役ヲ以致承知罷出候、此節ハ大奥相立居候ニ付、何事モ御年寄差引ニテ、

乍去御側役モ罷出被居候、直記・彦太夫ニテ候、今日

之人數伯耆殿・拙者・隼見殿・織部殿・龍衛殿ニテ候

日柄ニ付改服ニテ罷出 御目見仕候処、直ニ御敷込へ

着座仕候様承知仕、其通り罷出候処、則チ御茶被下、

然ル処今日ハ 御本丸ヨリ

(鳥津青衫女子)  
典姫様被為 入候御事ニテ

御目見等被仰付難有事也、左候テ服替イタシ候様 御

沙汰有之、平服上下ニ相成直ニ御庭拜見被仰付御屋敷

中諸所拜見イタシ、暮比ヨリ又々御座江罷出御吸物三

通・御酒・御取肴等種々被成下、後ハ

典姫様ニモ被為 出、御機嫌能御事ニテ御酌共遊シ被

下、数盃頂戴仕誠ニ難有事ニ奉存候、

典姫様ハ此内チト御身弱ニ被為 在候へトモ、今日久

々ニ得ト見上候処、至極之御丈夫ニ被為成、誠ニ難有

御事ニテ候、今日ハ種々難有被仰付御湯漬迄モ

御前ニテ被成下、左候テ御包物頂戴被仰付、夫限リニ

テ退座仕、御側役へ相付御礼トモ申上候テ退出仕候、

退座時分五ツ過ニテ四ツ時帰宅イタシ候事、

御包物之内

御巾着 一ツ 金モル

御紙入 一ツ 黒羅紗

袂落シ 一組 青鴈毛織

御煙草入 一ツ 雨紙製

硝子盃 一ツ

右之通ニテ、外ニ御酒之央ニ御屋敷製之コツフ沓ツツ

、御酒被下、夫限リニ一同ニ被下候事、

一今日我々進上物ハ御膳所へ相頼御肴并ニ御菓子進上仕

候事、

一今日相伺候御用ハ、去ル十四日限差上候様被仰付候海

防急務論ニ付、御側役名前有之書付有之、無拋

御直ニ差上、且又琉球へ下り船ヨリ詰役等へ空取リ替、

且ツハ預ケ金等之名目之事取止之事并ニ三司官座喜カ氣味

等ノ事共也、

一梅北宗右衛門・帖佐矢八郎等ハ毎日程清書且ハ中取之

加勢ニ被參候へトモ、詳ニハ不致筆記候事也、

一二月十六日、竹下覺左衛門被參候、是ハ拙者画像之書方頼置候間、下書持參被致候、然共イマタ似寄不申候、暫時罷在リ被帰候事、

一二月十九日、八ツ後高橋縫殿殿被參候テ、此節琉球詰見聞役以下ハ、船中ヨリ差出候祝儀料減少相成候ニ付テハ、詰役々至極難渋致候間、何トソ引替御心付等ニテモ被成下筋ハ有之間敷哉、此節渡海之横目岩下勇四郎・付役高崎權太夫・池田仲左衛門、書役橋元千藏・用達市來半之丞申談シ、縫殿迄内意申出趣有之、拙者へ申出候旨承候へトモ、何共返答難出来旨申入置候、乍去追テ何様トモ成行次第有之可然候半ト申達シ置キ候事、

一八ツ後ヨリ帖佐弥八郎被參候テ、写物加勢毎日程イタシ被與候へトモ細記略ス、

一二月廿日、朝、都之城ヨリ返札相届キ候、左之通、

華墨忝致拜見候、先以御全家御揃無御別条被成御座、奉欣喜候、随テ当方家内ニモ御同前罷在候間、御降意可被下候、陳ハ御嫡家為御養子三男具熊御貫可被下旨、新納四郎右衛門殿ヨリ役人小杉丹左衛門方へ御引合ニ及候段委曲超越候、就テハ御案内通余多之子供故相片付申度心願ニハ候へトモ、不容易儀ニ付見合罷在候処、前文之趣承喜入次第御座候、乍然御嫡家ニハ家柄之儀ニ付二男宗八郎ニテモ差上申度、愚存之儀ヲ鳥渡四郎右衛門殿迄申試候様役人方へ申遣候処、貴君御聞取被下候由ニテ、東郷一介方江之御手帖之趣何カ御深慮之儀有之哉ニ致推計候ニ付、最初四郎右衛門殿ヨリ御望之三男差上候筋ニ致内決、態ト新太郎差上候次第御座候処、御深慮御明シ被下候由、罷帰リ申聞候ニ付夫形ニテ罷居候処、此節宗八郎ニ候得ハ御仕合ニ付早速養子御願等被仰上候御舍之段致承知候、弥其御許御吟味通宗八郎差上可申候間、此段御納得可被下候、先ツハ

御札之御礼旁為可申上如此御座候、恐惶謹言、

二月十六日

島津豊前

新納駿河様

尚々御家内様方へモ御序ヲ以可然様御鶴声奉希候私出府之儀当春迄ハ相調不申、八月方ニ罷成候ハ、何レ出府イタシ彼是御直談申承度存候、

追啓

新納家へ宗八郎相統被仰付候時宜御座候而モ、是迄之通お悦トノ儀ニ付テハ御深慮之程篤ト汲受罷居候付、少シモ御懸念ニ及不申候間、御安心可被下候、以上、

副啓

別紙御細書之趣ニ付テ、直様任御存慮申儀当然之儀ニ御座候得共、去春之砌ヨリ為遊学上京之志願ニテ折々承候へトモ、不知顔ニテ打捨罷居候処、先般

太守様被 仰出候御一条ニ付、無利和申掛リ候趣御座候付、難默止世学ニモ罷成被存任其意致内定、新太郎出府序申上試候様申付置候処、御存慮之趣新太郎罷

歸リ候上細々申聞候ニ付、其意ヲ以致諭方候得共、適々見立之儀ニ付テハ残多存候向ニテ、彌太右衛門殿方へ一人差遣彼是御頼申入候由御座候処、彌太右衛門殿ヨリ近習役へ御存寄御達被下候由ニテ、委曲申越候ニ付、乍漸当月中見合候筋ニ致納得罷在候へトモ、何レ暫ハ上京為仕不申候テハ氣折ニ罷成、往々稽古方等之障ニモ罷成可申哉致心痛罷在候、右ニ付当八月迄限月ヲ以差登セ申度相含罷在候、新納家相統之上ニテモ相調申儀ニハ御座候得トモ、家格之勤方モ有之、且彼是差支モ御座候へハ、可成私二男之内差登セ度心願ニ御座候間、罷下候上御内約ト申所ニテ被召置被下候ハ、多幸無此上奉存候、此旨胸中不殘申上試候間、不惡様御及取被下度、乍然猶又御存寄ノ儀モ御座候ハ、無御心置被仰聞被下度、尤モ近々一介ニモ罷歸リ申賦御座候間、御直ニ御聞取可被下候、以上、

再白、宗八郎他国出之一条ニ付テハ、新太郎ヨリ御差留被下候様為申上儀共ニテハ有御座間敷哉、極内申上

試候、

右通申來候間則今朝返答差出置候事、左之通、

御細答三通被下難有拜見仕候、先以御全家様弥御安泰被成御座珍重奉存候、然ハ嫡家養子一件ニ付愚存之趣細々申上候処、宜敷御汲取被下御心決被成下候段委曲被仰聞、別テ難有喜入次第御座候、殊ニ娘儀迄モ御内舍之程被仰示、旁以御懇意不殘奉存候、先其内厚御礼申上置候、就テハ同家四郎右衛門近々打立御地へ罷出御内願申上度、先日ヨリ談合イタシ置候間、不遠御聞通可被下儀ト奉存候、其上ハ弥御内決之通御汲取被成下候様猶又奉願置候、扱又宗八郎様御遊学之儀ニ付テハ、彌太右衛門私等之存慮ハ申上候通御座候処、此節訊テ御深慮之程承知仕申候、就テハ御舍之通只今御庶子之内ニテ御打立被成候儀可然奉存候、其等ニハ少モ存寄申儀無御座候、御帰府之事九月ニ相成候テモ不苦御事カト奉存候、乍去御引結申上候上ハ表向願立モ早目ニ仕度候間、当冬比迄ニハ御帰府無之候テハ運ヒモ

不宜哉ト当座之存寄ニ御座候間、其辺ハ猶又御勘考被下度、何分ニモ只今之内御打立被成度、山々御内舍ニ付テハ無扱御考ニ奉存候間、此旨早々御答申上置度、誠ニ乱書ナガラ如是御座候、恐惶謹言、

二月廿日四時認

駿河

豊前様

尚々御家内様へモ宜御礼被仰上置可被下候、此方モ一同無異ニ御座候間乍憚御安意被下置度奉願置候、御返礼今朝四ツ前相届早速致拝披候、宗八郎様御打立之儀御差急ニ相見得候ニ付此旨則御答申上候、只今モ御用談客有之取込ニ付不束之書面ニ御座候へトモ、平ニ御用捨御推見可被下候、幾重ニモ宗八郎様へ御内決被下置候段ハ別テ難有奉存候、左様御座候へハ、猶又私ニモ一涯心之及万事御世話不申上候テ不叶儀ニ御座候間存(祝アルカ)分申上候、尤御遊学之儀新太郎ヨリ御留之筋ニ承候ニテハ全無御座候、彌太右衛門私等之内存不殘置申上候儀ニ御座候、遊学々々ト爰元諸士多人打数立申候、チ

ト私ニハ心配仕居候モ御座候、此段ハ御口外被下間敷候、以上、

右之通差急キ返答差出置候事、

一 二月廿一日、出勤毎之通、然ル処四ツ前江戸表先月末被差立候中急キ到着ノ由ニテ、豊後殿・休之丞等ヨリ御内用間合数通相達シ候、左候テ今日再聞ニ付九ツ前ヨリ伯耆殿・登殿・拙者・伊織殿一所ニ退出、評席済直ニ帰宅イタシ候事、

一 八ツ後ヨリ帖佐矢八郎并ニ用達召列、谷山中之塩屋へ硝石立場御引キ直シ之管ニテ地面見合之処有之、柏原川端ニテ候、右場所内見分トシテ差越夕方帰候事、

一 二月二十二日、豊後殿江戸表ヨリ赤銅地縁頭鏝、竹ニ

虎之細工目貫モ金ニテ、皆在銘之道具別段ノ志ニテ贈リ被遣候事、但縁頭ハ大森英昌作、目貫ハ柳川直春作鏝ハ赤銅七子地松ニ虎之細工無銘也、

一 二月二十四日、在番琉人品物持参ニテ見廻左之通也、  
覚

一 御扇子 一箱

一 金之火炉 一

一 十錦太碗 十

一 紺地鳴細上布 二端

一 鳴紬 二端

二月廿四日 新納太郎左衛門

摩文仁親方

右ハ去年<sup>(夏登徳)</sup>登夏橋船大島へ滞船ニ付、右ニ積入砂糖夫形差登セ相払候儀御免被仰付度、且去ル辰年江戸立之節、拜借金返上方冠船相濟迄之間延之願有之、都テ願通リ被仰付候御礼也、

一 二月二十五日、朝摩文仁親方・太郎左衛門同伴ニテ参

リ内意事承候、訳ハ産物方御調文品三割直上リニテ御買入、并ニ焼過砂糖五拾万斤重ニテ登セ之儀、年限ヲ

以御免被仰付置候処等合候ニ付、又々年限次之願意ナ  
リ、

一二月廿六日

上様当分磯御逗留ニテ、御乗廻シノ名目ニテ一昨日惣  
陣辺御狩有之、登殿御供被仰付、昨日ハ白濱辺御同断  
ニテ下總殿御供被仰付、兩日二十ヲ余リ御打留モ被為  
在候由、今朝鹿沓肢拝領被仰付候事、

鹿 沓肢

右被下相成候ニ付、御頂戴可被成候、以上、

二月廿六日

追テ御礼之儀ハ申上置申候、以上、

御小納戸

新納駿河殿

右之通被仰付候間御受書相応差出置キ、難有則チ拜味  
頂戴仕候、御礼モ今日申上候ハ、可然候ヘトモ、別勤

ニテ其儀不相叶、イツレ明日ニ差延置候事、

一今日終日細雨ナカラ、四ツ後ヨリ下總殿・福崎助八其  
外御軍賦役等迄召列、其内下總殿・助八ニハ拙宅へ被  
立寄候ニ付、九ツ打直ニ出宅、武村へ水車織機御引直  
シ木屋廻リ半方造立相成候ニ付内見也、来月ニモ成候  
ハ、織リ方モ出来候位ニ見得候、夫ヨリ中之塩屋本大  
射場跡之硝石丘見分トシテ差越候、是ハ是迄掛リ見聞  
役有川喜左衛門近々ヨリ大島へ渡海之筈ニ付、跡役伊  
集院四郎へ次渡候ニ付今日見分イタシ、先例之向ヲ以  
喜左衛門へ金千疋、四郎へ弍百疋、其外主取等へモ前  
々振合通祝料被下方、助八ヲ以取計置候、彼是ニテ暫  
時罷在引取候、今日終日細雨ニテ込リ入候天氣也、

一二月廿七日、出勤毎之通、昨日鹿一肢拝領被仰付候御

礼、今日御小納戸三原藤十郎へ相付申上置候事、

一今日七ツ時御供揃ニテ御船ヨリ御帰館之筈也、

一夕方大口郷士年寄有村隼治見廻リ候、尤モ先日ヨリ致

出府居候由土産品色々贈り候、左候テ有村先祖代ヨリ致所持居候、

(新納忠元) 忠元君之御真筆桐ツボ聞書横(折カ)行小本巻冊并ニ源氏題書

之小巻本一ツ、去々年頭致修覆遣シ置候品之内ニテ、

有村家へ由緒モ無之品ニ付、此節持参拙家へ遣シ置度

可申旨、隼治ヨリ差起リ申出候間、一往ハ辞退イタシ

候へトモ、強テ承候ニ付、左候ハ、モライ受置此方ヨ

リ証文ニテモ可遣置、左候得ハ夫ガ有村方ニテ証拠可

相成申聞候処、左候へハ別テ仕合之旨承候、隼治モ暫

時ニテ帰リ候也、

一 此節之御狩リニ取レ候鹿沓肢ツ、御小姓組番頭惣人

数へ被下、次郎四郎ニモ頂戴仕難有次第ニ奉存候事、

一 二月廿八日、朝、出雲殿御見廻リ被成候、明日ヨリ都

之城へ御帰郷被成候ニ付テ也、

一 今日出勤毎之通、昨夕方磯ヨリ

御帰殿被遊候御事也、左候テ今日山口直記ヲ以

宰相様当秋御国元へ御湯治之儀御願立之儀被仰上候ニ付、明日町便仕立候様被仰付候、尤定式中急モ差立候

筈也、

一 昨日有村隼治持参ニテ此方へ遣シ置キ候、

忠元君御真筆等之小軸等ニ付テ之証文相認メ差遣候事

証文

一 桐ツボ聞書横折小冊 一

但

奥ニ永禄四年十月日、新納刑部太輔忠元ト書記、花

押アリ、用紙二十四枚

一 源氏題書小軸 一

但

きりつばヨリユメノウキ橋迄題号迄書記シ、肩ニ三十七行ノ番付アリ、忠元名前等ハ無之、料紙堅

三寸三部位、長三尺四寸位

右式行忠元靈社真筆ニテ、其方先祖代ヨリ家藏ニ候得

共由緒モ不知候間、此方へ遣シ置度承リ、辞退イタシ

候へトモ訳テ承趣有之致受用置候、若哉後年其方入用  
茂候ハ、随分差返シ可申候、仍テ如是御座候、以上、

安政五年午二月廿八日

新納駿河

久仰判

有村隼治殿

一二月二十九日、朝、江夏十郎御用有之被参候也、

一今日東郷一介見廻、先日都之城ヨリ帰リ之由豊前殿伝

言段々ニテ、第一宗八郎殿嫡家へ養子一件、且同人此

涯他所へ学問稽古出立有之度趣ナト承候也、

一八ツ後養田傳兵衛昨日江戸ヨリ下着イタシ、豊後殿等

ヨリ御用向段々承リ候事、

一二月晦日、出勤毎之通、退出ヨリ滑河へ見廻リ七ツ過

帰宅候、明日

御直元服被 仰付候ニ付テ也、

一江戸御留守居被仰付候早川務事、先日出立之節祝儀旁

トシテ大鯉節一連・唐扇子一箱・藤縁菓子皿十・唐紙  
一帖差遣シ候、其節留後候付爲見合此ノ所へ記シ置キ  
候事、

一三月朔日、曇リ、五ツ前出勤、八ツ退出、今日島津矢

柄嫡子弥一郎・菱刈空之介嫡子莊之介・畠山主馬

御直元服被 仰付、弥一郎理髮伯耆殿、莊之介理髮拙

者、主馬理髮下總殿へ相頼候、其外初而之

御目見ハ勿論段々之御札等都合八十人余有之、皆首尾

能相濟、畠山家モ同断ニテ、拙者ニ至リ安心之事也、

一今日近隣伊集院周八御小納戸へ御役替被仰付候、是ハ

初役奥御小姓ヨリ被召仕、夫ヨリ身弱ニ有之御勘定方

小頭ニ転役、夫ヨリ寺社方取次郡奉行ト被仰付、奥ヨ

リ離レ候、以後二十ヶ年ニ相成候由承候事、

一八ツ後郡奉行相良角兵衛見廻リナリ、是ハ当春高岡之

町并ニ志布志之町大火有之候ニ付、拝借金願出之処、

先日高岡へ五百兩、志布志へ三百兩程拝借被仰付候御

礼也、

一三月二日、高輪御方御側役有馬舎人昨日下着ニテ今日罷出、毎之通

宰相様ヨリ之御意難有承知仕候事、

一今日琉球へ三司官之代役被仰付候儀ニ付、飛船差返シ候間在番郷原轉・守衛諏訪數馬へ書状差出候事、

一三月三日、五ツ過出勤、御定例通

御出座ニテ御祝儀有之、九ツ退出、夫ヨリ大奥へ罷上リ御祝儀申上置、退出ヨリ畠山家へ先日元服首尾能相濟候祝儀等ニ見廻リ、夫ヨリ重富御三居靜洞殿へ罷出御祝儀、且先日之飛脚便ヨリ申来居候勝山家取立之儀、此涯見合之筋被仰出候へ共、当分通家内ニテ靜洞殿御方へ御貰受御養育被成度御内願候得共、是モ故障差見得候儀ニ付、先暫ク之間御見合之方可然旨申上置、八ツ過帰宅候事、

一三月四日、朝、相良弥兵衛見廻候、明日出帆ニテ大島

へ御内用有之渡海イタシ候ニ付、御用談且暇乞也、右弥兵衛江餞別トシテ肴料金貳百疋・白地細島巻反遣シ候事、

一三月五日、高橋縫殿殿見廻也、是ハ明日出帆琉球へ渡海ニ付、暇乞且御用談旁ナリ、右ニ付此方ヨリ餞別トシテ纏節一連・五本入扇子一箱・繪半切巻箱・葉煙草十七八斤位差遣シ候事、

一御軍役方書役田代孫九郎事モ江戸へ致出立候ニ付、為餞別肴料金貳百疋・唐扇子一箱・白地島細上布巻反差遣シ候事、

一上様明六日ヨリ指宿へ御湯治トシテ御光越ニ付、今朝ヨリ用達茂右衛門事為差引遣候事、

一三月六日、五ツ前ヨリ

上様御乗切ニテ指宿へ御光越被遊候也、

一三月七日、朝清水源兵衛被參候、御内用之儀有之近日  
リ種子島へ差越候筈ニ付、御用談旁也、

一今日出勤、四ツ過ヨリ再聞へ下總殿・登殿・伊織殿・  
拙者一所ニ出席、御用済ヨリ拙者ハ明時館へ此節御作  
リ次等有之蘭学稽古所等御取立之

一思召ニ付、見分事等段々有之、福崎助八始メ御作事奉  
行等段々出会イタシ、九ツ過相済退席候事、

一今日八ツ時分田代太郎太召列犬迫村方へ歩行ニ差越、  
庄屋所へ立寄茶共給へ暫時ニテ罷立、夫ヨリ同村塩硝  
蔵トモ見分イタシ暮過帰宅候事、

一今夕方指宿ヨリ問合相届候、昨日九ツ半時分 上様御  
光着被遊候、騎馬御供迄被召列候、極々御乗切りニテ  
中途諸所御立場へモ不被為 入、右之通

御早着被遊候由也、

一三月八日、朝、茂右衛門参り、昨夕指宿ヨリ帰着ニテ  
候由旁首尾申出候事、

一島津帶刀殿事琉球へ守衛ニテ渡海ニ付キ、左之通餞別  
品遣候事、

一鯉節老連五本入

一扇子老箱

一絵半切一箱

一葉煙草十七八斤位

一三月十日、四ツ時福昌寺へ

一廣大院様

一 大慈院様

一 慈徳院様御忌日ニ付

一 太守様御代参

一 宰相様御代参式御代拝

但

御惣霊様江御代拝

着服ハのしめ式服紗勤也、

右毎之通相勤、帰り掛自分墓参等イタシ帰宅候事、

一 三月十二日、石原龍助見廻也、近日出帆大島へ守衛トシテ渡海ニ付暇乞、且ハ極御内用向有之候テ之事也、  
 一 今日東郷市介ニテ承候、宗八郎殿近日ヨリ遊学出立之由ニ付左之通申遣置候事、

暖和之時氣罷成、倍御安泰被成御座、御家内様モ御同様ニテ恐悦奉存候、扱ハ東郷市介婦リニ御伝言被下細々致承知候、嫡家四郎方養子之儀ニ付テハ、弥以宗八郎様ニ御取向被下候様奉願、其段ハ先比モ申上置一介へモ委敷申入置候間、疾御聞モ為被下管奉存候、此段ハ幾重ニモ奉願置候、右之御願旁ニ同家四郎右衛門其御地へ被參、謁可致トノ内含ミ御座候へトモ色々ニテ延引罷成居候、御引結之儀ハ其後何タル事モ不申上候ニ付、御案シモ有之候半、然レトモ私共方申談ニ付テハ少モ相替申儀無之候間、其段ハ不悪思召被居可被下候、四郎右衛門參謁延引之訳ハ、当家督四郎事于今内々三鉢堂滞在ニ御座候間、彼地へ四郎右衛門等差越、得ト子細申聞、何レモ落着ノ上其御地へ參謁奉願トノ

考ニ御座候間、三鉢堂へノ引合イマタ相濟不申、夫故致延引候外ニ訳合無御座候間、左様御安心被下度奉願候、今般宗八郎様御遊学ハ能御打立ト奉存候、殊ニ来ル十五日御出立之様今日一介ニテ致承知、サソく御当人様御氣進ミノ御事ト致遠察候、就テハ当地江御越ノ上御打立之御事ニ候半奉存居候処、直様夫ヨリ御出立之由旁御都合宜筋ト奉存候、折角無御障御遊曆御座候様具々奉存候、左候テ秋末初冬ニハ御婦家御座候処奉願置候、左候ハ、其内養子御免之儀奉願置、御婦家ノ上ハ早目ニ仰渡相成候所内働可致候間、左様ニ御内合被成下候様奉存候、其後何ノ御掛合モ不申上ニ付テハ、チト御心待モ御座候半哉ト此内ヨリ相考居候処、今日一介ニテ宗八郎様御発足之事ヲモ致承知候ニ付、此等之段旁御案内申上置度如斯御座候、恐々謹言、

三月十二日

駿河

豊前様

一三月十三日、松崎彥兵衛見廻也、明日出帆琉球へ渡海  
ニ付御用談且暇乞也、

一三月十五日、晚四ツ過時分江夏十郎ヨリ問合相達候趣  
ハ、指宿

御湯治先ヨリ重久玄碩被差返、彼地今日七ツ時分打立、  
歩行ナガラ至極差急キ只今江夏所迄參着、御用之趣ハ  
長崎へ被召置候

公義御用船蒸氣船へ、惣督始御役方并ニ蘭人等乗合、  
今朝山川へ乗入候ニ付、明日指宿ヨリ

上様ニモ山川へ御越被遊御覽筈ニ候、夫ヨリ鹿府前之  
濱へ乗入之賦被

仰付越、御手当向之問合ニ付、則御軍賦役并ニ書役へ  
申遣、追々招呼諸御手当取付居候処、玄碩・十郎ニモ  
拙宅へ参り、御軍賦役并ニ書役共ニ申談御手当ニ及ヒ、  
七ツ過時分ヨリ皆共御殿へ罷出、拙者モ仕廻イタシ無  
程出勤、猶又万事致御手当候事、

一三月十六日、快晴、今晚ヨリ御軍役方へ詰通シ罷在、

四ツ後ヨリ下町津畑御軍賦役方出張座相立候而、我々  
始御軍賦役并書役等都テ出張候、左候テ着船之上之取  
締向始蘭人等江之会釈向カタ／＼御手当共イタシ、蒸  
氣船着ノ上ハ御家老始誰ニテモ見置申度人ハ御役方へ  
相願、免許サへ有之候へハ不苦旨、其外諸辺重久玄碩  
へ被仰含越候間、重富之御父子・垂水之御家督ナトモ  
九ツ過ヨリ我々出張所へ御出被成、若年寄・大目付等  
モ無残ハツ後ヨリ被參候テ着船相待居候処、七ツ時分  
ヨリ喜入方遠沖へ相見得へ候、然ル処及承ヨリモ早ク  
近寄、追々帆形等モ大ク見得居候処、七ツ半時分ニハ  
新橋下へ入津、碇ヲ卸シ無程公儀御小人目付宮崎寛三  
郎ト云者一番ニ上陸イタシ候、旅宿ハ下町下会所之方  
新家作ニテ座敷間柄モ宜敷候間、右ヲ壱番宿ニイタシ、  
外ニ三軒手当相成居候処、右之宮崎下会所へ相着候処、  
直ニ蘭人モ五人程上陸イタシ候、惣督ハ勝麟太郎・伊  
澤謹吾トテ御旗本之由、其外乗組役方以下迄都合百二

十人余、蘭人モ拾九人カ之由、且又爰元長崎へ伝習方トシテ被差遣置候成田彦十郎・加治木清之丞・御船手者兩人乗込居、至極ノ多人數ニテ、御城下津畑へ蘭人等廻着ハ前代未聞之事ニ付、見物人夥數蘭人上陸之節ハ、諸士ノ若輩共ハ狼藉等敷次第モ有之、旅宿迄御軍賦役・御目付等ヤウ々警固モ出来候位ニテ列越候由早速右之御役々ヨリ届申出候次第、異国人公儀御役方等ニ付テハ何トカ沙汰モ有之候得ハ、無申訳次第ニテ、急度御外聞御難題ニモ相掛事候得ハ、誠ニ以及心配候事共也、仍テ早速及吟味、下町中見物人ハ都テ追払、都テノ町門占切リニイタシ、町内へモ諸所番所相立、横目・足輕等差置、往来モ改候テ嚴重致取縮候様御手当申渡候事共也、左候テ時分見合御船拜見イタシ度旨、成田彦十郎等ヲ以惣督へ申入候処、不苦旨ニ付、周防殿御父子并ニ垂水大目付以上御小姓与番頭等少々見置ニ參候処、最早日入時分ニテ船中暗ク相成、燈シ火ニテ少々見得候得トモ、委敷不相調残り多キ次第ナリ、

其節伊澤ハ上陸、跡ニテ勝殿手引イタシ被為見申候間致挨拶置、暫ニテ出張座へ引取、左候テ猶又夜廻リ其外万事取締向明日之事共御手当イタシ候、今日着船ニテ上陸之砌之混雜ハ難尺筆紙大切之境ナリ、依之前文之通町門シメ切り、夜廻リ等改候様旁之儀共、御軍賦役・御目付・書役等イツレモ今晚詰通シノ筈也、明日ハ磯御茶屋集成館内御見セ之筈ニ付、御手当繁雜ニテ候、拙者夜入四ツ前ニ引取候事、

蒸汽船乗組人數

御旗本之由

惣督 勝 麟太郎

伊澤 謹吾

乗組役方

萬年 恒次郎

榎本 釜太郎

木暮 東之輔

吉見 往之丞

伴 鐵太郎

江川方与力

拾五人

浦賀与力

朝比奈往次郎

箱館蕃所調役

竹川龍之介

蕃書教授方

田島 順輔

天文方

岸本惣次郎

浦賀与力

岡田 井藏

飯田親之介

柴田眞一郎

醫師

松元 良順

乗組

高松 力藏

伴殿内

杉浦雲次郎

木暮内

中村六之介

御小人目付

高松彦三郎

宮崎寛三郎

西洋通詞

岩瀬弥四郎

末永猷太郎

長崎御役所付

中尾 若次

山本 辰弥

肥前藩士

秀島藤之介

筑前内

大原 傳藏

和蘭人指揮役老人

一等士官 老人

二等士官 老人

三等士官 二人

下等士官 二人

水夫 十人

焚卒 一人

兵卒 一人

都合拾九人

合日本人百貳十人計

御国元之

成田彦十郎

加治木清之丞

(川内市)  
久見崎水主

貳人

右之通乗合居候事、

一三月十七日、快晴、朝五時出宅、磯御茶屋内集成館へ

出張候、今日蘭人初惣督以下御役方へ諸事御見セ之筈

ニ付、右之刻限ヨリ彼之方へ出席、尤田中仁右衛門・

江夏十郎・重久玄碩等之御役々一同出張也、尤昨日之

混雜ニ懲候ニ付、今日之取締大番頭・御小姓与番頭始

御目付・横目等之出役、別テ多人数無残付添之手配イ

タシ候、左候テ昼時分惣督兩人・蘭人五人其外役方多

人数、橋船ヨリ参リ掛祇園洲台場へ上陸、細々蘭人等

へ委敷見セ候テ習ヲ受候様ニ指宿ヨリ 御沙汰有之、

其通万事吟味ヲ受候テ、又々乗船ニテ御茶屋下ヨリ上

陸、集成館へ参リ彼所無残御見セ有之、焼物所迄モ参

リ候テ、夫ヨリ御茶屋之方ハ不差越候、右諸所之細工

方委敷見候テ、集成館日記所ニテ御酒并取肴・湯漬迄

モ被差出、一同喜悅之体ニテ緩々罷在、御品々給候中

程ニテ、船中へ初発残り人数モ参リ、皆々同様喜悅之

体ニテ酒共呑、日入時分迄ニハ惣引取相成リ候、往来

船ニテ今日ハ取締モ前文之通御目付・御裁許掛等迄モ

惣人数蘭人之跡ニ始終共ヒタト付添、実ニ差ハマリ候

へハ、少モ混雜無之先少シ安心之事也、

右之通磯惣引取相成候間拙者モ直ニ引取、小船ヨリ下

町へ乗廻リ出張座へ出席、左候テ始終之次第承候処、

今日橋船ニテ往来之事候得共、良英寺下辺ニテハ、何

者之仕業共不知蘭人乘組近ク磔<sup>ツ</sup>ナト參リ候由承リ、何分ニモ心配ノ事也、乍然明朝五ツ時蒸氣船出帆之筈ニ付猶事万取締、且御手当共申達、四ツ前拙者引取候事、尤今晚モ御軍役方始御目付等ハ詰通シ、夜廻リ等モ無油断為致候筈也、昨日暮前ヨリ町門シメ切り、船々出入モ差留候ニ付、太体取締リモ行届候、此節町門無之候ハ、何様ニ締リ出来可申哉、御先見被為在、町門被召立候儀ト奉感心候御事共ナリ、

一三月十八日、快晴、今朝六ツ過ヨリ出張座へ出席イタシ居候処、蒸氣船五ツ過出帆相成候ニ付、先ハ兎哉角無難ニテ、拙者始掛リ御役々一同大安堵イタシ候、左候テ船ハ至極走り早ク瞬息之内ニ喜入之方遠沖へ乗行候事也、此節蘭人等上陸之節、若年者トモ狼藉之事難尽筆次第ニテ、取締御役々モ実ニ大事出合候事カト存候テ、身命ヲ差ハメ候事之由候へハ、不容易訳合ニ付、今朝無難出帆相成御役々一同大慶大安堵之事也、左候

テ拙者共ハ御用相仕廻四ツ過出張座引取直ニ帰宅候事御軍賦役并ニ書役等ハ御殿へ出候様、左候テ指宿并江戸表等へノ御届旁仕出之手筈申達置候事、

一三月十九日、八ツ後ヨリ用達等相会、琉球へ音信物・百田紙其外之品々取仕立并書状共モ別段内証ヨリ仕出方イタシ候事、

一筆致啓上候、弥御堅勝被成御座珍重奉存候、然ハ去夏恩河親方事御用有之、使者勤ニテ上国<sup>ウラ</sup>之節ハ、御示談之趣殊焼酎壺被懸貴意被入御念儀忝存候、恩河親方下帆之砌御礼旁可申進之処、御用多ニテ取紛背本意候、此節別段申進候得共、猶又御礼旁別紙覚書之通致進覽之候、恐々謹言、

新納駿河

書判

三月廿日

玉川王子様

覚

素麵

一箱〔朱〕大坂製五色

煙草

一箱〔朱〕十二合入代金老歩

以上、

一筆致啓達候、弥御無異珍重存候、然ハ御在勤之砌段々御懇意、殊御帰帆後委細預御音信、且品々贈給御厚志忝存候、去夏御礼旁可申入之処、御用多ニ取紛御無音罷過候、仍テ御安否御尋旁為可申入、別紙覚書之通致進入之候、恐々謹言、

三月廿日

新納駿河

書判

與那原親方様

覚

扇子

一箱〔朱〕五本入絹真田緒付

団扇

一箱〔朱〕ぬり柄拾本入

煙具

一箱〔朱〕二組きせる共

白麻

三十帖

以上、

一筆致啓達候、弥御無異珍重存候、然ハ去夏御帰帆之

砌ハ船中不順相成、八重山嶋へ御漂着之由及御難儀候半、乍然無恙御帰着目出度存候、当地御在勤中ハ段々御懇意之程、殊ニ御帰着後御挨拶且品々贈給入御念儀忝存候、別段申入候へトモ、猶又御礼旁別紙覚書之通從内証致進覽之候、恐々謹言、

三月廿日

新納駿河

書判

浦崎親方様

覚

扇子

一箱〔朱〕五本入絹真田緒付

煙草

一箱〔朱〕十二合入代金老歩

団扇

一箱〔朱〕ぬり柄十本入

白麻

三十帖

以上、

一三月廿日、晴天、東郷一介武村之別荘ニ参り候様兼テ

承候間、八ツ後ヨリ参候、外ニ隼見殿・新納主税殿・伊集院周右衛門殿・二階堂源太夫殿・新納彌太右衛門殿等ニテ緩々イタシ、夜入四ツ時分打立列立婦候事、

一 三月廿一日、出勤、四ツ打切りニ退出、夫ヨリ再聞ニ出席相濟直ニ帰宅、

一 帰宅後伊集院周右衛門・二階堂源太夫ナト被参候、訳ハ夜前武罷リ立候節、源太夫事周右衛門之脇差ヲ被取違候由ニ付、断之為今晚周右衛門ヲ源太夫宅へ招キ候企有之候得共、周右衛門ハ泊リ番之由ニテ断ニ付拙者モ断申入置候、然共源太夫ヨリハ是非々々ト承リ候ニ付、左候ハ、今日早帰リニ付中之塩屋辺迄歩行之企イタシ置候ニ付、其所へ源太夫ヨリ一種一瓶持参被致候様申達置候也、

一 八ツ前出宅、中之塩屋辺迄歩行ニ差越、本大筒射場ノ先キニ有之新納彌太右衛門飯屋へ立寄り緩々休ミ候、尤新納主税殿・二階堂源太夫殿中途ヨリ追々出会候テ

列立候、且拙者ヨリ田代太郎太、主税殿ヨリ山口仲左衛門被召列候、然ル処源太夫ヨリ帰り掛ニハ是非立寄呉候様承候ニ付、日入時分打立婦リヨリ列合人数皆々参リ候処、先キ方へ隼見殿・東郷一介被参居候、第一之周右衛門ハ前文之通泊リ番ニテ断也、左候テ源太夫段々念入候取持ニテ、四ツ過何レモ列立罷婦リ候事、

一 三月廿三日、四ツ時福昌寺へ

(島津重豪室)

慈照院様御忌日ニ付

(島津斉彬)

太守様御代参

(島津斉興)

宰相様御代拜

但

御惣霊様へ御代拜

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤夫ヨリ月香院へ参詣、彼所ニテ致支度替、此所へ新納三次出会用達茂右衛門ニモ召列、内之丸ヨリ催馬楽筋、夫ヨリトコロ迫本田六左衛門屋敷等江歩

行イタシ、仮屋番所ニテ茶共給へ屋敷中諸所致見物、

夫ヨリ帶迫之方へ廻リ吉野村御薬園方へ立寄り、昼飯

共給へ緩々休ミ、夫ヨリタンタトフ筋罷帰り、智恵光

院下ヨリ乗馬イタシ大鐘比婦宅候事、

一今朝島津帶刀殿見廻有之候、明日ヨリ出帆琉球へ渡海

ニ付、暇乞且御用談旁也、

一今日福昌寺へ左之通申出置候事、

口上覚

大口

泉徳寺末

祥雲寺

瑞喜山

右ハ新納駿河先祖代々墓提所泉徳寺末寺ニテ御座候処

此以前泉徳寺無住等之時分、同所成就寺ヨリ寺務其外

モ支配有之、当時迄其通ニテ御座候、然ル処泉徳寺ニ

茂先比寺家廻都テ被致建替、殊ニ御寺直末寺成之願被

申上候処、其通被仰付、其上一所一ヶ寺同前被仰付難

有次第御座候、右通段々寺家取立被致候ニ付、末寺祥

雲寺之儀モ、以来泉徳寺ヨリ致支配候様被仰付被下度

奉願候、此段申上候様駿河被申付如斯御座候、以上、

但

祥雲寺由緒書相添差上申候、

午三月廿三日

新納駿河用頼代  
田代太郎太

福昌寺

御役寮

覚

大口

泉徳寺末

祥雲寺

瑞喜山

一開山泉徳寺三世玉隣和尚

但

昔年之宗派相知不申候、元和年間玉隣再興之由ニ

御座候、

一寺地二反六畦式歩

御免地

右之通ニテ外ニ何モ由緒相知申候事モ無御座候、此段成行申上候、以上、

午三月廿三日

新納駿河用頼代  
田代太郎太

福昌寺

御役寮

一三月廿四日、出勤、四ツ過ヨリ二之丸砲術奥向之人数

稽古御式日

御留守中不相替被仰付候間、罷出候テ七ツ過キ相濟直

ニ帰宅候事、

一当春雨潤別テ相少ク先日ヨリ催シ候ヘトモ、兎角日照之方成リ安ク当分早苗時分農民共至極込リ候由、路頭モ至而之塵埃強クノシ不申候事、

一三月廿六日、昨朝ヨリ降り出シ今日モ終日雨ニテ、農民共一同喜悅之事也、

一今朝岩下新之丞見廻ナリ、明日出帆琉球へ渡海之筈ニ付暇乞旁也、

一指宿御湯治先江伺御機嫌申上度、近隣伊集院周八へ相頼ミ今朝左之通仕出シ候事、

御肴料金二百疋

御菓子 二重 白木杉箱

小倉野饅頭

李目練羊かん

代金巻両余

右ニ付山田壯右衛門等江書状左之通、

一筆致啓上候、暖和之時季罷成其御地ニテ

上様弥御機嫌能御入湯被遊

御相応恐悅御同意奉存候、次ニ貴様弥御壯健被成御勤

仕珍重奉存候、扱先日ハ珍敷御用船廻着、折能

御光越中ニテ直様

御乘込御委敷御見置茂被為在候御様子奉伺候御都合之御儀ニ奉存候、私共拜見之儀モ重久ヲ以難有御沙汰奉伺候ニ付、廻船之当日申入候処、勝氏ヨリモ不苦旨ニ付、当日周防殿始我々同席中乗入候ヘトモ、其時分丁度黄昏ニテ船中暗ク相成居、存分之拜見出来申サスト残り多御座候、乍去勝氏始其外之口先キニモ、追々御目付ナトモ廻浦可有之咄モ御座候ニ付、又々廻船之節得ト拜見モ可致存申候、爰元滯船中之次第ハ重久等ヨリ御聞モ被成候半、彼は無調法之事モ有之奉恐入候、扱其御地ニテハ近郷之乗馬トモ御覽被遊、調練等モ最早

御視被下候御事カト奉存居候、当分私地頭所之事ニモ御座候間、貴様方ニモ何角ニ付御下知被下候儀共万々奉頼候、先日ヨリ快晴続キニテ御旅中之御都合ニハ宜敷御座候半、乍去余リ照統農民共込リ居候様子之処、昨朝ヨリ今朝迄テモ降続ニテ至極之潤沢一同之喜ヒニ御座候、扱此節 御滞在ニ付、地頭所之訳ヲ以一種進

上物仕、別段御内々奉伺 御機嫌度奉存候間、近隣之伊集院周八ヲ以御同役方へ相伺候処、随分可然トノ事ニ付、同人へ相頼進上物廻シ方頼置申候間、御地へ相廻リ申候へ、宜敷御取成被下、御内々奉伺

御機嫌候儀、何トソ御都合被成下候様奉願候、尤委細ハ御同役方ヨリ掛合ニ相成候様頼入置申候ニ付、旁御承知モ可被下、此段猶又御頼為可申上如斯御座候、恐々謹言、

三月廿六日 新納駿河

山田壯右衛門様

別紙ヲ以一寸申上置候、堅山ト新納太郎左衛門館内聞役勤附属料ハ、弥以九百兩ニ熟談相成、太郎左衛門ヨリ拙者方へ遣シ置候手扣書モ取返シ之儀、兩日跡ニ承リ申候、右ハ此内致承知候通ニテ相違有之間敷存候ヘトモ、弥決着相成申候間、鳥渡申上置候、吉井病氣モ此内ハ誠ニ以難有次第ニテ、其砌迄ハ繁々胸痛モ有之候由ナガラ、其以後余程平和之方ニ相成、当分ニテハ

樂之方ニ見得候由承候間、是亦一寸成行申上置候、以上、

一夜前五ツ時分江戸先月末定式中急キ到着之由、段々御用封相達候、且又右便ニ岩下佐次右衛門へ頼ミ遣置候鎧之粧束老領分相届候、尤紅糸打也、代金老両之由也、

一三月廿九日、七ツ後ヨリ町田主馬殿・名越彦太夫殿初テ緩々相招候ニ付、福崎助八・伊集院周右衛門・同周八ニモ相招候、取持トシテ蓑田傳兵衛・岩山八郎太・新納彌太右衛門・東郷一介等相催シ、緩々咄イタシ四ツ時分被帰候事、尤吸物三通リ、一汁三菜之料理・菓子・シグレ餅差出シ候位之会釈イタシ候事、  
一今日足袋御免之儀左之通願出候処、即願之通被仰付候事、

口上覚

<sup>〔朱書〕</sup>  
一足袋可被相用候、

三月

伯耆

私事兼テ足之痛有之、当夏秋中差発候節ハ足袋相用申度御座候間、御免被仰付被下度奉願候、此旨御申可被下候、以上、

午三月廿九日

新納駿河

右之通御用人堀四郎左衛門へ差出置候処、同人取次ヲ以被仰渡候事、

一四月朔日、終日雨、相応之降雨ニテ候、此内ハ照統ニテ田島干枯候ニ付雨祈居候処、先日ヨリ降り出シ候へハ連日之雨ト成、亦潤過候程ニテ、天地ノ都合モ込リタルモノト存候事、

一今日出勤毎之通、当月拙者月番也、下總殿此内ヨリ霧島へ湯治候処、昨日帰りニテ今日ヨリ出勤有之、湯治中地頭所高岡并差引大口之儀モ拙者預置候ニ付、今日次渡シ候事、

一指宿御湯治先江伺御機嫌トシテ御内々御肴料金貳百疋・御菓子二重物老箱進上仕度差迫置候処、則御披露相

成候段、今日山田壯右衛門ヨリ之返答相達候、難有都合也、

一 今朝汾陽次郎左衛門被參候テ、島津藤馬身弱ニテ当時調練方旁之当務難相勤候間、何トソ拙者推察ハ有之間敷哉之旨承候間相応答置候事、

一 今日在番摩文仁親方聞役太郎左衛門同伴ニテ見廻リ、

且品物左之通贈リ有之候ナリ、

覚

一 扇子 一箱

一 鍬銘火炳 一

一 紺地島細上布 二端

一 桧垣紗綾 二端桃色淺黄

一 龍紋緞子 一本

以上、

新納太郎左衛門

摩文仁親方

右ハ来ル申年封王使渡来ニ付キ、手当用トシテ焼過砂

糖五拾万斤定式重仕登願有之、冠船相濟迄之間願之通御免被仰付候御礼也、

覚

御扇子 一箱

御茶庫 一

藤御菓子皿 十

山東紬 一端

紺地嶋細上布 一端

綸子 一卷朽葉色也

緞子 一本滑也

以上、

摩文仁親方

右前条同断ニ砂糖重登セ並ニ去夏登楷船、大島へ致越年当春罷登候間、積入砂糖夫形ニ壳払候儀御免之願、

且聞役新納太郎左衛門勤方断之儀申出候へトモ、不相

替引統勤候方ニ被仰付度内願有之、都テ其通相成候御

礼別段之訳也、

一 四月五日、出勤毎之通、退出ヨリ興國寺へ御墓参イタシ候、今日ハ(新納久敬)唱岩院様・清心(新納久仰男子)惠祥童子正忌日ニ付テ也、  
婦リ掛島山家へ見廻リ七ツ半時分帰宅候事、

一 在番摩文仁親方見廻、且品物左之通贈リ有之候也、

覚

御扇子 一箱

椅子 一

石之御香炉 一

御花入 一 小振り也

紺地嶋細上布 一端

嶋紬 一端

毛御連掛 一着

白羅 一本

以上、

摩文仁親方

右ハ

(勲津所典)宰相様御位階御昇進ニ付、中山王ヨリ当夏以王子使者

御祝儀被申上候様被仰付候得共、琉球当時難波之以御取訳、当秋江戸立王子へ兼務被仰付候旨被仰渡候御礼也、

一 四月六日、寺社奉行御内用掛宮之原主計事、先月十八日方ヨリ病氣之由候処、今昼養生不相叶死去之由、尤一昨年比至極之大病ニテ、一往ハ全快程之由候得共、終ニ右次第候半、病症ハ極々ノ内損ニテ候由也、

一 四月七日、明後九日指宿ヨリ

上様御帰殿之儀被仰出候ニ付、今朝ヨリ用達茂右衛門事為差引遣候事、

一 今昼指宿ヨリ下總殿拙者へ山口直記ヨリ之御内用封相達候、右ハ京都原田才助ヨリ極内申上候異国人御取扱振り之、重キ御内用向ニテ候事、

一 八ツ後ヨリ打立、郡元村雲州伝木綿植付所并ニ牛掛溜池見分イタシ、中之塩屋硝石丘御引直場所へ差越致見

分イタシ候、此所ニテ福崎助八モ出會、郡奉行小倉與

右衛門其外地方檢者等相詰居候テ地面引立方ニテ、是

迄居住之者共モ今日引移リ候位之イマタ取付迄也、夫

ヨリ谷山町之下船入湊水咄候普請、去年手ヲ付置候場

所致見分候、此所存分能不相成候事也、夫ヨリ同所町

之是枝某所へ下總殿・登殿・伊織殿并書役等召列、多

人数乗廻シ相企被参居候ニ付、其所へ助八ニモ同列イ

タシ差越、緩々ニテ日入前打立掃リ候也、

右是枝所ニテ慰ノ為我々(体重)身体貫目何程可相掛哉トイツ

レモ斤量例イタシ候処、登殿一番高斤ニテ百四十斤、

二番拙者ニテ百二十六斤、三番下總殿百貳拾四斤ニテ、

其外少々ツ、皆下リ斤也、

一 四月八日、四ツ時福昌寺へ

(爲津齊宣卷)  
芳蓮院様御忌日ニ付

太守様

宰相様御代参

但御惣靈様江御代拜

着服々紗・小袖・半袴

右之通相勤夫ヨリ出勤、八ツ退出也、

覚

祥雲寺

右ハ其寺末寺ニテ候処、此以前其寺無住等之節、其許

成就寺ヨリ寺務其外モ致支配、当時モ矢張成就寺ヨリ

支配之由ニテ、此節新納駿河殿被申出趣有之、勿論其

寺末寺之事故、其寺ヨリ寺務其外何篇支配可被致候、

左候テ諸役割等之儀被相改可被相請取候、此段申渡候、

以上、

福昌寺

午四月八日

侍衣 回

大口

泉徳寺

一 四月九日、四ツ時南林寺

大中様

宰相様御階位御昇進付御代参

着服熨斗目・長袴

右之通相勤候、左候テ御靈膳下被差出候ニ付致頂戴候、直ニ退席候事、

一 九ツ前打立田代太郎太・梅北宗右衛門召列、横井少シ先キ街道之左脇石谷ノ内へ、去ル冬比領主町田監物殿自分仕立水車ニテ、油製且ハ木綿織機仕立有之、当分帆木綿織方イタシ候ニ付、為見物差越緩々罷在、昼飯共給へ夫ヨリ石谷之内へ罷通り、養蚕木屋等致見物、又々横井江出、本街道罷通り暮過キ帰宅候事、

一 上様今朝巳之刻指宿二月田御茶屋御立ニテ七ツ半時分御機嫌能御帰殿被遊候御事也、

一 四月十一日、用達茂右衛門事、指宿ヨリ今夕方罷帰リ候段、足痛有之名代ヲ以テ届申出候事、

一 四月十二日、出勤毎之通、明日ハ花尾山并ニ一之宮へ

宰相様御階位階御昇進之御代参相勤候筈ニテ、致手当置候処、巫墨利加使節一件京都ヨリ申来候儀ニ付テ御用

有之候間、明日ハ致出勤候様、左候テ右之御代参ハ若年寄へ繰替候様致承知候ニ付、隼見殿へ相頼候、隼見殿俄ニテ余程手当取込有之候半ナガラ、無抛左之通ニテ候事、

一 用達茂右衛門指宿之成行左之通申出候、御帰殿前ニ付

一 御肴 一折

一 白餅 一台

地頭代  
山口直記

一 伊勢海老 一台

一 白餅 一台

郷士年寄

組頭

右之通り御用部屋へ相付差上申候、

一 塩鯛 一台

一金百疋宛

一 白餅 一台

右之通山口直記殿へ差上申候、

一 御光着涯ニモ御肴等進上相成候へトモ、其節ハ同様之

振合ニ付留略ス、

一金貳百疋

御茶屋掛  
郷士年寄

上山善太夫

一 青銅百疋ツ、

右ハ此節就

御湯掛

御光越、昼夜詰通、殊ニ諸所御出先キ御用等致骨折

式人

候ニ付、別段御内々ニテ被下候、

右ハ昼夜詰通致精勤候ニ付キ、御内々ニテ被下候、

一金貳百疋

一金七百疋

郷士年寄  
御茶屋番  
脇田六兵衛

御茶屋掛  
郷士年寄

右ハ此節就

忝人

御光越、御茶屋向御用昼夜致精勤候ニ付、別段御内

右同組頭

々ニテ被下候、

忝人

右同横目

老人

右同郡見廻

老人

右同普請見廻

老人

浦役

式人

庄屋

老人

郷士年寄方

書役

式人相中

一青銅貳千疋

御用聞 六人

御門番 八人

十番 八人

用心番 十五人

右ハ此節就

御光越、万端致御用弁骨折相勤候ニ付、御内々ニテ被

下候、

一青銅五拾疋宛

御湯掛

平嶺 九助

右同野廻

上山喜右衛門  
鎌田矢太郎

一青銅百疋宛

網差

三人

右ハ此節就

御光越、骨折相勤候ニ付御内々ニテ被下候、

以上、

一西洋布 貳反

一同 三反

上山善太夫

脇田六兵衛

右ハ御内々ヲ以御小納戸方ヨリ被下候、

〔朱書〕  
「右脇田ハ御内々進上物イタシ候由付、上山ヨリモ反数相

重候半ト存候由、」

覚

〔朱〕  
「蔵方目付  
本指宿由良之浦人」  
黒岩政右衛門

指宿郷士年寄

脇田六兵衛

同所横目

永池吉右衛門

同所山留

前田九左衛門

右ハ二俣山ヨリ御茶屋内へ川水御掛入ニ付、掛被

仰付候事、

指宿郷士年寄

上山善太夫

右御手許計鯛網方掛被

仰付候事、

右之通段々難有被成下且ハ掛リ等被仰付候段届申出

候事、

一 四月十三日、出勤毎之通、昨日致承知居リ候異国人御取扱振之儀ニ付、存分申上候様トノ御事ニ付、拙者存慮左之通り相認メ差上置候、尤書付ニハ不及事候得共、只今拙者見居之成行ヲ申上置候、

墨夷御取扱振之儀ニ付、於京地堂上方上奏ノ趣有之、

被惱

被慮、関東表へ

御達之御旨被為 在候由、御内々承知仕居ニ付

御当国御手当向何様有之可然哉、存慮之程奉申上候様

被仰付左ニ申上候、

一 関東御取扱之事ハ、私式可奉存儀ニ無御座、何茂閉口

仕候、乍去是迄之御所置於京地御不安ニテ、以来御取

扱振相替候ハ、是迄之御条約御変易可相成、左候得ハ

異人共難題可申立ハ一定ニテ、猶応接モ六ヶ敷相成、

詰リハ争乱ニモ及可申哉、誠ニ不容易時機成立可申奉

存候、其期ニ至テハ、御当国三方洋海之御国柄ニテ、

一人防禦モ御嚴重不備置候テ不叶、勿論當時御手当專務被仰付候御事ニハ御座候得共、猶一涯実意ニ基諸所台場始大小砲御製造玉葉等大分被備置、調練等茂猶無油断被仰付候様有御座度奉存候事、

一 江戸御屋敷当分モ守衛人数被差登置、大小砲モ御手当之事ニハ候得共、是以今一涯御手厚被仰付候様有御座度奉存候事、

一 京大坂之儀モ、時機ニ依リ守衛人数不差出候テ不叶儀モ難計御座候間、是亦人数賦等被仰付度奉存候事、

一 御国之儀ハ前文申上候通、三方海岸殊ニ琉球島々ヲモ被相拘、余国ニ違ヒ候御国柄ニ付、万一及争乱候節ハ、江戸御屋敷守衛ハ何程モ御手厚被仰付、其外江戸近海防禦之儀ハ被及御断、御国中之御手当嚴重ニ被仰付候様有之度奉存候事、

右之通大意申上候、諸御手当只今ヨリ一涯御手厚被仰付度、尤今般京地

御評議之事ハイマタ關東御決着ニモ不至事ニテ、極御

内通申上候訳ニ付、押出シ及評議、若哉何カ故障筋到來仕、以後御内通之塞ニモ相成候テハ、第一御不弁之儀ト奉存候間、此涯至極内密之御取扱ニテ御手当向ハ只今ヨリ分テ御嚴重被仰付度儀ト奉存候、以上、

四月十三日

新納駿河

右之通今日下總殿・拙者

御前へ被為 召、細々

御沙汰モ有之、且ハ御問合モ被為

在候ニ付、心得之程ハ存分申上候、左候テ右書付モ差

上置候事、

一 四月十四日、晴天、東風少々、今日吉野馬追有之、

上様五半時分御供揃ニテ御登セ有之候、左候テ御帰リ掛老里塚之本ヨリ不時ニ辺路御通行、大興寺境内へ御通り抜、瀧之頭銃薬水車所へ被為

入、細々御見分被遊候由、今日ハ彼方人足共モ都テ暇

差出、馬追見物ニ差越居候処、中途ニテ不時ニ被為

入候段承付、駈付候者共十人余罷在、掃除方等ハ兎哉

角出来之由、見聞役竹下伊右衛門等罷出居候ニ付

御直ニ何茂御聞被遊候、至テ御都合ハ宜敷、大鐘比

御立被遊候段届承り、不時之事ナガラ御不都合ハ無之

由ニテ安心之事也、

一 四月十五日、出勤毎之通、月次

御出座被遊候事、

一 哲丸様御昇今日ヨリ御立初有之候事、  
(島津形男子)

一 四月十六日、出勤、九ツ時ヨリ二之丸御宝蔵へ差越御

金老万両出シ方イタシ候、此節京都一卷ニ付段々海防

御手当筋有之御入用金ナリ、御側役山口直記・御趣法

御用人福崎助八・御納戸奉行東郷藤兵衛等相詰候、八

ツ前相濟直ニ退出候事、

一 今日島津隼人大番頭へ、鎌田要人寺社奉行へ、島津藤

馬御勘定奉行江御役替被仰付候ニ付、皆見廻ニテ候事、

一 八ッ後ヨリ竹下覺左衛門・伊地知小十郎・新納彌太右

衛門被参候テ緩々之咄也、左候テ竹下江ハ拙者面体画

像頼置候ニ付、今日モ下書トモイタシ工夫被致候事、

一 四月十七日、八ッ後新納四郎右衛門被参候、去ル三日

打立三躰堂(彼園町)へ差越、四郎殿へ往々家督ニテ御奉公被致

候事太儀ニ存候間、養子モライ受追々隠居ヲモ被成候

ニテ御気楽之方可然トノ趣共、爰元ニテ末家中申談之

趣四郎殿へ申入方トシテ差越、其段委敷申入候処、四

郎殿無異儀承知被成候由ニ付、夫ヨリ都之城江差越、

豊前殿江宗八郎殿事弥以四郎殿養子ニ御貰受申度申入

候処、是亦速ニ御聞濟ニテ別テ仕合之至、左候テ彼地

へ緩々滞在、彼是申談イタシ、昨夕致帰宅候トテ首尾

細々被申聞、拙者共モ安堵イタシ候事、

一同刻ヨリ御軍賦役安田助左衛門・税所七郎右衛門等被

参候テ、此節京地一件ニ付、御軍賦備猶又御手厚不被

仰付候テ不叶訳ニ付、段々申談事ニテ夜入四ツ過被掃候事、其内御船奉行松本十兵衛事モ、先頃ヨリ長崎へ軍船乘行方等伝習トシテ、御船手之者共被召付出崎被仰付置候処、兩日以前帰着ニテ、今日拙宅へモ参リ、伝習之筆記、且ハ船中ノ諸事絵図面ナト段々持参有之候ニ付、助左衛門・七郎右衛門等何レモ打寄り致熟談候、左候テ松本ハ早目ニ被帰候事、

一 四月十九日、朝、田中源五左衛門・永山源兵衛・上井甚七・稻留良助・飯牟禮八郎列立被参候、何レモ昨夕佐土原ヨリ帰着イタシ候トテ届也、

一 今日出勤、八ツ退出、夫ヨリ下總殿列立二之丸調練方へ罷出候、七ツ過

上様再度之御出ニテ調練有之、大鐘過キ相済退出候事、

一 四月廿日、朝六ツ時過雨モ相応降り候へトモ、調練場へ出張候、今朝東目・西目・長崎御手当人数調練見分

之筈ニテ、下總殿・大目付主水殿等江モ出席有之候へトモ、雨降弥増シニ相成候故取止ニテ引取候、左候テ毎之通出勤、八ツ退出候事、

一 四月二十一日、出勤毎之通、今日モ

御前へ被為、召、御軍備一件段々被仰付、且吉川源左衛門へ御内用金網等之儀モ被仰付候段致承知候事、

一 八ツ後甌島移地頭國分十右衛門、明日ヨリ彼地へ差越候トテ見廻有之候間、彼是御用向申達置候事、

一 四月廿三日、七ツ後ヨリ安田助左衛門・税所七郎右衛門・木脇喜左衛門被参候テ御用談ニテ、四ツ時分被帰候事、

一 四月廿四日、出勤、八ツ退出、夫ヨリ二之丸調練方へ罷出候、七ツ過再度被為、入候ニ付直ニ罷出、先日ヨリ致承知候御軍備取シラへ事トモ段々御内慮奉伺候処

品々御差図被成下候事、

一 今日於御座鹿之間格ヲ以テ左之通り被仰付候、

新納駿河

右ハ、

哲丸様御事今般

御前様御養

御嫡子之御願被為濟候ニ付、御用向致取扱候様被

仰付候、

四月

下總

右之通被仰付候ニ付御受御礼申上置、御内証之御礼山  
口直記へ申上置候事、

一 四月廿五日、四ツ前大奥江罷上り候、訖ハ此節

哲丸様御嫡子之御願等被為濟候段、御家老御使ヲ以テ  
被仰進候ニ付、右之御使勤ニ候間罷出候処、直ニ御広  
敷御用人小森新藏出会ニテ、御客間へ罷出候様承候間、  
其通罷通候処、御茶・御煙草盆被下、御年寄永瀬出会

挨拶共有之候ニ付、直ニ同人へ今日御使勤御口上御嫡

子御願之通被

仰出候ニ付、私ヲ被

仰進候トノ趣一通申上候処承知仕候、御受宜クトノ御

取合有之候ニ付、拙者モ申上マセフトノ趣申上置候、

左候テ

哲丸様御都合宜敷候間

御目見致ス間敷哉之旨承リ候ニ付、何トソ其通被仰付

被下候様奉願候処、直ニ御座之間へ被為

入候ニ付、其御座ニテ

御目見仕候、至テ御機嫌能余程

御太リ被為付難有御様子奉伺候テ罷下り、同人へ相付

御礼トモ申上置退出、夫ヨリ出勤ニテ、御側役山口直

記へ御届等申上置候、

今日 拙者着服熨斗目・半袴ナリ、

右ニ付私ヨリ御内々御着一折進上仕候、

但

調方ハ御膳所へ相頼候事、

一 哲丸様御嫡子之御願被濟候ニ付、今日惣出仕ニテ御祝儀有之候事、

一 今日上様四ツ時御供揃ニテ磯之前辺へ御釣等ニ御出有之、夜入過

御帰殿被遊候由也、

一 今日夕方御年寄永瀬・花野ヨリ文ニテ左之通、

若殿様ヨリ御着・御酒拝領被仰付候事

御めて度今日之御祝ひニ

哲丸様より御内へ御まへ様へ

御めて度申まいらせ候様との御事ニ

被下候まゝ、御めて度御戴あそ

御座候、まつく御揃被遊

ハレ候様ニ存上まいらせ候、ま事ニく、

御機嫌よく入らせられ候御事

幾久しく方々年もと

御めて度さ御まえ様ニも何れ

御繁昌被為成御めて度のミ

御限り不被為在御悦く、あそ

御障りも御座不被成候御事、御めて度

ハし方々年もとめて度かしく

思しめし候、さ様ニ御座候へは

哲丸様御事此度御願之通り御前様

御養

御嫡子之御届ケ被為濟候御事、幾久しく方々年もと御

めて度さ、右ニ付先程ハ御美事成、

御着 一 おり

御進上被成、御歎ニ思しめし候、早速御ひらき被仰付

御賑々しく御祝く被遊候御事、いか程く御祝ニ思

しめし候、右御挨拶よろしく申候様ニとの御事ニ御座

候、

猶又

此

御着 一 おり

御酒 壹樽

誠ニ御そまつなからめて度

かしく

永瀬

花の

駿河様

人々御中

右之通小奉書二枚重二ツ折上包折掛イタシ、宛書同様

ニテ参り候間、左之通御請書サン出置候事、

返々御請迄申上まいらせ候、誠ニ

存寄り奉らす難有御取披被成下候、

御礼之段は、罷上り申上候へとも其内

御沙汰のよしニ而御文難有拜見申上

よろしき様ニ御取成頼みまいらせ候

まいらせ候、まつ猶幾久しくめて度

かしく

若殿様猶御機嫌御よく被為入、御めて度奉存上候、扱

今般

御嫡子様の御願かた御めて度被 仰出候御祝儀申

上度、誠ニ奉恐入候得共、御内々御着進上仕候処御挨拶

之趣御くわしく承知仕、何とも恐入有かたく奉存上

候、殊ニ今日御祝いニあらせられ候とて

御肴

一おり

御酒

一樽

拝領被仰付、是亦御くわしく被仰下之趣、幾久しく万

々年も御限りのふ難有頂戴仕候、御礼の事ハ則罷上り

申上奉り度候へとも、其内御請迄そなたさま方迄此よ

し申上まいらせ候、よふそ御取成被下置候様ニ、

くれ御頼申上まいらせ候、幾万々御めて度

かしく

新納

駿河

永瀬さま

花野さま

人々御中

右之通料紙小奉書二枚重七ツ折ニイタシ上包折掛イタシ、上包モ同様宛書イタシ差出置候事、

右之通不存寄難有被成下候ニ付、則相披キ家内何レモ打寄り御目出度幾久敷頂戴仕候事、

一 四月廿六日、出勤掛御広敷へ罷上り、昨日御着等拝領被仰付候御礼、御用人江相頼ミ御年寄へ相付キ申上候筋ニ取計被具候様頼置候テ、出勤毎之通、

一 今日出勤之処、御小納戸伊集院中一ヲ以テ、新橋下台場之儀ニ付、別テ御趣意違之筋ニテ大形之至致取扱候旨御叱り承知仕、誠ニ奉恐入候、仍則チ御軍賦役等右之台場へ差遣シ、且ハ田中仁右衛門心得等細々糺方イタシ候処、仁右衛門御答申上違候処ヨリ、大キ御趣意違ヒ相成候哉ニ事情相分り候ニ付、其段中二・仁右衛門等ヨリ申上候処、殊之外御機嫌御解ケ被下候段、中二等ヨリ承知イタシ誠ニ難有奉存候、暫時ハ何様ニ御断

申上候テ可然哉、大キ心痛イタシ候処ニテ、七ツ前迄相詰居候テ退出候事、

一 七ツ後堅山郷之丞被參候、内々宗門方御金五拾兩頂戴被仰付候御礼也、右ハ同人極々困究之由ニ付下總殿掛リニテ取扱被致候事也、

一 同刻黒岩政右衛門參候間致面会候、是ハ指宿之内水道方且ハ田良浦へ開地等

御手許計ニ被仰付置候御用筋有之候テ之事也、

一 四月二十七日、出勤毎之通、此節本多下總守様御隠居隱岐守様御死去ニテ、上様御從弟之続合ニテ一日御遠慮被遊候間、今日月次御礼罷出候面々伺御機嫌、出仕有之候事、

一 今日山口直記ヲ以テ京都關東惑乱之次第極内々ノ御書付、下總殿私兩人限り拜見被仰付候トノ事候ヘトモ、今日拙者拜見不相調候間、下總殿御預リ被致候、京地關東之御混雜大變之御模様此末如何可相成哉、誠ニ以

テ我々敷モ奉恐入配念之事也、

一 四月廿九日、一昨日下總殿御預被致候京地關東混雜之御書付、昨日拙者相受取り細々拝見イタシ候、今日御側役山口直記へ相付返上イタシ候、何共奉驚入候次第此末之御首尾如何可相成哉、誠ニ以治乱不定ノモトト奉存候程之事也、

一 今日海防急務論一結、山口直記ヲ以テ御下被下候間御預申上置候事、